

ノ三分二ニ相違ナキ實證ヲ得ハ其殘高三分一ヲ以テ事實ノ入費ニ供シ開業ニ取掛リ差支
ナキ哉否ヲ思考シテ後ニ開業免狀ヲ交付スヘシ○但國債頭ハ開業ノ上ニテ追テ其商業ノ
摸樣ヲ檢査シ賣主買主ヨリ差入タル証據金ノ合高ヲ見合セ凡其四分一ニ應スル丈ノ高ニ
資本金ヲ増加セシムルノ權アルヘシ

第二節 頭取支配人ハ開業免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ取引所ヲ開キ商業ヲ始ムヘキ旨ヲ
新聞紙ヲ以テ公布スヘシ

第七條

第一節 頭取副頭取肝煎支配人書記勘定方簿記方等都テ取引所ノ事務ヲ取扱フ者ハ取引所
ニ於テ株式ノ賣買本人或ハ仲買人タルヲ許サス
○肝煎ノ規則

第八條

第一節 毎年二月一日ニハ株主并ニ社員ノ定式集會ヲ催シ投名法ヲ以テ十人ニ下ラス二十
人ニ過サル肝煎ヲ撰舉シテ舊肝煎ト交代セシムヘシ○但シ此撰舉ハ株主并ニ社員ヨリ凡
ソ同數ニナスヘシ

第二節 肝煎ハ一ヶ年在職タリト雖モ撰舉ニテ重年スルノ理アルヘシ又事故アリテ欠員ト
ナル時ハ十日前ヨリ通達シテ集會ヲナシ新員ヲ補フヘシ

第三節 新肝煎ハ定式集會ノ手初ニ同寮中ヨリ頭取并ニ副頭取ヲ撰舉シ翌年迄在職セシム
ヘシ○但シ撰舉ニテ重年スルノ理アルヘシ又欠員ノ節ハ速ニ再撰シテ之ヲ補フヘシ

第九條

第一節 肝煎ノ會議ハ衆說ヲ採ル若シ可否ノ發言同數ノ時ハ頭取ノ發言ニテ之ヲ決スヘシ
○但シ會議ハ出席ノ肝煎ノ半數ニ下ル時ハ之ヲ初ム可ラスト雖モ差向タル事務ハ其限ニ
アラス

第二節 肝煎ハ金銀ノ出納家屋ノ營繕ヲ除ク外ハ何事ニ限ラヌ一般ノ事務ヲ評議シ時々
相當ノ規則ヲ設ケ又ハ之ヲ更正スルノ權アルヘシ

第十條

第一節 肝煎ハ毎月二ノ日七ノ日ヲ以テ集會定日トナシ毎月六回午前第十時ヨリ會議ヲ初
ムヘシ其會議スヘキ事務ハ之ヲ二類ニ分ツ如左

定式事務

(會議要件録ノ讀上ケ取引ノ報告社員并ニ手代ノ進退等ナリ)

臨時事務

(賣買ノ差違或ハ社員ノ間又ハ社外ノ人トノ間ニ起リタル申
件ノ詮議等ナリ)

肝煎集會ノ案内ニハ定式事務ト臨時事務トヲ區別シテ取引所ニ揭示スヘシ

第二節 肝煎ヘノ報告其他ノ書面ニモ皆姓名ヲ具フヘシ無名ノ書面ヲ出ス可ラス

第十一條

第一節 取引所ノ買賣差違ニ付社員ニ對シ社外ノ者ヨリ肝煎ノ取扱ヲ乞フト雖モ格別ノ情實ニ非レハ之ヲ取上ヘカラス但相手人(社員)前ニ願人(社外)ノ爲ニ仲買ヲ勤メタル時ハ此限ニ非ス

第二節 此場合ニ臨マハ社外ノ願人ハ肝煎ノ取扱ヲ乞フ廉ヲ以テ社員同様ニ肝煎ノ取扱ヲ相守リ決テ違背致ス間敷旨ノ誓詞ヲナスヘシ

第十二條

第一節 肝煎ハ同僚中不行狀ノ者アリテ職掌ヲ盡サ、ル時ハ事宜ニヨリテ其者ヲ免職スヘシ但シ肝煎中ヨリ商議掛ヲ命シテ其是非ヲ議シ次回集會ノ節肝煎ノ無名投書ノ法ヲ以テ三分二以上ノ説ニ從ヒ其可否ヲ決スヘシ

第二節 肝煎ハ又社員中ニ不正ノ所業ヲナシ規則ヲ犯シ肝煎ノ取扱ニ從ハサル者アラハ衆議ニヨリテ之ヲ除名スヘシ

第三節 肝煎ハ株主社員ノ手ニテ設ケタル私則慣習法ヲ廢止スル權アリト雖モ此權ヲ施スニハ先ツ集會ニテ之ヲ評議シ次回ノ集會ニテ決議スヘシ

○株主并ニ株手形讓渡ノ規則

第十三條

第一節 株主ハ何時ニテモ取引所ノ社員トナリテ諸公價株式證券等ノ買賣ヲナシ或ハ中買

ヲナスコトヲ得ヘシ○但シ五株以下ノ株主ハ常例ノ手數ヲ經サレハ社員タルコトヲ許サス且ツ株主タリト取引上ニ於テハ都テ之ヲ社員ト唱フヘシ

第二節 株主ハ肝煎ノ許可ヲ得ルニ非レハ取引所ノ株手形ヲ賣ヘカラス質入ス可ラス又其株ヲ質入トナシタル人ハ一切發言ノ權ナカルヘシ肝煎ニ撰舉セラル、コトヲ得サルヘシ

第三節 質入ノ株手形債主ノ方ヘ流込トナル節ハ舊株主ヨリ書面ヲ以テ肝煎ニ報告シ新株主ヘ讓渡ノ手數ヲナスヘシ

○社員ノ規則

第十四條

第一節 取引所ノ社員ニ新入シ或ハ復社セント欲スル者ハ毎年二月二日ヨリ三月一日迄并ニ八月二日ヨリ九月一日迄ニ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ此書面ニハ姓名宿所年齢商業等ヲ記シテ調印シ證人ノ連印ヲ要スヘシ

第二節 肝煎ハ毎年四月一日十月一日ニハ取引所ノ社員トナシテ相當ナリト思考スヘキ人物ヲ社員ニ新任シ或ハ復社セシムヘシ○但シ入社ノ期限ハ一ケ年限ト定メ毎年新任重任ト心得ヘシ尤身元金ハ金五百圓ト取極メ當日之ヲ支配人ニ差出スヘシ

第三節 社員望ミ人ハ取引所ノ株主或ハ社員ノ内ニテ二ケ年以上入社シタル三名ヲ以テ証人トナスヘシ此証人ハ望人新任ノ月ヨリ二年内ニ違約人トナル時ハ銘々金五百圓宛ヲ償

主ニ辨フヘキ旨ヲ肝煎ニ約スヘシ○但シ創立ヨリ二年間ニ社員タル者ハ社外ノ人ヲ以テ証人トナスコトヲ得ヘシ

第四節 望人既ニ四年ノ間取引所ニ於テ社員ノ手代ヲ勤メタル時ハ其証人ハ二名ヲ以テ足レリトスヘシ

第十五條

第一節 新任又ハ復社望人ノ姓名ハ証人ノ姓名ト共ニ選任前少ナク凡八日ノ内ニ之ヲ取引所ニ張出スヘシ○但シ望人入社ニ付故障ノ筋アリト思考スル者ハ其趣ヲ封書ニテ肝煎ニ報知スヘシ

第二節 証人ハ望人ト從來ノ知己タルヘキヲ以テ其身代向行狀等ニ付尋テアラハ逐一肝煎ニ報知スヘシ

第三節 取引所トハ更ニ關係ナキ諸會社ノ役人或者他ノ株式賣買所ニ加ハル者ハ社員タルヲ許サス若シ之ヲ隠シ他日露顯ノ節ハ違約人ト見做シ直ニ其者ヲ除名シ身許金ヲ返サ、ルヘシ

第十六條

第一節 一度破産ヲナシ或ハ借財滞ニテ公裁ヲ受クル者ハ其借財返濟ノ任法皖ト相立タル實証ヲ見ルニ非サレハ社員トナスヲ許サス若シ又分散兩度ニ至ル者ハ借財皆濟ニ非レハ入

社ヲ許サ、ルヘシ

第二節 二ケ年以上社員トナリテ此條例ニ違背セス申合規則ヲ破ラス又破産シタルトモナク只自己ノ都合ニテ除名シタル者再ヒ復社ヲ望ムキハ臨時ニ身許金ヲ納ムル丈ニテ別ニ證人ヲ要セス○但シ二ケ年以上ノ除名ナラハ新入同様ニ常例ノ手續ヲナスヘシ

第三節 申合規則ニ違背シタル者或ハ破産シタル者臨時ノ復社ヲ望マハ之ヲ取引所ニテ張出シ肝煎ヨリ商議掛ヲ命シ其借財向任法相立タル實証ヲ表スル爲ニ社員中ノ債主等ヨリ満足ノ趣ヲ記シタル連印ノ書面ヲ出サシムヘシ○此書面ニ詐僞アラハ規則通りノ取扱ヲ受ケ異存ナキ旨ノ證書ヲ當人ヨリ出サシムヘシ○但シ此望人一ケ年以上ノ除名ナラハ臨時ノ復社ヲ許サス常例ノ手續ヲナサシムヘシ

第十七條

第一節 社員タル者自己ノ都合ニテ除名セント欲スル者ハ三月一日又ハ九月一日迄ニ肝煎ニ申立身許金ヲ取戻スコトヲ得ヘシ

○社員組合規則

第十八條

第一節 毎年社員ノ撰任相濟タル上ハ速ニ社員組合目錄ヲ刊行スヘシ○但シ社員ハ互ノ申合ヲ以テ五人一ト組トナリ之ヲ肝煎ニ報知シ身許組合ト心得ヘシ

第二節 若此組合ノ一人破産スル歟違約人トナリテ破産ニ及ヒ尙ホ返金ノ仕法ニ十分ノ實額ナキ時ハ肝煎自餘ノ四人ヲシテ若干ノ金ヲ出サシムヘシ○右ニ付組合ノ者ハ互ニ忠告シ此條例並ニ申合規則ニ違背セサル様ニ心付ヘシ若シ組合中ニ不正ノ事アルヲ見當ラハ速ニ其趣ヲ肝煎ニ通達スヘシ

○社員手代ノ規則

第十一條

第一節 社員タル者其名代トシテ手代ヲ取引所ニ出サント欲スル時ハ書面ニテ其趣ヲ肝煎ニ申出ヘシ○此書面ニハ當人ノ宿所姓名年齢(廿歳未滿ヲ許サス)勤年限取扱フヘキ事務金銀取引ノ權ノ有無ヲ細記スヘシ

第二節 肝煎ハ此書面ヲ八日ノ間張出シ置異存ノ人ナキ時ハ會議ニ出シテ之ヲ承諾スヘシ此承諾ナキ前ハ決テ手代ヲ取引所ニ出ス可カラス

第二十條

第一節 手代ノ姓名ハ其主任ノ姓名ト共ニ取引所ニ揭示シ其主人ヨリ別ニ報知ナキ間ハ手代ナリト心得ヘシ○右ニ付手代タル者其主人ニ代リテ取結タル約定ハ都テ其主人ノ引受タルヘシ

第二節 手代ニ暇ヲ遣ハヌ歟或ハ其主任ノ權ヲ解ク時ハ主人ヨリ直ニ肝煎ニ報知シ肝煎ハ

其報知ヲ取引所ニ揭示シ其姓名ヲ取消スヘシ

第三節 主人除名セラル、時ハ其手代モ同様ニ出入ヲ禁セラルヘシ○但手代違約人トナルモ主人ヨリ其損毛ヲ債主ニ償フ時ハ手代ノ出入ヲ禁スル迄ニテ主人ハ尙ホ社員タルヲ得ヘシ

○取引所一般ノ規則

第廿一條

第一節 取引所ニ於テナスヘキ株式等ノ賣買ハ固ヨリ社員ニ限ルヲナレハ諸事申合規則ヲ遵奉スヘシ

第二節 取引所ニ於テ私ニ取引ノ約定ヲ結ヒ之ヲ公ニセサル社員ハ雙方トモ違約人トナスヘシ

第三節 他ノ社員ト約定ヲナシ之ヲ破リタル社員ハ違約人トナスヘシ

第四節 此違約人ノ姓名ハ頭取或ハ肝煎二名ノ差圖ニテ之ヲ取引所ニ張出シ其當日ヨリ出入ヲ禁スヘシ

第五節 違約人ヨリ内濟示談ヲ申來ラハ債主ハ之ヲ肝煎ニ申出協議ノ上ニテ其示談ヲ開届クヘシ

第六節 取引所ニ於テ公私ノ場所ヲ論セス手代タル者其主人ノ耳目ヲ忍テ不正ノ取引ヲナ

スノアラハ肝煎ハ事情ヲ探偵シテ其主人タル社員ニ忠告スヘシ若シ此忠告ヲ納レサル社
員アラハ肝煎ノ衆議ニヨリ相當ノ處分ヲナスヘシ

第七節 取引所一般ノ取締ニ關係ナキ差違社員ノ間ニ起ラハ肝煎ハ仲人ヲ命ジテ之ヲ和解
セシムヘシ若シ仲人ニテ處置シ難キ時ハ肝煎ノ一人之ヲ承リテ和解スヘシ

第廿二條

第一節 取引所ニ於テ取結タル賣買約定ノ取消ハ其約定ニ詐偽アル確證ナキ以上ハ肝煎ハ
其申出ヲ取上ケサルヘシ

第二節 取引所ノ證據金并代金ハ都テ銀行ノ切手ヲ以テ仕拂フヘシ若シ正金或ハ紙幣ヲ望
ム時ハ前以テ其約定ヲナシ置銀行切手ト引換ニテ之ヲ拂渡スヘシ

第廿三條

第一節 取引所ノ營業時間ハ毎日午前十時ヨリ午後三時迄ト定メ歲首國祭等一般ノ祝日ハ
休業タルヘシ

○取引所賣買ノ規則

第廿四條

第一節 都テ時日ヲ期セサル賣買ノ約定ハ現場勘定ト見做スヘシ此現場勘定ニ付差違起ラ
ハ必ス三日ノ内ニ肝煎ニ申出可シ

第二節 賣買ノ約定ハ十五日并ニ月末ノ日ヲ以テ仕切日ト定メ四仕切ヲ踰ユ可カラズ若シ
差違起ラハ其期日ヨリ七日ノ内ニ肝煎ニ申出ヘシ

第三節 肝煎ハ右ノ申出ヲ承リ其相手方ニ迫リ従前ノ約定ヲ履マシムルコトニ盡力スヘシ

第四節 約定ノ高ハ取引品ノ原價ヲ問ハス其日ノ相場實價ニ見合セ凡ソ百圓以上タルヘシ

第廿五條

第一節 約定日限ニ至テハ買主ハ午後三時迄ニ代價ヲ持參シ賣主ヨリ取引品ヲ買取ヘシ若
シ之ヲ怠ル時ハ賣主ハ右約定高ノ品ヲ他ニ賣捌キ其損毛ヲ前約ノ買主ヨリ拂ハシムヘシ
尤モ約定相場ト當日相場ト見合セ其間金ヲ出ス時ハ此約定ヲ解クコトヲ得ヘシ

第二節 約定日限午後三時迄ニ賣主ヨリ取引品ヲ賣渡サ、ル時ハ買主ハ前同様ニ之ヲ他ヨ
リ買求メ其損毛ヲ前約ノ賣主ヨリ拂ハシムヘシ尤モ間金ヲ出シテ約定ヲ解クコトヲ得ヘシ

第廿六條

第一節 賣買ノ相談ヲナシタル上ニテ之ヲ取引所ノ支配人ニ申出テ簿記ニ書載セ約定ヲナ
スヘシ此時雙方ヨリ證據金ノ半高ヲ支配人ニ差入レ殘半高ハ翌日午後三時迄ニ差入ヘシ
○若シ殘證據金ヲ差入サル時ハ其日ノ相場ニ見合セ前證據金ヲ以テ間金ヲ仕拂ヒ且ツ償
トシテ約定高千分ノ五ヲ違約人ヨリ相手方ニ拂ハシムヘシ

第二節 證據金ハ約定高ヲ當日相場ニ見合實額ノ二割五分宛(四分ノ一)ヲ賣主買主ト雙方

ヨリ差入ルヘシ尤モ相場ノ高低ニ應シ數度ニテモ増証據金ノ追差ヲ支配人ヨリ相達シ常ニ二割五分宛ノ高ヲ減損セシメサルヘシ
鑒ハ

某路鐵道株手形

百株(一株百圓)

此原價

壹萬圓

約定相場(一株ニ付九十六圓)

此實價

(百株ニ付)九千六百圓

此證據金

賣主差入高

貳千四百圓

買主差入高

貳千四百圓

第二節 取引所ニ納ムヘキ手数料ハ左ノ通タルヘシ

定期取引手数料

實價百圓ニ付

二拾錢

現場取引手数料

同

拾錢

○但シ仲買口錢ハ頼人トノ示談ニ任スヘシ

第廿七條

第一節 取引品ハ賣主ヨリ買主ニ對シテ其確實ナルコトヲ保証シ利息割賦金元金ヲ請取ヘキ

モノハ其手續ヲツケ一切難儀ヲ懸ケサルヘシ

第二節 買主ハ又記名ノ證券等ハ其手續ヲ歴テ之ヲ領收スヘシ若シコノ取引ニ付何様ノ難事差起ルル此手續ヲ歴サレハ肝煎ハ一切之ヲ取扱ハス都テ公裁ヲ仰テ其理非ヲ決セシムヘシ

第三節 記名ノ證券等ノ書替手續ハ至當ナル延引アラハ格別ナリト雖モ約定日限後十五日ノ内ニ賣主ニテ手續ヲナシ買主ヘ渡スヘシ但抽籤或ハ他ノ方法ヲ以テ時日ヲ定メ受取ヘキ元金利息割賦金等ハ假令證券類ノ書替前タリトモ約定日限ノ後ハ都テ買主ニ屬スヘシ

第廿八條

第一節 取引所ノ書記ハ當日前三ケ日間ノ平均相場ヲ執リ之ヲ當日ノ建相場トシ毎朝取引所ノ塗板ニ書出スヘシ

第二節 相場ハ高直低直平均直取引直ノ四類ニ分チ官許ノ新聞紙或ハ他ノ方法ヲ以テ毎日之ヲ世上ニ公ニスヘシ

○新公價新株式等賣買ノ規則

第廿九條

第一節 取式所ニ於テ新公價並ニ新株式ノ賣買ヲ承諾スルコトハ臨時ノ事務タルヲ以テ肝煎ハ臨時集會ヲ以テ之ヲ議決スヘシ

第十三類 株式

第二節 日本政府ヨリ發行スヘキ新公債或ハ地方官廳ヨリ發行スヘキ新債ハ大藏卿或ハ地方長官ヨリ其公債ノ全額年限約定利息名稱種類實價等ニ至ル迄明細ノ布達ヲ得ハ肝煎ハ直ニ臨時集會ヲ以テ其賣買ヲ公ニ承諾スヘシ

第二節 右ノ布達ヲ得ルト雖モ猶其計算ヲ明瞭ニ解シ難キ時ハ頭取或ハ肝煎ヨリ幾度ニテモ大藏卿或ハ地方長官ニ對シ細密ニ報告ヲ求ルノ理アルヘシ

第四節 此新債若シ社員或ハ他ノ銀行ノ類ニテ之ヲ引受ケ賣捌ヘキ約定ヲ政府ト結ヒテ之ヲ發行スル時ハ政府ノ布達ト約定書ノ正寫ヲ添テ肝煎ニ申出スヘシ

第五節 此新債ヲ發行スルコト若シ政府ノ急務ニ當テハ公債案内書込證書又ハ月賦入金請取書タリト本紙ノ證書同様ニ心得公ニ之ヲ賣買スルコトヲ承諾スヘシ

第三十條

第一節 新設會社ノ株式ヲ賣買セント欲スル社員ハ其趣ヲ書面ニ認メ肝煎ニ差出スヘシ

第二節 右ノ書面ニハ左ノ証書類ヲ添テ差出スヘシ
一新設會社ノ要件略記會社創立ノ目的發起人入金株數資本金總額入金月賦
一政府ノ條例或ハ開業免狀ノ寫
一會社定款或ハ申合規則ノ寫

一株手形或ハ抵當證書發行免狀ノ寫

一頭取支配人調印ノ株式帳

一書込濟株數ト書込未濟株數トヲ明細ニ記シタル書面

一得意ノ銀行ニ預ケタル金額

右ノ書類ハ確實ナルコトヲ証スル爲ニ其會社ノ頭取支配人一々之ニ調印スヘシ

第三節 肝煎ハ右ノ書面ヲ會議ニ出シテ可否ヲ決シ愈々公ニ賣買スルコトヲ承諾スヘシト決定セハ右株式引受ノ者ヲシテ書面ノ通ニ詐僞ナキ誓詞ヲナサシメテ後ニ何月何日ヨリ公ニ相場ヲ立官許新聞紙ニ之ヲ書載スルコトヲ許スヘシ

第三十一條

第一節 新設會社ノ目的創立ノ方法ヲ論セス猥リニ其株式ヲ賣買セン爲ニ社員ヨリ其株式ヲ取引所ニ新入セシメント謀ルコトアリ肝煎ハ是等ノ事ヲ兼テ嚴禁ト爲シ若シ之ヲ謀ル社員アラハ相當ノ處分ヲナスヘシ

第二節 前文ノ弊害ヲ預防セン爲ニ肝煎ハ新設會社ノ株式賣買ヲ許ス前ニ事宜ニヨリテハ見分ノ者ヲ遣ハシ其工業或商業ヲ檢査セシムヘシ尤モ其入費ハ肝煎ノ差圖ニ從ヒ望人ヨリ之ヲ解フヘシ

第三節 新設會社ニ限ラス從前ヨリ株式ヲ公賣スル會社ト雖モ肝煎ノ衆議ニヨリテハ右ノ檢査ヲ遣ハシ實際ヲ目擊セシムルノ權アルヘシ

○利益金積立金并ニ俸給ノ規則

第三十二條

第一節 銀行ニ預ケタル公債証書ノ利息ハ之ヲ取引所ノ利益金ニ加フヘシ○此公債証書ハ必シモ同種ノ証書ヲ限ルニアラス若シ抽籤ニ當リ元金ヲ請取ヘキ時或ハ他ノ事情アル時ハ實額ニテ同高ノ証書ヲ出シテ預ケ替ヲナスコトヲ得ヘシ

第二節 毎年六月十二月ノ兩度ニハ半ケ年間取立タル手数料ノ合高公債証書ノ利息并ニ其餘ノ利益ヲ合算シ其内ヨリ營繕修理商業ノ入費税金俸給等ニ至ル迄取引所ニ關係シタル一切ノ費用ヲ引去リテ後金ノ殘高ヲ以テ純益トナスヘシ

第三節 毎年二月一日八月一日ノ兩度ニハ株主等ノ總集會ヲナシ頭取支配人ヨリ半季商業ノ報告ヲ明細ニナシ其節純益ヲ株數ニ割合セ夫々ニ配當スヘシ

第四節 若シ此純益一ケ年一割(百分ノ十)以上ノ利息ニ當ル時ハ肝煎ノ集會ヲ以テ割賦高ノ内何分歟ヲ引去リ取引所ノ積立金ト爲シ置クヘシ

第三十三條

第一節 頭取副頭取肝煎ノ給料ハ株主ノ總集會ニテ之ヲ取定ムヘシ

第二節 支配人書記勘定方簿記方手代番人其外ノ給料ハ肝煎ノ衆議ニテ之ヲ取定ムヘシ
○税金並ニ報告ノ規則

第三十四條

第一節 取引所ヨリ納ムヘキ税額ハ開業後六ケ月間ノ實際報告ニ據テ之ヲ取極ムヘシ

第三十五條

第一節 取引所ノ頭取支配人ハ國債頭ニ左ノ報告ヲ出スヘシ

第一 取引所實際毎月報告

一ケ月間公債証書株手形抵當証書地券等都テ取引所ニ於テ賣買シタル品ノ合高ト平均相場トヲ記載シテ差出スヘシ

第二 取引所實際半ケ年報告

同上ノ趣ヲ記載シ二月一日八月一日迄ニ差出スヘシ

第三 同上一年報告

同上ノ趣ヲ記載シ三月一日迄ニ差出スヘシ

第四 利益金割賦報告

利益金一株ニ付何程ニ當リ積立金並ニ純益割賦高ヲ現ハシ配當ノ日ヨリ十日ノ内ニ差出スヘシ

第五 役人株主社員姓名表

姓名宿所商業株數等ヲ記シ四月一日ヨリ十五日ノ内ニ差出スヘシ

第六 頭取副頭取肝煎支配人上任報告

新任ノ度コトニ其印鑑ヲ添テ差出スヘシ

第三十六條

第一節 取引所毎日出納ノ金額証據金ノ出納取引ノ金高取引品ノ種類並ニ約定高ヲ明瞭ニ簿記シ日報ノ用ニ備フヘシ

第二節 凡ソ簿記ハ都テ口分ヲナシ極メテ明瞭ニ記シ置其筋ノ官員並ニ株主等ヨリ望ム時ハ何時ニテモ差支ナク之ヲ示シ明細ニ計算ヲ知ラシムヘシ頭取支配人尤モ其實ニ任スヘシ

○條例改正ノ規則

第三十七條

第一節 日本政府ハ此條例ヲ實踐セシメ若シ妨碍ノ虞アラハ便宜之ヲ改正スヘシ右之通相定候事

第一千六百六十三 明治七年十月廿七日布告

第百十五號

本年(十月)第百七號布告株式取引條例第三十五條取引所實際毎月報告ノ條中地券ノ二字刪除候條此旨布告候事

第一千六百六十四 明治八年七月十四日布告

第百十六號

明治七年(十月)第百七號ヲ以テ株式取引及ヒ同年(十二月)第百三十八號ヲ以テ米穀買賣相場取引等致度者ハ其管轄應ヲ經テ大藏省ヘ可願出旨及布告置候處自今右ノ手續ヲ以テ内務省ヘ可願出此旨布告候事

但株式取引條例中第二十九條ヲ除ノ外大藏卿トアルハ内務卿國債頭トアルハ勸業頭ト可心得事

第一千六百六十五 明治九年九月廿八日布告

第百二十四號

明治七年(十月)第百七號及ヒ同八年(七月)第百十六號ヲ以テ布告候株式取引條例中左ノ通改正候條此旨布告候事
株式取引條例

第一條第一節中

「内務卿ニ屬シタル勸業頭」ノ十一字ヲ刪除シ「内務省」ノ三字ヲ挿入ス

第二條第一節中

「内務省ニ」ノ下「寮ヲ設ケタル勸業頭ニ」ノ十字ヲ刪除シ第二節中「勸業頭」ノ三字ヲ刪除

シ「内務省ニ於テ」ノ六字ニ代フ

第三條第一節第五條第一節同條第三節中

「勸業頭」ノ三字ヲ删除シ「内務省」ノ三字ヲ挿入ス

第六條第一節中

「勸業頭」ノ三字ヲ删除シ「内務省ニ於テ」ノ六字ニ代ヘ「但シ」ノ下「勸業頭」ノ三字ヲ删除

シ「内務省ニ於テ」ノ六字ヲ挿入ス

第三十五條第一節中

「勸業頭」ノ三字ヲ删除シ「内務省」ノ三字ヲ挿入ス

第千六百六十六 明治十年十二月廿八日内務大藏兩省布達

甲第四十三號

明治七年(十月)第百七號ヲ以テ公布相成候株式取引所及ヒ九年(八月)第百五號公布米商會

所ノ儀今般更ニ大藏省主管ニ被屬候ニ付テハ從前營業ノ者並今後營業致度者共右營業ニ屬

スル願何屆等ハ總テ從前内務省へ差出シタル手續ヲ以テ自今大藏省へ可差出此旨布達候事

第千六百六十七 明治十一年五月九日大藏省布達

甲第十四號

今般太政官第八號ヲ以公布相成候株式取引所ノ儀ハ當分ノ内東京大坂ニ於テ一ヶ所宛ニ相

限リ候筈ニ候條爲心得此旨布達候事

銀行

第千六百六十八 明治六年五月卅日大藏省達

第八十五號

各地方於テ從前掛屋名義ノ者有之候處現今某縣銀行ト相唱掛札致シ候向モ有之趣元來銀行

ノ名稱ハ其條例ヲ踐候上ニテ紙幣寮ヨリ許可ヲ受相唱候儀ニ付銀ノ名目相唱ハ不都

合ノ次第ニ付私ニ銀行ト相唱候儀一切不相成候條各地方廳於テ不洩様相達右様ノ者有之候

ハ、早々改稱可申付候此段相達候事

會社

第千六百六十九 明治二年六月廿二日達

三都府諸開港場其他處々へ府藩縣ヨリ產物賣捌ト唱へ商會所取立役人出張米穀其外買シメ

致シ諸品追々不融通ニ相成商民一般ノ難澁不少候是マテ一定ノ商律不相立候ヨリ威權ヲ以

テ銘々勝手ノ商業取開甚以不都合ノヲニ付此度會計官中通商司ヲ被建追々商律御取設相成

候間右様ノ儀一切廢絶被仰付候此旨相達候事

酒造。絞油。味噌。醬油。

〔第一千七百一〕 明治五年十月七日布告

第二百九十九號

米大小豆其他雜穀ノ類ヲ以テ油製造ノ儘差許候條總テ絞油規則ニ照準シ可致取扱事

〔第一千七百一〕

明治八年二月廿日布告

第二十六號

明治四年(七月)布告酒造取締並ニ稅則及ヒ追々増補等ノ條共本年九月三十日限り相廢シ更ニ酒稅規則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事
但濁酒醬油醬麴ノ稅ハ本文同日ヨリ相廢シ候事

別冊

酒類稅則

第一則 營業稅 釀造稅

第一條 清酒味淋燒酎白酒銘酒(米雜穀果實何品ニ限ラス釀造シ又ハ蒸溜シテ酒トナスモノ一切酒造營業又ハ請賣(他ヨリ受賣候モノ)營業致度者ハ其管轄廳ヘ申立免許鑑札ヲ受ケ一期ノ營業稅トシテ一期毎ニ左ノ通上納可致事

酒造營業稅

壹種ニ付金拾圓

酒類請賣營業稅

金五圓

但營業免許ノ期限ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以一期ト相定候條右一期中何月ニ新規營業候共營業免許ノ節其一期分ノ全額ヲ直ニ納稅可致事

第二條 酒造營業ノ者ハ酒類賣捌代價拾分ノ壹(金壹圓ニ付拾錢)釀造稅トシテ年々上納可致事

致事

但價額ハ前年十月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ平均相場ヲ以管轄廳ニ於テ相定候事

第三條 釀造稅納期ハ每年四月三十日限り凡半方(前年平均相場比例ヲ以テ定ム)管轄廳ヘ上納殘金ハ七月ニ至リ平均相場確定ノ後上納九月三十日限り管轄廳ヘ皆濟可致事

第四條 酒造營業ノ者ハ其一期造高見込ノ石數每年十月中管轄廳ヘ可届出事

但營業初年ハ免許鑑札ヲ受候節直ニ其一期中造高見込ノ石數可届出事

第五條 請賣營業ノ者ハ酒類請賣所ト書タル看板ヘ免許鑑札ノ番號ヲモ書加ヘ戶外ニ掲ケ可申事

第二則 鑑札檢査 釀造檢査

第一條 免許鑑札ハ每年十月中管轄廳ニ於テ檢査ヲ遂ケ其一期免許濟ノ証トシテ鑑札裏面ニ千支ノ印ヲ押シ可相渡候條管轄廳ヨリ相達次第鑑札差出檢査ヲ受ケ營業稅上納可致事

第十三類 酒造。絞油。味噌。醬油

但廢業ノ者ハ其節鑑札返納可致事

第二條 免許鑑札若シ水火盜難等ニテ失却候節ハ其旨管轄廳へ届出新規鑑札可申受事
但手數料トシテ金貳拾錢可相納事

第三條 免許鑑札ハ貸借決シテ不相成事

但免許鑑札賣買讓與又ハ改名代替轉居等ノ節ハ其旨管轄廳へ申立候ハ、鑑札引換可相
渡尤前條手數料金貳拾錢可相納事

第四條 酒類拾石以上醸造高検査トシテ時官見計管轄廳主任ノ官員巡視可致候條検査前ハ
一切賣捌不相成事

但醸造高拾石以下並ニ拾石以上タリハ季節ニ拘ハラヌ醸造蒸溜ノ酒類ハ官員巡視ヲ待
ニ及ハス區戸長ニ於テ精製検査ヲ遂ケ其時々石數届出候上ハ賣捌不苦事

第五條 醸造稅管轄廳へ上納皆濟期限前非常ノ災害或ハ腐敗等ノ儀有之節ハ其旨直ニ管轄
廳へ届出主任ノ官員検査ノ上他ノ品類ニ變製シ販賣スル者ハ其賣代價拾分ノ壹ヲ上納シ
全ク廢棄ニ至ル者ハ其石數ニ係ル醸造稅上納ニ不及事

但検査濟ノ腐敗酒ヲ以テ有稅ノ酒類ニ變製候共其酒類ニ屬スル營業稅ハ別段上納ニ不
及事

第六條 若シ非常ノ災害或ハ腐敗等ノ儀其節届出スシテ検査ヲ受ケサル者ハ既ニ届出タル

石數ヲ以テ醸造稅上納可致事

第三節 賞罰例

第一條 免許鑑札ヲ受ケス醸造營業致シ候者ハ其酒類ハ勿論器械共取上ケ壹石ニ付金七拾
五錢ノ割ヲ以テ科料可申付事

但密造酒類既ニ賣捌候ハ、其代金取上ケ可申事

第二條 免許鑑札借受酒造營業致シ候者ハ前條密造同様處分致シ貸渡候者ハ一期營業稅五
倍ノ科料可申付事

第三條 醸造高検査ヲ受ケヌ又ハ検査ノ際醸造高ヲ隱蔽シ賣捌候者ハ其賣代金取上ケ密造
同様ノ科料可申付事

第四條 免許鑑札ヲ受ケヌ請賣營業致シ候者ハ一期營業稅五倍ノ科料可申付事

第五條 免許鑑札ヲ借受ケ請賣營業致シ候者ハ前條同様ノ科料申付貸渡シ候者ハ一期營業
稅ノ三倍科料可申付事

第六條 區戸長ニ於テ検査ノ節不正ノ取計致シ候歟或ハ不正ノ情ヲ知り見遁シ候儀有之ニ
於テハ律ニ照シ處分可致事

第七條 前條々ニ掲ケタル處ノ犯人ヲ見届訴出ル者アル時ハ事實取組ノ上相違ナキニ於
テハ其實トシテ科料金并ニ取上品拂高金拾圓ニ付壹圓宛下サルヘキ事

第千七百七十二 明治八年四月十二日布告

第五十七號

本年(二月)第廿六號布告酒類稅則中左ノ通改定候條此旨布告候事
酒類稅則

第三節 賞罰例

第二條 免許鑑札借受ケ酒造營業致シ候者ハ前條密造同様處分致シ貸渡シ候者ハ鑑札取揚ケ借受ケ候者ト同様ノ科料可申付事

第五條 免許鑑札ヲ借受ケ請賣營業致シ候者ハ前條同様ノ科料申付貸渡シ候者ハ鑑札取揚ケ借受ケ候者ト同様ノ科料可申付事

第千七百七十三 明治八年七月廿二日布告

第百二十二號

本年(二月)第廿六號布告酒類稅則第一則中左ノ通追加候條此旨布告候事

第六條 酒造營業免許ノ者自己釀造ノ外他ヨリ買受釀造場ニ於テ賣捌クトモ更ニ受賣營業稅上納ニ不及事

第七條 酒造營業免許ノ者一搦釀造場ノ外別ニ釀造場ヲ設クル時ハ其場所毎ニ更ニ酒造營業免許鑑札相受可申事

第八條 酒造營業免許ノ者釀造場外ニ開店シ右釀造ノ酒類ヲ賣捌ク時ハ受賣ニ準シ更ニ受賣營業免許鑑札相受可申事

第九條 酒類受賣營業免許ノ者一箇賣酒店ノ外別ニ賣酒店ヲ設クル時ハ其店毎ニ更ニ受賣營業免許鑑札相受可申事

第千七百七十四 明治十年十二月五日布告

第八拾壹號

明治八年(二月)第廿六號布告酒類稅則中左ノ通改正追加候條此旨布告候事

一 濁酒釀造營業ノ者ハ免許鑑札申受ケ營業稅每一期ニ付金五圓釀造稅賣捌代價二十分ノ壹(金壹圓ニ付)五錢年々上納可致事

一 酒類請賣營業ノ者從來御小賣ヲ論セス金五圓ツ、課稅候處向後御賣ハ金拾圓小賣ハ金五圓年々營業稅トシテ上納可致事

但御賣營業鑑札ヲ受ケ小賣兼候者ハ別段小賣營業鑑札ヲ願受ルニ及ハスト雖小賣營業鑑札ヲ受ケ御賣ヲ兼候儀ハ不相成候事

一 酒類營業人ノ中行商ヲナス者ハ行商鑑札其管廳ヨリ申受ケ必ス提携可致尤一戸一枚ニ限ラス願ニ依リ何枚ニテモ可相渡候條鑑札料ハ每一枚ニ付金拾錢ツ、上納可致事

一 酒類ヲ請賣スル者ハ假令飲食店ト雖モ請賣鑑札申受ケ營業稅上納可致事

第十三類 酒造絞油味噌醬油

九百七十三

一行商鑑札ハ貸借決シテ不相成候條若シ貸借スル者アルキハ其鑑札取上枚數ニ應シ鑑札料十倍ツ、ノ科料可申付右鑑札ヲ所持セスシテ行商ヲナス者ハ鑑札料貳拾倍ノ科料可申付事

第千七百七十五 明治十一年九月二十八日布告

第二十八號

明治八年(二月)第二十六號布告酒類稅則同年(七月)第百二十二號布告同則追加十年(十二月)第八十一號布告同則追加共更ニ左ノ通改正追加シ本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

明治八年第二十六號布告酒類稅則

第一則中

第二條 酒造營業免許ヲ受タル者ハ其造石數ニ應シ釀造稅トシテ年々左ノ通上納可致事

一 清酒(壹石ニ付)

金一圓

一 濁酒同

金二十錢

一 白酒同

金二圓

一 味淋同

金二圓

一 燒酎同

金一圓五拾錢

一 銘酒同

金三圓

第三條 釀造稅ハ每年四月三十日限り見込届石數ニ相當スル税金ノ半額ヲ上納シ殘餘ハ九月三十日限り皆納可致事

第二則中

第四條 造酒ハ地方廳主任官員檢査可致候條其時宜可届出候事

但本文檢査ノ外主任官員臨時巡回シ酒もと並ニもろみ其他酒造ニ用フル元米等ヲ檢査スルコト可有之事

第五條 釀造稅地方廳へ上納皆濟期限前非常ノ災害或ハ腐敗等ノ儀有之節ハ其旨直ニ地方廳へ届出主任ノ官員檢査ノ上他ノ有稅酒類ニ變製スル時ハ更ニ其酒類ニ屬スル釀造稅ヲ上納スヘシト雖モ全ク廢棄ニ至ルモノハ其石數ニ係ル釀造稅上納ニ不及候事

但檢査濟ノ腐敗酒ヲ以テ有稅ノ酒類ニ變製候共其酒類ニ屬スル營業稅ハ別段上納ニ不及候事

第七條 酒造營業免許ノ者ハ檢査未濟ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ飲料贈物等ニ供シ候儀ハ不相成候事

但檢査ノ後自飲等ニ供スル分ト雖モ其釀造稅ハ免除不致候事

第八條 清酒搾リ器械へハ主任官員ノ封印ヲ附シ置キ常ニ之ヲ用フルヲ許サス候條使用ノ

節ハ其旨届出開封ヲ請フヘキ事

第三則中

第六條 検査ノ際其造石數ヲ隠蔽シ未タ賣捌カサル者ハ其酒類ヲ取揚タル上壹石ニ付金七十五錢ノ割ヲ以テ科料可申付事

第七條 造石検査未済ノ酒類ヲ自飲等ニ用フル者アル時ハ其石數ニ係ル釀造税ヲ徴收スルハ勿論一石ニ付金七十五錢ノ割ヲ以テ科料可申付事

第八條 検査官ノ許可ヲ得スシテ猥リニ器械ノ封印ヲ解披スル者ハ金十五圓以下六圓以上ノ科料可申付事

明治八年第二百二十二號布告同追加ノ中

第六條 酒造營業免許ノ者ハ何種類ヲ問ハス他家ノ造酒ヲ買受ケ販賣スルニ於テハ受賣營業税可相納事

第七條

削除

明治十年第八十一號布告同追加ノ中

第一項中(釀造税賣捌代價二十分ノ一(金一圓ニ付五錢)年々)ノ二十一字ヲ削除ス
第九百七十六 明治八年五月廿九日大藏省達

乙第七十六號

府 縣

本年二月第二十六號ヲ以テ酒類税則御布告相成候ニ付別紙取扱心得書相達候條各府縣區無之様可取扱此旨相達候事

別紙

酒類税則取扱心得書

第一條 酒造營業免許鑑札并酒類請賣營業免許鑑札ハ凡積ヲ以テ租税寮へ受取方可申出事

第二條 酒造營業税之儀ハ其釀造セル種類ニ應シ壹種毎ニ金拾圓宛ノ營業税ヲ課シ請賣營業税之儀ハ一家幾種類ヲ請賣候共金五圓ヲ課シ何レモ年々收税可致事

第三條 酒造營業ノ者ハ酒類賣捌代價ノ拾分ノ壹釀造税トシテ年々上納スル成規ニ候處葡萄酒并麥酒(ビールポールエール)之類ニ限り右釀造税之分ハ追テ相達候迄當分免除之積

取計可申候尤營業税ハ成規之通收入可致事

第四條 酒類請賣ハ内外國産ニ不拘一切他ヨリ買取賣捌營業候者へハ假令他ノ業体相兼候分ハ總テ受賣免許鑑札相渡可申事

但藥店ニ於テ藥用ノ爲メ賣買候分并飲食店ニ於テ相用候分ハ此限ニ非ス

第五條 釀造税收入ニ相用フル酒價平均之儀ハ土地ノ景況ニ寄リ酒價高低ノ類別ヲ以テ豫テ管内ヲ貳部或ハ三部ト適宜ニ組合相定置新酒古酒ヲ問ハス甲年十月一日ヨリ乙年六月

第十三類 酒造、絞油、味噌、醬油

三十日迄賣却スル處ノ上酒眞價ヲ以月々相場書差出サセ一組毎ニ平均シ一期醸造稅收入ニ用フル相場ヲ定メ酒造人ニ相違スヘシ且右平均相場ハ八月三十一日限り租稅寮ヘ可届出事

但月々差出ス處ノ相場書若シ其當ヲ得サルモノアレハ賣買仕切書ヲ臨時検査シテ其價額ヲ定ムヘシ

第六條 酒造桶類即今所持ノ分ハ勿論自今新調并輪換減縮等ノ分共爲届出主任ノ官員巡廻調査之上其側面ニ左ノ件々ヲ掲載致スヘキ事

- 一 番號
 - 二 口徑何程
 - 三 底徑何程
 - 四 深サ何程
 - 五 石數何程
 - 六 調査ノ年號月日
 - 七 調査人官姓名
 - 八 縣廳燒印
- 但(地震用心ノ爲メニ寸ヲ減ス)

第七條 毎年醸造高検査ノ節ハ每桶掲載ノ石數ヲ以テ總石數ヲ定ムヘキ事

第八條 蒸溜酒類ニ用フル瓶ノ類ハ第六條ニ準シ調査方實際適宜ヲ以取極ムヘキ事

第九條 桶類之石數ニ充タサル減石ヲ造込シ分ハ其現實石數ヲ豫メ酒造人ニ爲申立尙實際ニ於テ検査ヲ迷クヘキ事

第十條 營業稅ハ十月三十一日限り各廳ヘ收入十一月三十日限り租稅寮ヘ相納手數料ハ鑑札書換引替之都度取立翌月々未限り租稅寮ヘ可相納事

第十一條 醸造稅ハ規則之通凡半方四月三十日限り收入五月三十一日限り租稅寮ニ相納メ殘金之儀ハ九月三十日限り收入十月三十一日限租稅寮ヘ可相納事

第十二條 酒類(醸造請賣)諸稅帳ハ十一月三十日限り酒類營業人員並醸造元石高帳ハ十二月廿五日限り租稅寮ニ可差出事

但一旦屆濟ノ石高増減有之分并右期限後新規免許候者ノ醸造元石高ハ其時々届出ヘシ

第十三條 免許鑑札検査シ營業稅取立之節相用フル干支ノ印ハ乙亥收稅如ク各廳ニ於テ彫刻致置相用可申事

第十四條 免許鑑札毎年検査ヲ遂ケ其年々相當セル干支ノ印ヲ裏面ニ押印シ餘白盡キタル上ハ更ニ新鑑札引換相渡スヘシ尤手數料取立ニ及ハサル事

第十五條 酒類(醸造請賣)免許鑑札元排計算帳ハ十一月三十日限租稅寮ニ可差出事
但廢業并引換ノ舊鑑札ハ甲年十月ヨリ乙年九月迄ノ分取纏メ租稅寮ニ返納致スヘシ

第一千七百七十七

明治十一年十月二十二日大藏省達

乙第五十一號

府 縣

今般第二十八號ヲ以テ酒類稅則改正増補ノ儀公布相成候ニ付テハ明治八年(五月)當省乙第七十六號達酒類稅則取扱心得書第三條及ヒ第五條同十年(十二月)當省乙第四十二號達同則取扱心得書第五項第七項刪除シ更ニ左ノ通増補候條此旨相達候事

酒類稅則取扱心得書増補

- 一 釀造檢査ハ收稅ノ基礎ヲ定ムル要件ニ付酒造家ニ於テ所用ノ諸帳簿ハ勿論其他遺漏無之様精覈檢査ヲナスヘキ事
- 一 釀造檢査前ニ於テ隱蔽等ノ弊ナカラシメンカタメ醜或ハ醜檢査トシテ主任官員臨時派出檢査ヲナスヘキ事
- 但釀造方法及仕込米ノ石數等爲申立置釀造檢査ノ便ニ供スヘキ事
- 一 醜又ハ釀造檢査着手ノ季節ニ至レハ豫メ土地ノ景況ヲ斟酌シ粗區域ヲ定メ置キ主任官員出張致シ居リ酒造家ノ申立次第摺リ器械ノ開封並ニ封印等ニ至ルマテ諸事不取締無之様取計ヒ申スヘキ事
- 一 酒もど並もろみ檢査濟ノ後未タ釀造檢査之ナキ前ニ於テ非常ノ災害ニ罹ルカ若シクハ廢敗等ノ儀之アル節ハ直チニ其旨届出サセ不取締無之様取計ヒ申スヘキ事

一 酒造營業人ニシテ酒造桶類ニ灌ク而已ニ蒸餾スル燒酎及ヒ味淋白酒銘酒等ノ製造元ニ用

フルタメニ釀造又ハ蒸餾スル酒類ニ限リ其營業稅並ニ釀造稅共收入ニ及ハサル事

但本文釀造又ハ蒸餾ノ酒類ハ其石數届出サセ詳密檢査ヲナスヘキ事

一 古酒並ニ買入レ酒ハ適宜取締方法ヲ設ケ該期釀造ノ酒類ト區分相立申スヘキ事

一 酒造免許ノ者廢業ノ後猶其殘酒ヲ販賣スルトキハ更ニ受賣免許證札ヲ下附スヘキ事

一 葡萄酒及ヒ麥酒(ビール、エール、ポールトル)ノ類ハ當分ノ内釀造稅收入ニ及ハスト雖モ營業稅ハ成規ノ通收入スヘキ事

第一千七百七十八 明治八年七月十九日大藏省達

乙第九十九號

府 縣

本年當省乙第七十六號ヲ以相達候酒類稅則取扱心得書第十二條中釀造元石高ト掲載有之「元」ノ字ハ削除候條元石高申立ニ不及製酒之石數見込申立サセ候儀ト可相心得候此旨相達候事

第一千七百七十九 明治八年九月十二日大藏省達

乙第二百二十二號

本年當省乙第七十六號ヲ以テ相達候酒類稅則取扱心得書第五條中新酒古酒ノ下ニ「卸賣小賣」ノ四字三十日迄ノ下ニ「酒造家ニ於テ」ノ六字ヲ加ヘ候條此旨相達候事

第十三號 酒造絞油味噌醬油

九百八十一

第一千八百八十一 明治十年十二月十三日大藏省達
乙第四十二號

府 縣

今般第八十一號ヲ以酒類稅則中改正追加公布相成候ニ付取扱方左之通可相心得此旨相達候事

一明治八年五月乙第七十六號達酒類稅則取扱心得書第四條但書除去候事

一酒類營業免許鑑札ハ製調之上追テ相渡候條凡積ヲ以租稅局へ受取方可申出尤差向各廳ニ於テ適宜假鑑札ヲ製シ相渡置本鑑札受取之上引換相渡可申事

一酒類行商鑑札ハ第一號圖ノ如ク各廳ニ於テ木札ヲ製シ相渡可申事

但本文鑑札失却スル歟又ハ改名代換リ等ニテ引換願出候ハ、更ニ鑑札相渡定規ノ鑑札料每一枚ニ付金拾錢ツ、可收入事

一酒類受賣鑑札ハ第二號圖ノ如ク各廳ニ於テ彫刻シ受賣鑑札表面ノ右側へ加押シ相渡可申事

一各酒釀造稅ニ用ユル酒相場之儀ニ付會テ組合相定何郡々々ト一組ニ相成居候分毎組何號トナシ其地名等委詳可届出又實際ノ都合ニ因テ組合變更候節者其都度可届出事

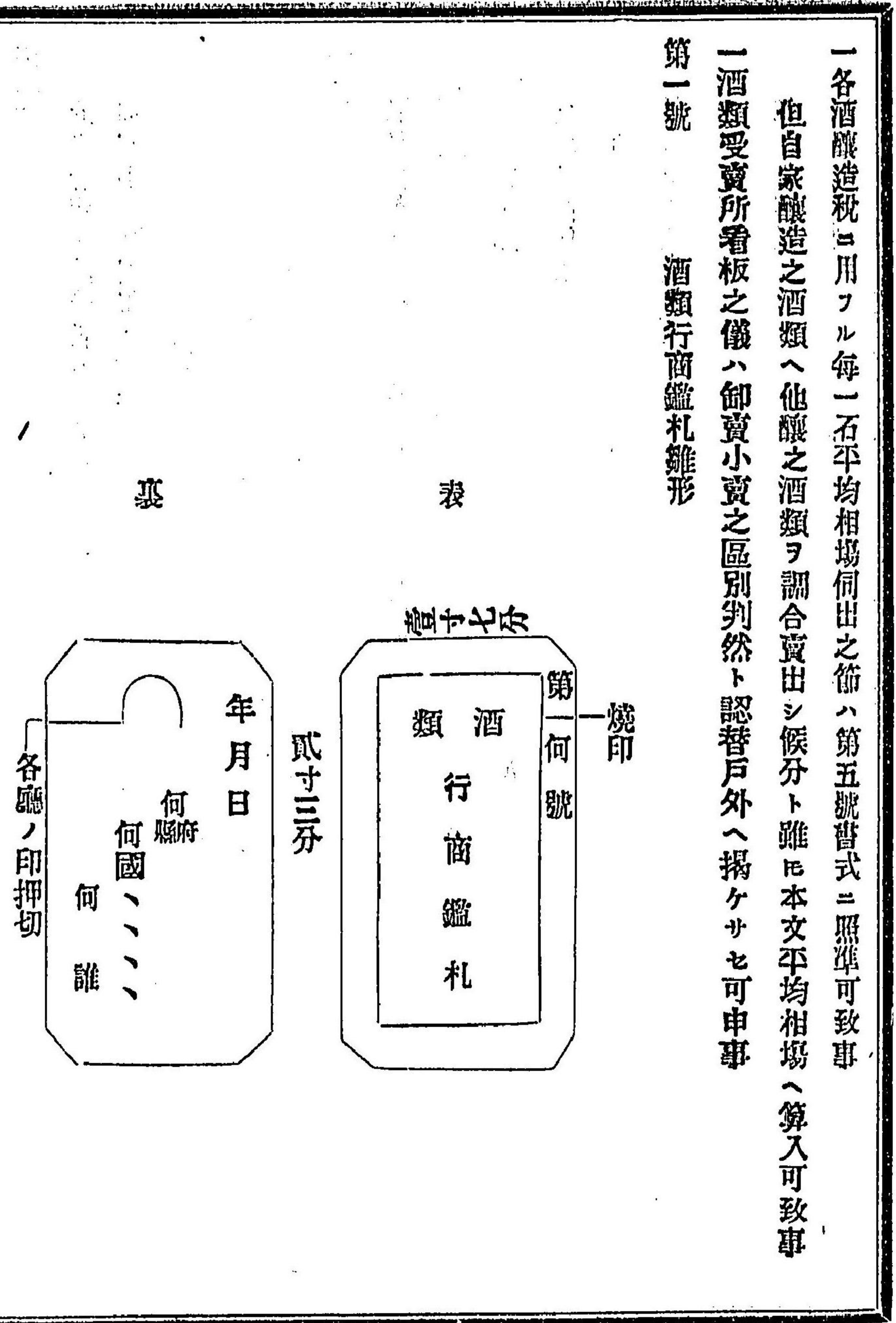
一明治八年六月乙第八十四號達シ中酒類營業人買并釀造石高帳内譯認方ハ第三號書式之通リ酒類(釀造受賣)諸稅帳之内酒類受賣營業稅之廉内譯認方ハ第四號書式之通リ改正候事

一各酒釀造稅ニ用フル每一石平均相場伺出之節ハ第五號書式ニ照準可致事

但自家釀造之酒類へ他釀之酒類ヲ調合賣出シ候分ト雖モ本文平均相場へ算入可致事

一酒類受賣所看板之儀ハ卸賣小賣之區別判然ト認替戶外へ掲ケサセ可申事

第一號 酒類行商鑑札雜形



第十三類 酒造絞油味噌醬油

第二號

酒類受賣免許鑑札へ可加押
卸賣小賣區別印ノ雜形

中
卸
賣
八分

中
小
賣
八分

第三號

酒類營業人員并釀造石高帳内譯認方雜形

一清酒造

内新規稼

何人
何人

此釀造高何石

此譯

第壹號釀造高何石

第貳號同斷

第參號同斷

第肆號同斷

第五號同斷

外

廢業

何人

味淋造其外右ニ準シ認ヘシ

一酒類請賣

此譯

何人

卸賣

内新規稼

何人

小賣

内新規稼

何人

外

廢業

何人

第四號

酒類(釀造受賣)諸稅帳之内酒類受賣營業
稅之餘内譯認方雜形

第十三類 酒造、絞油、味噌、醬油

一金何程

酒類受賣營業稅

內

金何程

御賣何人

營業稅

但(壹人ニ付金十圓)

金何程

小賣何人

營業稅

但(壹人ニ付金五圓)

金何程

鑑札何枚

再渡手數料

但(壹枚ニ付金二十錢)

金何程

鑑札何枚

引換手數料

但(壹枚ニ付金二十錢)

金何程

行商鑑札料何枚分

但(壹枚ニ付金拾錢)

內

金何程

漸規渡鑑札料

金何程

再渡鑑札料

金何程

引換鑑札料

第五號

明治何年十月ヨリ同何年六月迄

各酒每壹石ニ付平均相場之儀ニ付伺

一第壹號上清酒每壹石平均相場金何程

一第貳號同斷

第三號以上并各酒相場之義モ右ニ準シ認ムヘシ

第千八百八十一

明治十年十二月十九日大藏省達

乙第百四十五號

府

縣

今般第八十一號ヲ以酒類稅則改正追加公布ノ儀ハ總テ明治十年度ヨリ施行候儀ト可相心得且同公布中酒類ヲ請賣スル者ハ假令飲食店ト雖モ云々ト有之ハ飲食店等ニテ酒類ヲ買入置來客ニ供スル者ノ儀ニ候條酒類受賣鑑札爲相請候儀ト可心得此旨相達候事

第千八百八十二

明治七年十一月廿八日大藏省達

第十三類 酒造絞油味噌醬油

九百八十七

乙第二十七號

酒造規則中免許稅ハ其一期ノ免許ト相心得一期內新規ニ免許受ケ直ニ釀造スル者ハ定額之免許稅上納可致此旨相達候事

但一期分ノ免許受候後ハ假令他ニ讓渡候ハ其一期中ハ讓受人ニテ別段免許稅上納不及候事

第千八百八十三

明治六年四月廿四日大藏省達

第六十七號

陸羽邊僻邑ニ於テ防寒ノ爲メ自飲ノ濁酒五升又ハ一斗位釀造致シ候ニハ酒醬ヨリ釀成候テハ容易ニ無之ニ付醬麴屋ト唱ヘ酒醬ノミ釀造營業ノ者多ク有之右ノ者ヘハ清濁酒同様免許釀札相渡稅金ノ儀ハ清酒造ノ半減收稅致シ全自飲ノ濁酒聊釀造候者ハ免稅致シ有之就テハ各府縣トモ右醬麴營業ノ者有之候ハ、同様免許釀札可相渡ニ付可申立尤甘酒又ハ麴ノミ營業ノ者ハ追テ一般ノ稅則御確定マテ申立ニ不及此段相達候事

第千八百八十四

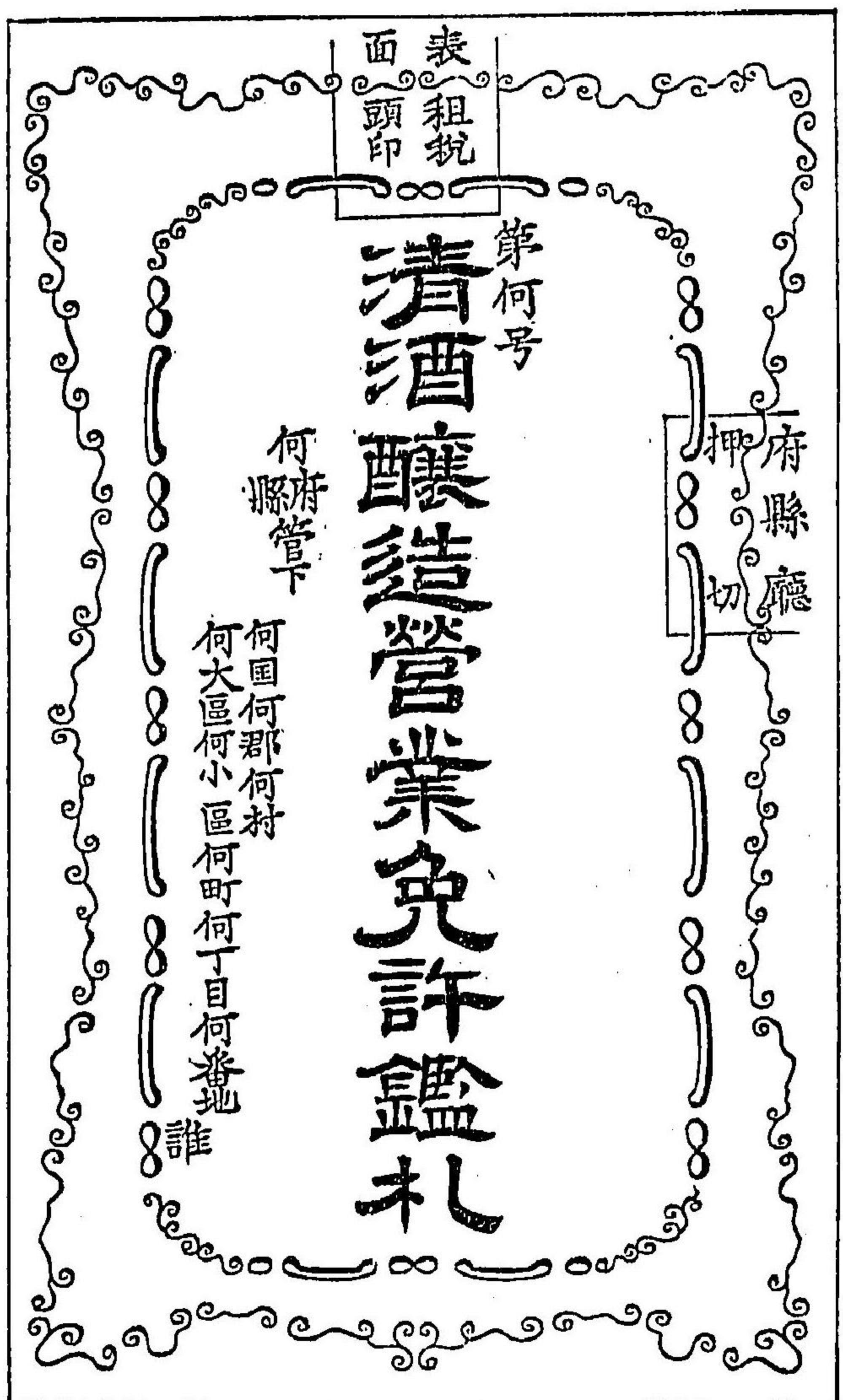
明治八年六月十四日大藏省達

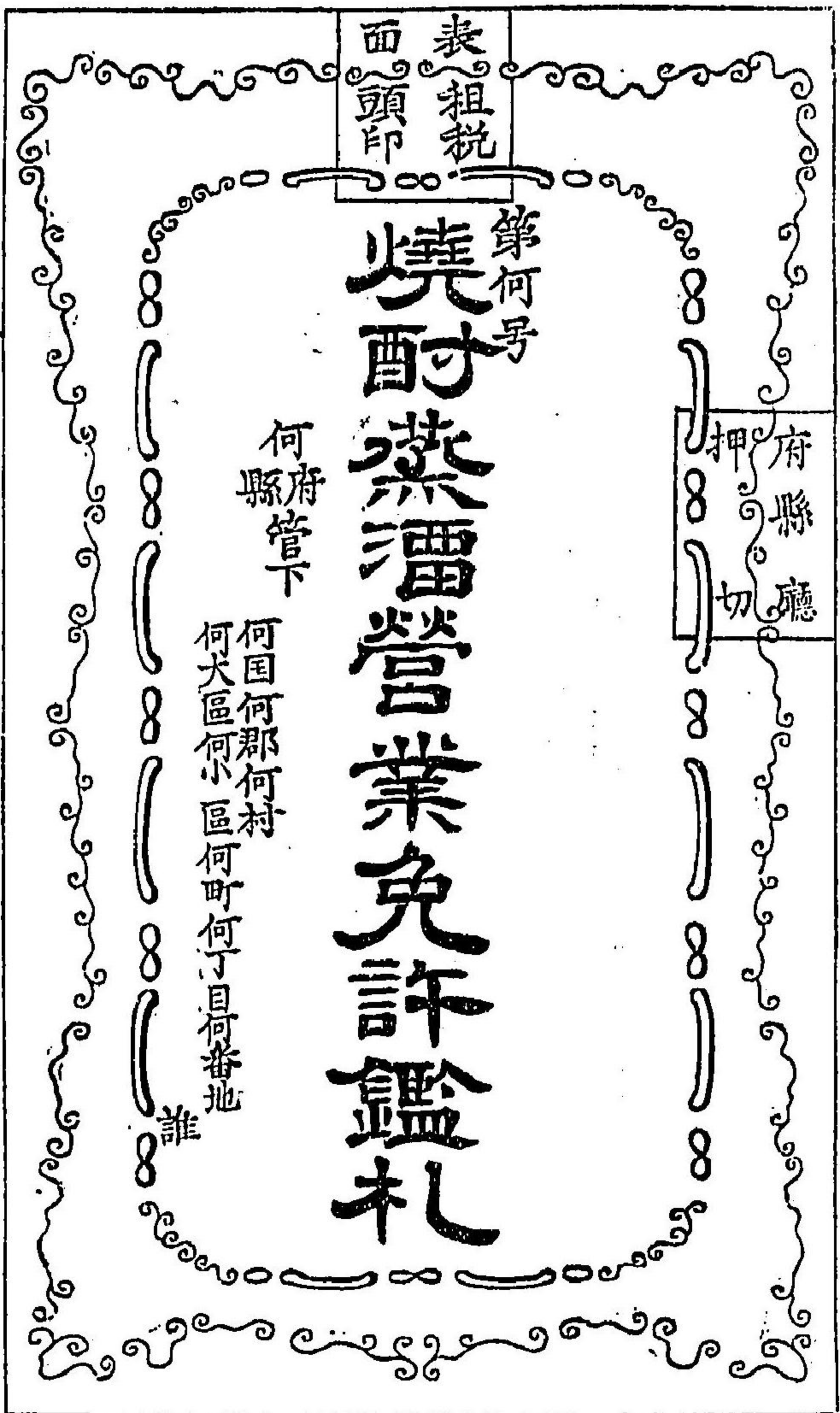
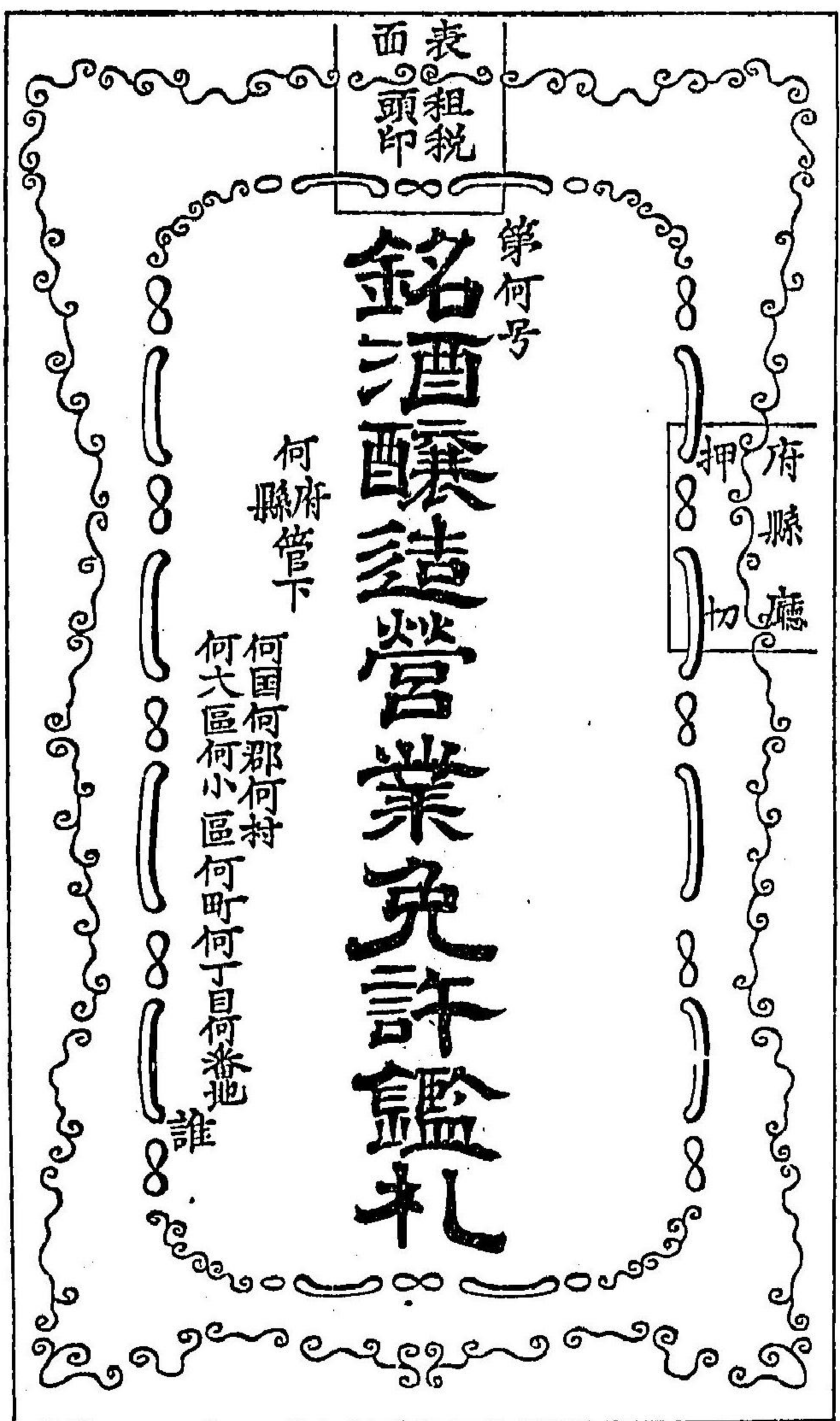
乙第八十二號

府 縣

本年二月第二十六號公布酒類稅則中ニ記載有之候酒造營業并酒類受賣營業免許釀札別紙ノ通候條此旨相達候事

第十三類 酒造絞油味噌醬油





表租稅
面頭印

第何号

府縣廳

何縣管下

何國何郡何村
何大區何小區何町何丁目何番地
誰

白酒釀造營業免許證札

表租稅
面頭印

第何号

府縣廳

何縣管下

何國何郡何村
何大區何小區何町何丁目何番地
誰

味咻釀造營業免許證札

九百九十四

表租稅
面頭印

第何号

府縣廳

何府管下

何國何郡何村
何大區何小區何町何丁目何番地

酒類請賣營業免許鑑札

誰

面基

何年何月何日

第千八百八十五
乙第九十六號

明治八年七月十二日大藏省達

第十三類 酒造絞油味噌醬油

府 縣

九百九十五

本年當省乙第八十二號ヲ以酒類營業免許鑑札類見本相違候處鑑札表面別紙ノ通相改候條此旨更ニ相違候事

九百九十六

表組稅 面頭印		第何号	
府縣廳	切	何國	誰
何營業免許鑑札			

第千八百八十六

明治十一年一月十五日大藏省達

乙第一號

府縣

明治十年十二月第八十一號公布中濁酒釀造免許鑑札別紙ノ通候條此旨相違候事

別紙

表組稅 面頭印		第何号	
府縣廳	切	何國	誰
濁酒釀造營業免許鑑札			
何府管下 何國何郡何村 何大區何小區何町何丁目何番地			

第十三類

酒造絞油味噌鹽油

九百九十七



第千八百八十七 明治十一年二月五日大藏省達

乙第三號

本年當省乙第一號ヲ以濁酒釀造免許鑑札見本相達候處右ハ營業人姓名可記載廉等ハ外酒類鑑札同様ニ候條明治八年乙第九十六號達ノ通可相心得此旨更ニ相達候事

第千八百八十八 明治十一年十二月廿日大藏省達

乙第六十七號

酒類受賣營業ノ者御小賣ノ區分各府縣於テ取扱方區々相成居候趣ニ相開候條爾後ハ酒類營業人ニ賣渡スモノヲ御賣トシ自用人ノミニ賣渡スモノヲ小賣ト相定メ可申此旨相達候事

第千八百八十九 明治十二年一月十七日大藏省達

乙第四號

明治十年(十二月)第八十一號公布中酒類受賣ノ儀ニ付同月當省乙第四十五號ヲ以テ飲食店等ニテ酒類ヲ買入レ置キ云々相達候處自今ハ來客ノ自ヲ提携セルノ外酒類ヲ來客ニ供スル飲食店等ハ總テ酒類受賣鑑札爲相受可申此旨相達候事

第千百九十 明治十二年十二月廿六日大藏省達

乙第四十七號

十一年度酒造検査費ノ儀ハ當省租稅局員派出ノ上協働ヲ遂ケ定額常費ヲ以テ難仕所分ニ限

第十三類 酒造絞油味噌醬油

リ増費受取方申出租税局ヨリ別途渡方取計候儀ニ付酒造検査費ニ充ツヘキ定額常費ノ不足
ハ總テ該金額ヲ以テ填補可致等ノ處尙増費ノ儀申出候向モ有之候條本年度ノ儀ハ右等不都
合無之様可取計此旨豫テ相達置候事

〔第一千九百九十一〕 明治十三年八月七日大藏省達

乙第貳拾九號

府 縣

明治八年當省乙第七十六號達酒類稅則取扱心得書中第六條左ノ通更正候條此旨相達候事

第六條 酒造桶類即今所持ノ分ハ勿論自今新調并輪換減縮等ノ分共爲届出主任ノ官員調査
ノ上其側面ヘ左ノ件々ヲ掲載致スヘキ事

番號

口徑何程

胴徑何程

底徑何程

深ッ何程

石數何程

但口頭ヨリ一寸ヲ減ス

調査ノ年號月日

調査人官姓名

管轄燒印

酒造種類丈量法

口徑(口頭ヨリ一寸下リタル箇所)胴徑(口底徑ノ中央)底徑(底板面ノ箇所)ハ孰レモ内
測リニテ縱横ヲ⊕圖ノ如ク度リ此縱横徑ヲ和シ之レヲ二ニテ除キ以テ定ム深サハ其桶
ノ前(吞捺等適宜ノ箇所)後(其背後)孰レモ底板ヨリ口徑(口頭ヨリ一寸下リタル箇所)
迄ノ間ヲ丈量シ此前後ノ尺度ヲ和シ之レヲ二ニテ除キ以テ定ムヘシ
但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分數ニ止ム

全算則

口胴底ノ三徑ヲ各個自乘シ此三個ヲ和シ之レヲ二ニテ除キ以テ實トス之レニ深ヲ乘シ
又圓積率(七八五四)ヲ乘シ而シテ枳法(六四八二七)ヲ以テ除キ其容量ヲ得ル
但石數ハ合數ニ止ム

每桶ヘ掲載スヘキ番號ハ一家毎ニ起號シ桶數ニ應シテ其順號ヲ定ムヘシ

〔第一千九百九十二〕 明治十三年八月七日大藏省達

乙第貳拾號

府 縣

本年當省乙第貳拾九號ヲ以テ酒類稅則取扱心得書第六條更正ノ儀相達候ニ付テハ十三年度
酒造検査ニ不差間様決了スヘキ旨途ヲ以テ酒造桶類容積改定ニ着手可致此旨相達候事

第十三類 酒造絞油味噌醬油

千一

〔第一千九十三〕 明治十二年九月四日司法省達
丙第十一號

大 審 院
諸 裁 判 所
檢 事

檢事在ラサル
各 縣

今般開拓使札幌本廳及根室支廳所轄ニ於テ酒類營業スル者犯則之儀左ノ通相定候旨同使長官ヨリ通牒有之候條爲心得此旨相達候事

開拓使ヨリ通牒(明治十二年八月廿七日)

第一千八百四拾五號

當使管内酒類釀造并請賣營業ノ者課稅ノ備當分ノ内地方適宜ヲ以テ處分致度旨明治八年甲第六十三號太政官伺濟ノ末明治十年甲第二十四號ヲ以テ管内各地ノ景況ヲ酌量シ函館支廳所轄ノ地方ハ成規ノ通施行シ其他ノ地方ハ釀造稅ヲ課シ請賣營業ハ課稅不致鑑札ノニ相渡候處取締上差支ノ虞有之候ニ付右鑑札下付ノ節手數料トシテ金貳拾錢收入地方稅ニ組入候儀伺濟相成居候處今回實際取締方ノ都合ニヨリ明治八年甲第六十三號伺濟ノ旨趣ニ準シ札幌本廳及根室支廳所轄ニ於テ免許鑑札ヲ受ケス請賣營業スル者并ニ免許鑑札ヲ借受營業致

候者ハ金貳拾五圓ノ科料徵收候儀ニ相定候條此段及御通報候也

米穀油賣買

〔第一千九十四〕 明治八年十月十七日布告

第五百五十五號

米油限月賣買ノ儀ニ付昨七年(十二月)第三百二十八號并ニ本年(四月)第五十二號及(七月)第三百二十三號ヲ以當十一月三十日限取引延期ノ儀及布告置候處猶營業上實際ノ慣法等ニヨリ右期限内難取總事情有之向ハ其事由ヲ詳記シ管轄廳ヲ經テ內務省へ申出指揮ヲ可受此旨布告候事

〔第一千九十五〕 明治九年九月十一日內務省布達

甲第三千四號

米油限月賣買被禁候以後取引取纏ノ爲メ延期之儀追々開屆置候向モ有之處本年太政官第百五號布告ノ趣モ有之候ニ付テハ最前開屆候期限内ノ外自今一切延期不相成候尤更ニ營業致度向ハ右公布及當省甲第廿九號布達ニ照準可致此旨布達候事

牛馬賣買

第十三類 米穀油賣買牛馬賣買

第千百九十六 明治七年六月二十日大藏省達
第六十八號

牛馬賣買免許鑑札稅ハ二月絞油稅ハ四月收入候節現在稼人仕譯別紙雛形ニ倣牛馬ハ三月三十一日絞油ハ五月三十一日限差出爾後新規稼休廢業等ハ其時々可届出尤本年ノ儀ハ既ニ期限後ニ付往復日數ヲ除キ三十日限取調可差出此旨相達候事

別紙

表

明治何年
牛馬賣買稼人仕譯

稼人何人

一牛馬賣買免許鑑札何枚

右ハ當明治何年二月現在稼人并鑑札渡高書面之通候也

明治何年三月

租稅頭何之誰殿

官苗字名印

表

明治何年
絞油稼人仕譯帳

稼人何人

一絞油器概何柄

内

何斗絞

何柄

何斗絞

何柄

右ハ當明治何年四月現在稼人并器概數書面之通候也

明治何年五月

租稅頭何之誰殿

官苗字名印

煙草

第千百九十七 明治元年閏四月布告

阿片煙草ハ人ノ精氣ヲ耗シ命數ヲ縮メ候品ニ付兼而御條約面ニ有之候通外國人持渡候事嚴禁之處近頃竊ニ舶載之聞ヘ有之万一世上ニ流布致シ候テハ生民之大害ニ候間賣買之儀ハ勿論一己ニ吞用ヒ候儀決而不成候若御制禁相犯シ他ヨリ顯ル、ニ於テハ可被處廢科候間心得違無之様末々ニ至ル迄堅ク可相守者也

右御達シ書府藩縣一同高札ニ揭示可致様被仰出候事

第千百九十八 明治三年八月九日布告

府 藩 縣

鴉片烟艸ノ備ハ兼テ嚴禁ノ處猶又今般販賣鴉片烟律御定ニ相成各港在留ノ支那人ヘモ嚴重禁止被仰出候且藥用ニ供シ候生鴉片タリハ勝手ニ取扱候儀不相成別紙之通取扱規則ヲモ被爲立候條各地方官ニ於テモ管内人民未々迄心得違無之様屹度取締可致事

別紙

生鴉片取扱規則

- 一 藥店中現在所持ノ分ハ各地方官應ニテ検査ヲ遂ケ品位量目等委細簿記シ可置事
- 一 不得已藥用ニ供シ候儀有之賣買致シ候節ハ其度毎ニ藥店醫師ヨリモ品位量目等委細官廳ヘ可届出事
- 一 藥用關乏ニ付外國ヨリ取寄度節ハ各地方官ヨリ開港場ヘ申立候ハ、別段ノ注文ヲ以テ取寄候様可致事

第千百九十九

明治三年八月九日達

外務省

鴉片烟草ノ備ハ兼テ嚴禁ニ候處猶又今般販賣鴉片烟律御定ニ相成候ニ付テハ各港在留支那人ヘモ嚴重禁止ノ儀申諭シ竊ニ取扱候儀無之様屹度取締可致事

在留支那人ヘ告諭

外務省奉 上諭前于各港府縣曉示在該港清國人等不得藏貯鴉片等因旋將買鴉片烟之我國人及

賣付之清國等業已據罪懲治在案昔此物入清國流毒害民以至今日之甚是不可不思之也爲此本政府新定防害律例頒示通商各港府縣申諭在港清國商民嗣後倘有違犯法在必行以炮惡懲凡清國人素有烟癮刻難置其管鑿者固不須言即量淺似喫白相者亦所嚴禁斷不准其來港營生除將現住本港烟鬼徹底清查其或自能戒斷吸喫以遵禁令者其不能者當即自行去此回鄉外奉到新諭律例以後仍有潛匿犯大禁者一經查出毋庸分別原住新來立刻案律處治奉此特示

明治三年庚午 月

御布令

此度御沙汰ノ趣外務省ヨリ御觸達ノ次第先達テ各港府縣ニ於テ其港在留清國民共ヘ鴉片烟ヲ買取候我國民並賣渡シ候清國民共其罪犯ニ依リ夫々御處置相成居候處右鴉片烟ノ儀其昔清國ニ入リシヨリ流毒害民今日ノ甚シキニ至ル事其儘難捨置儀ニ付猶此度政府ニ於テ新ニ防害ノ律例被立定開港場ヘ御布令相成在港清國商民ヘ被觸達候上ハ已後聊タリトモ禁令ヲ犯シ候者ハ屹度御法ヲ正シ其毒源ヲ絶テ可申候就テハ清國人民ノ内素ヨリ鴉片ヲ嗜ミ片時モ止カタキ烟癖アル者ハ勿論假令少シ計ノ服量ニテ徒ラニモ用ヒ候様ノ者ニ至ル迄可爲嚴禁候條右等ノ者ハ決シ來港渡世イタヌ間敷候尤此節在來ノ内右等ノ者精々穿鑿吟味ヲ遂ケ斷然時難ヲ絶テ嚴禁ヲ守リ候者ハ格別其儀不能者ハ速ニ立去リ歸國可致候右御沙汰ノ趣觸達シ候後倘潛伏罷在大禁ヲ犯シ候者有之及露顯候ハ、舊住新渡無差別其時々旋ノ通罪科ニ

可被處者也

明治三年庚午 月

雜則

第一千二百 明治三年正月十二日布告

是迄朱座ト唱へ年寄又ハ取次所等ノ名目ニテ受領地坏所持之者モ有之候處總テ被廢候事
但商法之儀ハ進テ通商司ニ於テ取調之上可相違候事

第一千二百壹 明治五年七月八日布告

第百九十六號
從來香具師ト唱へ來候名目自今被廢止候事
但銘々商賣ノ儀ハ可爲勝手事

第一千二百二 明治五年九月五日大藏省達

第百廿七號

遊女飯盛食賣女並女藝者ノ類舊來税金收入ノ上差許來候向モ不少間々不都合ノ儀モ有之候
間取締規則ノ儀ハ不違公布可有之筈ニ候ヘトモ差向左ノ通可相心得事
是迄税金收入有之分本年ヨリ上納ニ不及尤府縣限リ取立候税目帳ニ其收入高記載租稅寮へ

可差出事

右收入金ハ道路堤防橋梁ノ營築選卒取締ノ入費等ニ可充行積可相心得事
舊來ノ税額ヲ増加致シ候トモ又ハ廢業申付免除致シ候トモ伺出ニ不及府縣限リ處置致シ不
普候條進テ税目帳ニ其趣記載可差出事

但無税ニテ稼方爲致候儀ハ勿論減稅致シ候儀決テ不相成候事

女藝者或ハ洗濯女其外種々ノ名目ニテ遊女同様ノ所業致シ候儀ヲ默許致シ來候分ハ篤ト相
糺シ普通飯盛等ノ名儀ニ相改候歟或ハ改業爲致候歟兩様ノ中ニ改正ノ積取調可伺出事

總テ是迄右種類無之地方ニ於テ新規營業差許候儀ハ決テ難相成候事

右種類ノ者現今ノ人員ヨリ相増候儀ハ勿論死亡或ハ改業ノ跡補ヒノ爲更ニ別人抱入候儀ト
モ決テ不相成候事

但現今ノ人員取調税目帳一同可差出事

第一千二百三 明治六年三月三十日大藏省達

第四十六號

別紙之通鹿兒島縣へ相違候間各地方於テ砂糖買受度望之者ハ勝手次第渡島交易可致旨爲心
得管下人民へ可觸示事

別紙

鹿兒島縣

其縣管下大島喜界島徳ノ島沖永良部島與論島等島々出産ノ砂糖從前勝手賣買差止有之候趣之處自今貢納定額ノ外島民所得ノ分勝手賣買差許内地商人共ト互ニ往來致シ廣營業爲致可申事

【第一千二百四】 明治六年四月廿二日大藏省達
第六十五號

酒造密造蠶種濫製等犯則之者有之候ヲ他ヨリ訴出候者有之ニ於テハ過料並取上ケ諸品拂代ノ内分合ヲ以給與可致旨各規則ニ記載有之候處右ハ調方混淆煩敷廉モ有之候ニ付取立候過料並諸品拂代トモ悉皆上納給與金ノ儀ハ別途受取方可申立旨相達候向モ有之候處本年ヨリ右過料等司法省へ上納候ニ付テハ過料金等ハ同省へ相納給與金ハ當省へ申立受取候様ニテハ雙方へ差跨格別手數モ可相掛ニ付爾後總テ規則ノ通相心得所分可致事

【第一千二百五】 明治七年十月廿五日大藏省達
乙第十五號

諸印紙諸免許鑑札等渡方之儀ハ於租稅寮月計調査之都合モ有之候ニ付以來ハ事故有之差向候分ハ格別其外通常渡方之儀ハ大ノ月ハ廿八日小ノ月ハ廿七日二月ハ廿五日迄六月ハ廿五日十二月ハ二十日迄ヲ限相渡右日限相後レ候分ハ翌月ニ至可相渡候間兼而右之心得ヲ以テ請取方可取計候此旨相達候事

【第一千二百六】 明治八年一月三十一日大藏省達

乙第十五號

來ル二月一日ヨリ府縣出張所被廢候ニ付租稅寮ニ於テ相渡候諸印紙鑑札類同日以後受取方申立之買取同寮ヨリ直ニ輸送可致候條該府縣へ到着ノ上受取證書租稅頭へ可差出此旨相達候事

【第一千二百七】 明治十二年五月十九日內務大藏兩省布達
甲第五十號

生絲繭茶共進會開設候ニ付規則書別冊之通相定候條此旨布達候事

別冊

生絲繭茶共進會規則

第一條 共進會ハ平素各人ノ産製スル同種ノ物品ヲ一場ニ蒐列シ以テ製産人ノ勉否製産品ノ優劣ヲ照合審査公定シ乃チ邦家ニ益スル優等ノモノヲ褒賞シ他ノ一般ヲシテ相共ニ益其業務ヲ競ヒ其製産品ヲ精且大ナラシムルニアルナリ

第二條 優等品ニハ等級ニ依リ生絲繭茶共ニ褒賞ヲ授與スルヲ左ノ如シ

特別名譽之賞

一等賞

二等賞

三等賞

四等賞

第三條 本會ハ横濱町會所ニ於テ茶ハ本年八月一日ヨリ同月三十一日迄生絲繭ハ十月一日ヨリ同月三十一日迄開設スヘシ

第四條 本會ノ旨趣ニ於テハ各人ノ常ニ勉勵シテ製産發賣スル品ヲ出陳セシムルモノナレハ該會ニ供スル爲メノミニ一時精良ノ品ヲ製シ以テ出陳スルコトヲ得ヘカラス

第五條 本會ノ出品ハ外國人及該品ノ取扱ヲ爲ス商人ノ類ヲ除クノ外ハ生絲茶繭ノ製造人タルモノハ何人ニテモ之レヲ出品スルコトヲ得ヘシ

第六條 本會ヘ出品スル生絲及茶トモ一名又ハ一社ニ付一種五斤ヨリ百斤迄ヲ限リ繭ハ二升ヨリ五升迄ヲ限リトシ之レヲ輸送スルニ茶ハ七月十六日ヨリ同月三十一日迄生絲ハ九月十六日ヨリ同月二十日ヲ限リ會場ヘ到着セシムヘシ尤該品ト本會委員ヘ向ケ送致スヘキモノトス

但茶ハ列品中損傷ノ恐アルヲ以出品ノ外審査用ニ供スル爲メ其同品ヲ一斤又ハ半斤箱入或ハ其他損害ヲ豫防スヘキ適當ノ用意ヲ爲シ必ラス添送スルヲ要ス

第七條 出品ヲ望ム者ハ申告書ヲ作り遅クトモ開場日限迄ニ本會委員宛ニテ郵送スヘシ但申告書書式ハ別ニ頒布スヘシ

第八條 出品往返ノ運費陳列費出品主ノ旅費等ハ自費タルヘク場内整頓及床代ハ總テ官費

トス

第九條 本會ノ出品ハ委員ニ於テ成ルヘク保護スヘシト雖モ盜火風震等ノ類ノ如キ其力ノ及ハサル場合ニ於テ生スル所ノ損害ハ總テ出品人ノ損失タルヘシ

第十條 出品審査中ハ場外ヘ搬出スル事ヲ許サスト雖モ會中ニ於テ其品賣買ノ約定等ヲ爲スコト勝手タルヘシ

第十一條 會場規則及審査規則等ハ追テ制定頒布スヘシ右之通相定候事

〔第一千二百八〕 明治十二年五月二十四日內務大藏兩書記官通達
本年甲第五十號布達第六條第四行生絲ノ下(繭)ノ字ヲ脱シ第六行(該品ト)ハ(該品ハ)ノ

誤
〔第一千二百九〕 明治十二年六月二日內務大藏兩省布達
甲第五十六號

本年(五月)甲第五十號ヲ以テ生絲繭茶共進會規則布達及ヒ置候處右ニ屬スル申告書書式別冊ノ通相定候條出品者ハ右ニ準據シ戸長ノ與書ヲ受ケ開場期限迄ニ管轄廳ヲ經テ該會委員ヘ到達候様致スコシ此旨布達候事

但シ申告書用紙ノ儀ハ印刷ノ上追テ管轄廳ヘ分附候條該廳ニ於テハ適宜ノ頁數見計配附

可致事

別冊

紙表

明治十二年甲第五十六號布達附屬
申告書々式

書式中黒線及ヒ黒字ハ追テ配付ス可キ用紙ヘ印刊シ置ク者ナリ
出品主等ハ宜ク朱字ニ照ラシテ用紙ニ書入ヲ爲スヘシ
若シ書入ノ箇條ニ不分明ノ廉アラハ知レタル丈ヲ記スヘシ
業務沿革總説以下ハ他紙ヲ繼キ添ヘテ之ヲ記ス可シ

〔括弧内ハ朱書〕

〔出品ヘハ成丈四百廻ノ見本ヲ附スヘシ〕

名物	生	系	主品出
	誰		

名稱

〔此區ヘハ生糸通稱把東方商標等ヲ記スヘシ〕
〔舊ハ二本松器械糸前橋座繰折返シ提ケ烏田鏡袍造リ娘印ニ羽鶴等ノ類〕

出品高	〔此區ヘハ出品ノ數量ヲ記スヘシ〕 〔何百何十斤〕
-----	-----------------------------

供用繭

〔此區ヘハ出品ノ生糸ニ用ヒタル繭ノ種類出所等ヲ記スヘシ〕
〔譬ハ何州何郡何ノ誰製作ノ繭亦ハ上州何々或ハ岩代何々ヲ買入レ製絲ス及春蠶夏蠶ノ別青白黃ノ別ヲ記シ若シ手作ナレハ別ニ繭ヲ出品スヘシ〕

器械製糸法

〔此項ヘハ製糸ノ順序ヲ記スヘシ〕
〔則左ノ表面ノ如シ〕

運轉ノ方	湯ノ沸シ方	器械	所製糸釜數
〔蒸氣ナレハ何馬力 水車ナレハ何徑何尺〕	〔蒸氣ナレハ何石入 焚火炭火〕	〔長横〕	〔何間何百何十〕

口出シ人	揚ケ返シ人	現業役員	元
〔自分ニテ口出スルカ否証 ニ一人ツ、何人トカニ釜一 人ツ、何人トカ〕	〔直取ニ付ナシトカ何 十何人トカ〕	〔教師何人 系結何人 繭配何人ト〕	〔蒸殺トトカ 燥殺トトカ〕

第十三類 雜則 千十五

出品一線ノ元繭	口出シ	大篋ノ寸	四百廻「デニ」
〔二升ツ、トカ 三升ツ、トカ〕	〔草 モロコシガラトカ 船來品トカ〕	〔何尺何寸廻リ〕	〔一號ハ 二號ハ 三號ハ 十二トカ 幾 ツ〕
繭ノ付ケ數	口立テ湯ノ熱度 〔アンソウカケン〕	線絲湯ノ熱度	
〔四粒トカ五粒トカ六粒トカ〕	〔何百何十度〕	〔何百何十度〕	
座繰 製糸法	〔則チ左ノ表面ノ如シ〕		
工女ノ人員	煮ル繭ノ量		
〔八人トカ十八トカ〕	〔二升トカ三升トカ〕		
鍋ニ繭ヲ入ル度數	製シ方揚ケ篋		
〔何度〕	〔毛ヲ用ユルトカ 手ニテ始終取ルトカ〕	〔十線揚トカ 十二線揚トカ〕	

製糸計算

〔此項ヘハ計算ニ係ルコトヲ記スヘシ〕

項目	年度	九	年十	年十	一	年十	十
元繭代一圓ニ付糸		〔何十何々取〕	〔何十何々取〕	〔何十何々取〕	〔何十何々取〕	〔何十何々取〕	〔何十何々取〕
使役男女ノ數		〔男 何人〕	〔男 何人〕	〔男 何人〕	〔男 何人〕	〔男 何人〕	〔男 何人〕
使役男女總計一ケ月ノ給料		〔男 何圓〕	〔男 何圓〕	〔男 何圓〕	〔男 何圓〕	〔男 何圓〕	〔男 何圓〕
一ケ月ノ給料一人		〔男 何圓〕	〔男 何圓〕	〔男 何圓〕	〔男 何圓〕	〔男 何圓〕	〔男 何圓〕
生糸百斤ニ係ル製造入費		〔何百何十圓〕	〔何百何十圓〕	〔何百何十圓〕	〔何百何十圓〕	〔何百何十圓〕	〔何百何十圓〕
漸繭ヨリ漸繭迄一ケ年ノ製糸高		〔何千何百斤〕	〔何千何百斤〕	〔何千何百斤〕	〔何千何百斤〕	〔何千何百斤〕	〔何千何百斤〕
此賣上代價		〔何万何千圓〕	〔何万何千圓〕	〔何万何千圓〕	〔何万何千圓〕	〔何万何千圓〕	〔何万何千圓〕

此賣先	〔横濱カ桐生カ西 京カ或ハ歐米直〔全 賣カ〕〕	上〔全〕	上〔全〕	上
熨斗糸賣上代價	〔何百何十圓〕	〔何百何十圓〕	〔何百何十圓〕	〔何百何十圓〕

業務沿革總説 附出品者履歷

〔此項ハハ開業ヨリ現今迄 譬ハ明治何年何月社中幾名相謀リ上州富岡ノ蒸氣機械或ハ奥州ニ
ノ沿革盛衰ヲ記スベシ〕 本松ノ製糸器械ヲ撰シ水車ヲ用ヒ器械ヲ裝置ス當初ハ工人何名ニシテ其技業熟練ナラサ
リシカ何年某氏ノ教授ニ依リ大ニ進歩シ翌何年ハ百斤ノ價格何程ニ販賣シ得ル線糸ヲ製ス
ルニ至ル又何年何ノ誰發明ヲ以器械ヲ改補シ或ハ加巧シ一層便益ヲ得社中ノ利益月ヲ逐テ
増加シ現社員何名ニ至ル尙明年ニ至リ何々ノ目的ヲ以盛業ヲ圖ル云々又起業ノ目的ハ社中
某ノ資本ヲ專用シ以テ本業ヲ營マント謀リシニ何年何月某何々ノ事故ニ係リテ脱社シ或ハ
何年ハ非常ノ乾水ニテ水車ノ運轉ヲ中止シ甚キ損耗ヲ招キ困難ヲ極ムルニ際シ社中某ノ
奮發或ハ誰ノ助力ヲ以テ何年ニ至リ漸ク回復スルヲ得爾來云々又余カ家代々製糸ヲ以業ト
スル既ニ何年其間何世ニ於テ何々ノ發明ヲ爲シ大ニ業務ヲ擴張ス爾來何年ノ頃何々ノ事故
ニ依テ一回衰狀ヲ呈シ何年ニ至リ何々ノ方策或ハ勉勵ヲ以テ回復シ現今何々ノ景況云々
〔以上列文ニ隨ヒ成去詳細記載ス
ベシ尤文章ノ巧拙ニカ、ハラヌ〕

〔前書申告ノ件々相違無之候也〕

〔出品主〕

〔明治十二年 月 日〕

何 之 誰 印〕

〔前書之通相違無之段保証仕候也〕

〔何管下〕

〔何國何郡區(町村)戶長〕

何 之 誰 實 印

物 名	繭	〔使府縣管下何國何郡區町村番地 〔族籍職業名 〔何 誰 實 印〕
	出品主	
名 稱	〔此區ハハ繭ノ通稱ヲ記スヘシ 〔譬ハハ又昔鬼繭姫蠶ノ類〕	
出 品 高	〔此區ハハ出品ノ數量ヲ記スヘシ 〔譬ハハ何升〕	

培
多クハヤシナカ
桑

〔此項へハ桑樹ノ種類及桑田培養等ノコ
ヲ左ノ表面ノ區毎ニ記スヘシ〕

簡目	年度	九	十年	十一年	十二年
		桑ノ名	桑田一反歩ニ付培 養ノ量及品種	培養季節	桑 樹 種
		〔一平トカ十文字ト トコホレトカ〕	〔酒粕何百目 油粕何百目 トカ〕	〔何月何日頃トカ〕	〔凡ソ何年位〕
		極暑ノ熱度	極寒ノ冷度	桑苗仕立方	桑樹仕立方
〔季候ニ付テ何 十何度トカ〕	〔全 上〕	〔根分ケトカ枝フセ トカ實マキトカ〕	〔凡何分位〕	〔苧桑トカ二尺上ヨ リ株トカ大木トカ〕	
一反歩立木ノ數	〔何本トカ 何株トカ〕	〔植付ヨリ五ケ年目 一反ノ桑ノ量〕	〔桑木ヨリ正葉 ヲ得ル分合〕		

桑ノ相場

〔何枚
ニ付何圓
何錢トカ〕

〔全〕

〔上〕

〔全〕

〔上〕

〔全〕

〔上〕

元種 〔此項へハ蠶卵紙ノ由來及保存ノ方法ヲ記スヘシ〕

〔蠶ハ何年ニ何國何ノ誰ノ卵紙ヲ用ヒ何年ヨリ自製ノ卵紙トス或ハ年々何國何ノ誰製種ニ
用ユトカ又保存方ハ秋風ノ起ルヲ俟テ桐ノ箱ニ入ルトカ寒中何月頃水ニ浸シ發生ノ頃ハ
何月何日頃ヨリ箱ノ中ヨリ取出シ上下掛ケ換ヘ置云々ノ類〕

養蠶法

〔此項へハ左ノ表ノ如ク區毎ニ記スヘシ〕

原種ノ紙數	成繭ノ數量	掃立ヨリ搔落シ迄ノ 日數	原紙一枚ニ付庭起ノ 籠數又ハ藪坐ノ數
	〔成繭ノ數 デモナカリ〕		
〔何十何枚〕	上繭	〔何十何日〕	〔籠ハ長何尺何籠藪坐 横何尺何籠藪坐 圓徑何尺何枚〕
	〔何石何斗 何斗何升〕		
〔何十何枚〕	玉繭		
	〔何斗何升〕		
	屑繭		
	〔何斗何升〕		

火力ヲ加ヘタル日數	〔吐絲前蠶一頭ノ量目 ハナシヘ〕	熟蠶ノ扱ヒ方	元種一枚ニ付成繭 迄平均人員
〔何日何夜〕	〔何匁何分〕	〔拾ヒ揚ケトカ熟蠶 ニマブシストカ〕	〔何人何分〕
元種一枚ニ付成繭 迄平均ノ費用	元種一枚ニ付成繭 迄桑ノ正目方		
〔何圓何錢〕	〔何駄トカ何貫目トカ〕		
<p>養蠶ノ數</p> <p>〔此項ニハ出品ノ繭ニ拘ハラズ出品人何程ノ養蠶セシヲ左ノ表面ノ 區毎ニ記ス尤モ製紙製種ノ分ヲモ加ヘテ販賣及ヒ費用トモ總計ヲ 記スヘシ〕</p>			
年度	九	十	十一年
成繭ノ石數	〔何石何斗〕	〔全〕	〔全〕
販賣代價	〔何百何十何圓〕	〔全〕	〔全〕

費用合計	〔何十何圓〕	〔全〕	上	〔全〕	上
〔検査表アルモノハ之ヲ添フヘシ〕					
〔前書申告之件々相違無之候也〕					
〔出品主 何之誰實印〕					
〔年 月 日〕					
〔前書之通相違無之候段保証仕候也〕					
〔何管下何國何郡區何村何戸長 何ノ誰實印〕					
物製茶	出品主	〔使府縣管下何國何郡區町村番地 族籍職業名 何之誰實印〕			
名稱	〔此區ヘハ從來内國用製茶カ輸出向製茶ノ別及茶銘ヲ記スヘシ 〔譬ハ宇治製煎茶銘 鳳凰山或ハ紅茶銘 白毫等ノ類〕				

茶樹培養法		茶樹培養ノ順序ヲ左ノ表面ノ區毎ニ記スヘシ	
園圃ノ地形	氣	地味及土色	現今ノ反別
〔山地カ平地カ或ハ山麓カ〕	〔寒冷カ溫暖カ常ニ雲霧ノ多少如何〕	〔肥トカ瘠トカ燥地トカ濕地トカ黒トカ赤トカ〕	〔何十町何反〕
播付一反ニ付	耕耘ノ度	耕耘使役ノ人員及給料一反ニ付	一反ノ肥料
〔輪轉ニテ何株トカ畦轉ニテ畦間何尺トカ畑周リヘ播付ルトカ〕	〔春夏秋ニ何回ツ、何々ヲ爲ストカ〕	〔男何人トカ一日給料何程トカ凡一反ニ付何程ニ當ルトカ〕	〔米糠トカ油滓トカ何價目代價何程人糞ナラハ何荷牛馬糞何荷其他云々〕
出品高	〔此區ヘハ出品ノ數量ヲ記スヘシ〕 〔何百何十斤〕		

又生葉ノ收穫		〔此項ヘハ左ノ表面ノ如ク記スヘシ〕	
肥養ノ人夫	玉露園日親ノ時及入費	摘採年	全上毎年ノ順序
〔男何人一日給料何程凡一反ニ付何程ニ當ルトカ〕	〔何月何日着手此費年々ニ割合凡一反何程ニ當ルトカ〕	〔播付何ケ年目ヨリ採摘シ今年何ケ年目ニナルトカ〕	〔一番芽何月何日頃ヨリ何日間ニ二番芽何月何日頃ヨリ何日間トカ〕
年度	九	十	十
摘採賃	〔何十圓〕	〔同〕	〔同〕
一番芽	〔何貫目〕	〔同〕	〔同〕
簡目	九	十	十
但即今迄ノ分			

製茶計算

〔此項へハ計算ニ係ルコヲ記スヘシ〕

使役男	製造中	箇目	年度	全代金			生葉ノ量		
				二番	一番	總額	二番	一番	總額
二 等 男	一 等 男	總 員	九 年 十 年 十 一 年 十 二 年	(何百何十人)	(何千何百人)	(何千圓)	(何千何百貫目)	(何千何百貫目)	(何万何千貫目)

製造場及 器械費	薪	土釜 炭量	全一貫目ニ付	茶揀賃錢總計	女ノ數	使役男		女ノ給料
						一等男	二等男	
製造場及 器械費	薪	土釜 炭量	全一貫目ニ付	茶揀賃錢總計	女ノ數	一等男	二等男	女ノ給料
(何百何十圓)	(何百束)	(何百圓)	(何錢)	(何百何十圓)	(何百何十八)	(何十錢)	(何十錢)	(何十錢)

全	全	全	全	茶名	等級	仕上		製造入費
						百斤ニ係ル	百斤ニ係ル	
(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	元價	斤量	(何圓)
(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	元價	斤量	何十錢

千三十

簡目	年度	全		茶名		製造費	此賣上代價	此賣先
		(粉未)	(茶名)	(茶名)	(等級)			
		元價	斤量	元價	斤量	總計	(何万何千圓)	(何元カ横濱カ或ハ歐米直賣カ)
		(何百圓)	(何百斤)	(何百圓)	(何百斤)	(何万何千斤)	(何万何千圓)	
	九							
	十							
	十一年							
	十二年							

業務沿革總說 附出品者履歷

〔此項ハハ開業ヨリ現今迄〕〔嘗ハ祖業ヲ襲クル茲ニ何年其間何世ニ於テ製茶法ニ何々ノ發明ヲ爲シ大ニ業務ヲ擴張ス其後何年ノ頃何々ノ事故ニ依リ一回衰狀ヲ呈シ何年ニ至リ何々ノ方策勵勉ヲ以回復シ現今何々ノ景況云々又明治何年有志ノ者ヲ募リ一社ヲ創立ス相繼

テ業ヲ營ム一何年其萎靡シテ振ハス明治何年大ニ方法ヲ整革シ廣ク同志ノ者ト協力シ更ニ社ヲ結ヒ教師某氏ヨリ紅茶製傳習ヲ受ケ社中某ハ卒業免狀ヲ何年何月ニ受ク爾來大ニ進歩ノ現狀ヲ見ル今日ニ至リ社中何名ニシテ本社ノ商標何々ヲ記號トシタル裝箱ヲ以テ大ニ外國人ノ需用信憑ヲ得ルニ至レリ云々等ノ類〔已上ノ文例ニ准シ現樣ヲ記スヘシ〕

出品主

何之誰印

〔明治十二年 月 日〕
〔前書之通相違無之段保証仕候也〕

〔何管下〕

〔何國何郡區(町村)戶長〕

何之誰實印

〔第一千二百十〕 明治十二年六月九日內務大藏兩省布達

甲第六十號

本年甲第五十號布達生絲繭茶共進會會場規則審查掛規則及ヒ出品者心得別冊ノ通相定候條此旨布達候事

別冊

生系繭茶共進會々場規則

第一條 茶ハ本年八月一日ヨリ同月三十一日ニ至ルノ間毎日午前第八時ヨリ第十二時迄ヲ審查ノ時間ト爲シ第十二時ヨリ第五時迄ヲ入觀ノ時間ト爲ス又生系繭ハ本年十月一日ヨリ同月三十一日ニ至ルノ間毎日午前第八時三十分ヨリ第十二時迄ヲ審查ノ時間ト爲シ第十二時ヨリ第四時三十分迄ヲ入觀ノ時間トス

第二條 觀客ノ場中ニ入ル者ハ必ス通行札ヲ所持スヘシ尤一名一枚ニ限ル可シ但シ滿五歲以下ノ小兒ハ通行札ヲ要セス

第三條 通行札ハ一枚金五錢ト定ム但シ開場ニ入ル毎ニ必ス之ヲ門番ニ示スヘシ門番之レヲ收入ス

第四條 通行札ヲ所持スル者ト雖モ狂疾或ハ酩酊者ト見受クルトキハ入場ヲ許サス或ハ會場ヨリ立去ラシム可シ

第五條 手荷物ヲ提携シ又ハ犬類ヲ牽キテ入場スルヲ許サス但傘杖等ハ此例ニアラス

第六條 場内ニ於テ吸煙ヲ許サス

第七條 總テ看護人ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ擅ニ物品ニ觸ル、ヲ許サス

第八條 列品ハ閉會迄出場ヲ許サス因テ賣買約定ヲ爲ス者ハ證書ヲ取替ハセ置キ散會ノ期

ニ至リ買主へ渡スヘシ尤右約定済ノ物品へハ其事由ヲ記シタル小札ヲ附置ク可シ
生糸繭茶共進會審査掛規則

第一條 審査掛員ハ審査掛長ニ從テ相當ノ物品ヲ遺漏ナク査閲シ其優劣ヲ審ニシ褒賞ノ等級ヲ擬按シ掛長ノ議判ヲ得テ其緣由ヲ記載シタル考按書ヲ作り之ヲ勸農商務兩局長ニ差出ス可シ兩局長ハ協議審按シテ之ヲ裁定シ以テ内務大藏兩卿ニ呈ス可シ

第二條 審査掛員ノ考案ハ多數ニ由テ決スルヲ例トス若シ其考案相協ハスシテ多數ニ決スル能ハサル時ハ掛長其意見ヲ陳シ勸農商務兩局長之ヲ決ス可シ又既ニ多數ニ決シタル者ト雖モ兩局長其當ヲ得スト認ムル時ハ或ハ之ヲ再議セシメ或ハ之ヲ廢止シ或ハ之ヲ親決ス可シ

第三條 褒賞ノ等級ハ左ノ目ニ基キ之ヲ定ム可シ

- 一 栽植ノ多數
- 一 培養ノ周到
- 一 (養製)方ノ精良
- 一 製額ノ多數
- 一 需用ノ適當
- 一 貯藏ノ完善

一 發明

一 功勞

第四條 審査掛ニ撰マレタルモノ、出品ハ本人其審査ニ關カルヲ得サル可シ

共進會出品者心得

第一條 生糸繭茶共進會規則第六條に據リ出品を本會の委員に向け送るにハ左の手續に準據ベシ

第一 出品を本會の委員へ向け直に送狀を添輸送ものは其出品主又ハ代理人横濱へ出張其品の陳列方等を取計ふヘシ右送り狀ハ別紙雛形の通たるヘシ

但し品物遞送賃ハ會場へ到着迄の分ハ悉皆出品主より仕拂置決して先拂などの手續を以て輸送へからず

送り狀之事

一 生糸

何斤

一 繭

何升

一 茶

何斤

右ハ共進會荷物書面の通り差送り候條着の御預り置(拙者)或ハ(代理何の誰)申出次第御渡有之度候也

但し横濱町會所迄の運賃ハ排濟
代理人印影。

本人出張せず代理人より荷物渡一方の儀を該會の委員へ申立候節
照合せの爲其印影を書式の通り捺印置へ

年月日

何國何(郡區)何(町村)何番地

何ノ誰

於横濱町會所

共進會委員御中

第二 出品主又ハ其代理人品物を携帶て出張ものハ其出品を本會の委員へ差出し其指揮
を受けて陳列方をなすへ

第三 横濱にて委託人を撰定出品を送り陳列方を委託ものハ其委託人より該品を本會の
委員に差出し其指揮を受陳列方をなすへ

但し出品者の便利を謀り横濱の生系商人をよび茶商人などにて同所本町六丁目八十
四番地生系検査所に生系繭茶出品委託引受所を設け出品の取扱ひを致候に付該引受
所へ出品を輸送て委託ハ出品主の便宜とする所にまかすへ

第二條 該會の委員事務掛へ向直に送致し出品到着ば包装のまゝ預り置出品主或ハ代理人
申出次第之を引渡す應し尤も運送中ハ損傷の兆効外包の上ハ顯れしものハ運送を受負者
へ戻し置へ

第三條 出品の荷を開き及び陳列方ハ出品主或ハ代理人の擔當たるべきに付遅くとも開場
五六日前迄ハ横濱へ參着該會の委員へ申出指揮を受へ

第四條 出品を陳列ふ付用ふべき棚檯ハ該會の委員設け置へ尤も出品主の望を以て別ハ
飾臺と自製し裝置んとする者ハ其旨を前以て該會の委員へ申出裝置べき場所の許可
を受へ

第五條 陳列品ハ出品主の商標(繪模標家名などの印)及び賣品非賣品を別並ハ賣價(非
賣品は假ハ賣價を定む)を記すへ

第六條 従前内外の博覽會又ハ他の事由ハて褒賞を得たる品ハ必ず褒詞の寫し或ハ賞牌
の摸型を附へ

第七條 開場後出入便利の爲出品主又ハ代理人委託人へハ門鑑札壹枚づゝ渡し置へ
但し他人へ貸與へからず

第八條 開場中賣買の約定を爲す者ハ證書を取替せ置き散會の期に至り買主へ渡すへ尤
も約定済の品物へハ其事由を記したる小札を附置へ

第九條 閉會後十五日限り出品主或ハ代理人ハ其品物を場外へ搬出すべし
右之通相定候事

年 月 日

〔第一千二百十一〕 明治十二年六月三十日内務大藏兩省布達

甲第六十八號

本年甲第五十號布達生糸繭茶共進會規則第六條中左ノ通改正候條此旨相達候事

生糸
繭茶 共進會規則

第六條 (二種五斤)ヲ(二種一斤)ト改ム

〔第一千二百十二〕 明治十二年七月八日内務大藏兩省布達

甲第七十四號

本年甲第五十號布達生糸繭茶共進會規則第三條第六條中及甲第六十號布達生糸繭茶共進會
會場規則第一條并ニ共進會出品者心得第九條中別紙ノ通改正候條此旨布達候事

別紙

生糸繭茶共進會規則

第三條 (茶ハ本年八月一日ヨリ全月三十一日迄生糸繭ハ十月一日ヨリ全月三十一日迄)ヲ

(茶ハ本年九月十五ヨリ十月十五日迄生糸繭ハ十一月一日ヨリ全月三十日迄)ト改ム

第六條 (茶ハ七月十六日ヨリ全月三十一日迄生糸繭ハ九月十六日ヨリ全月三十日迄)ヲ

(茶ハ八月廿五日ヨリ九月十日迄生糸繭ハ十月十日ヨリ全月廿五日迄)ト改ム

生糸繭茶共進會々場規則

第一條 (改正) 茶ハ本年九月十五日ヨリ十月十五日ニ至ルノ間毎日午前第八時ヨリ第十

二時迄ヲ審査ノ時間ト爲シ第十二時ヨリ第四時三十分迄ヲ入觀ノ時間ト爲ス又生糸繭ハ

本年十一月一日ヨリ全月三十日ニ至ルノ間毎日午前第八時三十分ヨリ第十二時迄ヲ審査

ノ時間ト爲シ第十二時ヨリ第四時迄ヲ入觀ノ時間ト爲ス

共進會出品者心得

第九條 (閉會後十五日限り)ヲ(閉會後十日限り)ト改ム

〔第一千二百十三〕 明治十二年十月六日内務大藏兩省布達

甲第九十九號

本年甲第六十號布達生糸繭茶共進會會場規則第一條へ左ノ通但書追加候條此旨布達候事

但本會事務ノ都合ニ寄り臨時入觀ヲ停止シ又ハ入觀ノ時間ヲ伸縮スルヲアルヘシ

〔第一千二百十四〕 明治十二年十月三十一日内務大藏兩省布達

甲第十三號

來ル明治十三年綿砂糖共進會開設候ニ付規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

別冊

綿砂糖共進會規則

第一條 總則 綿砂糖共進會ハ大坂府下ニ於テ來ル明治十三年二月十五日ニ開キ同四月五日ニ終フ

但事務所ハ同年一月十五日ヨリ開設スヘシ

第二條 本會ニ出品スルモノハ内國人ニシテ該植物ヲ内地ニ耕作スル作主(自作小作ノ別ナシ)ト他ノ甘蔗蘆粟類ヲ買收シテ初製糖(白下ハ初メテ結晶シテ蜜ヲ去リタルモノ)ヲ製造スルモノニ限ルヘシ

第三條 出品ハ毎種之ヲ審査シ其最モ優等ナルモノヘ褒賞ヲ授與ス又其出品ニ就キ特別ノ功勞アル雇農夫又ハ砂糖ノ原質ヲ耕作シテ格別ノ功勞アルモノ、如キハ其出品主ニ非サルモ相當ノ賞ヲ與フルコトアルヘシ

第四條 褒賞ヲ配與スルコト左ノ如シ

第一區 綿

特別名譽ノ賞

一等賞

二等賞

三等賞

四等賞

五等賞

六等賞

七等賞

第二區 砂糖

特別名譽ノ賞

一等賞

二等賞

三等賞

四等賞

五等賞

六等賞

七等賞

第五條 一人ニテ一區内ヘ二三品ヲ出スハ妨ケナシト雖モ褒賞ハ其中ノ高等品ニ限ルヘシ

若シ一人ニテ兩區ヘ出品スルモノ兩區ニテ優等ニ位スル時ハ兩區適當ノ褒賞ヲ與フヘシ

第六條 砂糖ハ原質ト初製糖トヲ出品スヘシ原質(甘蔗蘆粟ハ莖蒸菜ハ根)ハ一種拾本糖ハ拾斤以上二十斤以内トス綿ハ實綿線綿各五百目ト引拔タル儘ノ幹拾本ヲ之ニ添ユヘシ

但シ今回ニ限り原質及綿幹等ノ現存セサルモノハ出品ニ及ハス

第七條 本會ハ各人平常ノ勤勉ヨリ現出スル結果ヲ比較シ之ヲ褒賞勸奨スルモノナレハ該會ニ供ル爲メ故ラニ一時精良ノ品ヲ製シ出陳スヘカラス若シ犯スモノハ其出品ヲ斥ケ陳列スルコトヲ許サス

第八條 出品者ハ出品目錄及申告書ヲ作り遲クモ目錄ハ明治十二年十二月廿八日迄ニ管轄廳ヲ經テ東京内務省勸農局ニ宛郵送スヘク申告書ハ二葉ヲ作り開會當日迄直ニ本會委員ニ差出スヘシ

第十二類 雜則

但目錄書式ト申告書式ハ冊尾ニ附ス

第九條 出品往返ノ運費出品主ノ旅費ハ自費タルヘク場内整頓費及陳列一切ノ費ハ官費タルヘシ

第十條 本會ノ出品ハ委員ニ於テ成ルヘク保護スヘシト雖ヒ盜火難風雷地震等ノ如キ其ノ力ノ及ハサル場合ニ生スル損害ハ總テ出品人ノ損失タルヘシ

第十一條 出品ハ一月廿日ヨリ二月十日迄ニ大坂府下本會事務所ヘ引渡スヘシ但シ出品人或ハ代人出府マテハ荷作ノ儘預リ置クヘシ

第十二條 場内取締ハ委員ノ負擔スル所ナルヲ以テ出品人其他場内ニ在テハ總テ同員ノ指揮ニ違背スルヲ得ス

第十三條 出品人ノ都合ニ依リ代理人ヲ出シ又ハ甲乙聯合シテ惣代人ヲ出スモ妨ナシト雖ヒ成ルヘク丈該品解説ヲナシ得ルモノヲ擇フヘシ

第十四條 會中ニ於テ出品賣買ノ約定ヲ爲スハ勝手ナルヘシ

第十五條 審査之部 審査掛ハ共進會委員ニ於テ作ル所ノ人名表ニヨリ官ヨリ全員ノ半數ヲ撰ヒ出品人ヨリ他ノ半數ヲ投票撰擧セシムルモノトシ審査掛長及書記ハ別ニ官ヨリ命スルモノトス

第十六條 審査掛ハ審査掛長ニ從テ擔當ノ物品ヲ遺漏ナク査閲シ其優劣ヲ審ニシ褒賞ノ等

級ヲ擬按シ掛長ノ譏判ヲ得テ其緣由ヲ記シタル考按書ヲ作リ之ヲ勸農商務兩局長ニ差出スヘシ兩局長ハ協議審按シテ之ヲ裁定シ以テ内務大藏兩卿ニ呈スヘシ

第十七條 審査ハ審査掛員ノ考按多數ニ由テ決スルヲ例トス若シ其考按相協ハスシテ多數ニ決スル能ハサル時ハ掛長其意見ヲ陳シ勸農商務兩局長之ヲ決スヘシ又既ニ多數ニ決シタル者ト雖ヒ兩局長其當ヲ得スト認ムルハ或ハ之ヲ再議セシムルコトアルヘシ

第十八條 褒賞ノ等級ハ左ノ目ニ基キ之ヲ定ムヘシ

- 一 栽培ノ周到
- 一 原質ノ良美
- 一 製方ノ精巧
- 一 額ノ多數
- 一 需用ノ適當
- 一 發明
- 一 功勞

第十九條 審査掛ニ撰ハレタルモノ、出品ハ本人其審査ニ關カルヲ得サルヘシ

第二十條 會場之部 開會中ハ公衆ノ入觀ヲ許ス

但シ會場ノ都合ニ依テ觀客ノ人員ヲ限り又ハ臨時入觀ヲ止ムルヲアルヘシ

第二十一條 觀客ノ場中ニ入ル者ハ必ス通行札ヲ所持スヘシ尤一名一枚ニ限ル但シ滿五歳以下ノ小兒ハ通行札ヲ要セス

第二十二條 通行札ハ一枚金二錢ト定メ場外適宜ノ場ニ於テ賣渡スヘシ入場ノ際必ス之ヲ門

番ニ示シ門番之ヲ收入ス

第廿三條 通行札ヲ所持スル者ト雖モ狂疾或ハ醉客ノ如キ他ノ妨害者ト見受クルトキハ入場ヲ許サス或ハ會場ヨリ立去ラシム可シ

第廿四條 出品主又ハ代理人委託人ヘハ出入便利ノ爲豫テ門鑑一枚ヲ渡シ置ヘシ入場ノ際必ス之ヲ門番ニ示スヘシ

但シ他人ヘ貸與スルヲ許サス

第廿五條 手荷物傘杖等ヲ提携シ又ハ獸類ヲ牽キテ入場スルヲ許サス

第廿六條 場内ニ於テ吸烟ヲ禁ス

第廿七條 觀客ハ總テ出品主又ハ看護人ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ擅ニ物品ニ觸ルヘヲ許サス

第廿八條 出品者心得之部 出品ヲ本會ノ委員ニ向ケ送ルニハ左ノ手續ニ準據スヘシ

第一 出品ヲ本會ノ委員ヘ向ケ直ニ送狀ヲ添輸送ノモノハ其出品主又ハ代理人大坂ヘ出張其品ノ陳列方等ヲ取計フヘシ右送り狀ハ左ノ雛形ノ通タルヘシ

但シ品物遞送賃ハ會場ヘ到着迄ノ分ハ悉皆出品主ヨリ仕拂置決シテ先拂ナドノ手續ヲ以テ輸送スヘカラス

送り狀之事

一何締

付全幹

何目

何本

一初製糖黒又ハ白下

何斤

付甘蔗蘆粟莖又ハ蒸菜根

何本

右ハ共進會荷物書面ノ通り差送り候條着ノ御御預リ置(拙者)或ハ(代理何ノ誰)申出次第御渡有之度候也

但シ大坂某町迄ノ運賃ハ排濟

代理人印影○

本人出張セス代理人ヨリ荷物渡方ノ儀ヲ該會ノ委員ヘ申立候節照シ合セノ爲其印影ヲ書式ノ通り捺シ置ヘシ

年月日

何國何區何村何番地

何

誰

大坂何町

共進會事務所

御中

第二 出品主又ハ其代理人品物ヲ携帶シテ出張ノモノハ其出品ヲ本會ノ委員ヘ差出シ其指揮ヲ受テ陳列方ヲナスヘシ

第三 大坂ニテ委託人ヲ撰ビ出品ヲ送り陳列方ヲ委託スルモノハ其委託人ヨリ該品ヲ本會ノ委員ニ差出シ其指揮ヲ受陳列方ヲナスヘシ

但シ出品者ノ便利ヲ謀リ大坂府下ニ出品委託引受所ヲ設ケ出品ノ取扱ヒヲ致スニ付該引受所ヘ出品ヲ輸送シテ委託スルハ出品主ノ便利ニマカスヘシ(出品委託引受所擔任者ノ姓名ハ追テ本會委員ヨリ報告スヘシ)

第廿九條 該會ノ委員ヘ向ケ直ニ送致スル出品到着スレハ包装ノマ、預リ置出品主或ハ代理人申出次第之ヲ引渡スヘシ尤モ運送中ニ損傷ノ徵外包ノ上ニ顯レシモノハ運送受負者ヘ戻シ置ヘシ

第三十條 出品ノ荷ヲ開キ及ヒ陳列ヲナスハ出品主或ハ代理人總代人等ノ擔當タルヘキニ付運クトモ開場五六日前迄ニ大坂ヘ參着該會ノ委員ヘ申出指揮ヲ受ヘシ

第卅一條 出品ヲ陳列ニ付用フヘキ棚檯ハ該會ノ委員設ケ置ヘシト雖モ出品主ノ望ヲ以テ別ニ飾檯ナトヲ自製シ裝置セントスル者ハ其旨ヲ前以テ該會ノ委員ヘ申出裝置スヘキ場所ノ許可ヲ受ヘシ

第卅二條 陳列品ハ出品主ノ商標(繪摸線家名ナトノ印シ)及ヒ賣品非賣品ヲ別チ并ニ現價

ヲ記スヘシ

第卅三條 従前内外ノ博覽會又ハ他ノ事由ニテ褒賞ヲ得タル品ニハ必ス褒狀ノ寫シ或ハ賞牌ノ摸型又ハ寫圖ヲ附ヘシ

第卅四條 開場中賣買ノ約定ヲ爲ス者ハ証書ヲ取替セ置キ散會ノ期ニ至リ買主ヘ渡スヘシ尤モ約定濟ノ品物ヘハ其事由ヲ記シタル小札ヲ附置ヘシ

第卅五條 閉會後十日限り出品主或ハ代理人總代人委託人ハ其品物ヲ場外ヘ搬出スヘシ右之通相定候事

表 紙

申告書式

用紙ハ普通ノ野紙ヲ用フヘシ
書式ハ朱字ハ出品主ノ之レニ照ラ
シテ書入レヲナスノ略ヲ示ス
書入レ一野書中ニ餘ルモノハ延テ
二三野ニ及フモ妨ケナシ

横筋以下朱書

出品主	何縣下何國郡何町村農工商	何	誰
-----	--------------	---	---

出品名	内國種綿又ハ砂糖白下或ハ黒
產地	何國郡村字何々 <small>自己ノ耕作ニ非スシテ原質ヲ買入製スル者モ テモ亦同シ</small> 其産地ノ分ル丈ハ之ヲ記スヘシ以下諸項ニ於
地質	植土又ハ砂地云々
前期ノ作物	草綿ノ前作ハ麥又ハ休作ノ類ヲ記スヘシ
苗ノ蓄方	甘蔗苗ノ蓄方ヲ記スヘシ
施肥料	石灰 干鰯 摺粕 人糞等ノ類施肥ノ料及用法等ヲ記スヘシ
耕耘方法	人カヲ用フルカ牛馬カ其耕耘ノ仕方ト起反ノ淺深大略ヲ記スヘシ
灌水又ハ排水ノ方法及其器械	水ヲ灌キ又ハ水ヲ排スルノ季節手續等ヲ記スヘシ器械ヲ用フルモノハ其名ヲ記スヘシ
植付ノ期及方法	何月何日頃一坪ニ付凡幾株ヲ植付云々

手入及保護	植付ヨリ收穫迄ノ間雜草ヲ去リ肥料ヲ施シ土ヲ培フ手續ヲ記スヘシ
成熟ノ期	何月何日頃トカ何節前後トカ採リ入レノ季節ヲ記スヘシ若シ障害アツテ故ラニ遅クシ或ハ早クスル類等併セ記スヘシ
製造法	砂糖製造ノ順序方法ヲ記スヘシ
原質及其買入額	原質ヲ買入レ初製糖ヲ製スルモノハ其數及價ヲ此ノ野ニ記スヘシ
製造ノ費額	此ノ項ハ自己ノ耕作品又ハ原質買入ノモノト雖モ初製糖ノ製額及其費額ヲ記スヘシ
作用農具	起反ニハ何鋤ヲ用ヒ草採リ又ハ畝切ニハ何々ヲ用ユルノ類
收穫ノ總高	出品同種ノ收穫高及其價ヲ記スヘシ
褒賞ノ有無	何博覽會ニ出品何賞牌又ハ褒狀ヲ拜受ス或ハ曾テ褒賞ヲ受ケシコナシノ類
耕地ノ廣狹及官私地ノ別	綿カ砂糖カ其出品原質ヲ耕作スル耕地ノ反別ヲ記スヘシ若シ官地拜借又ハ他人ノ地ヲ小作スルナレハ其譯モ記スヘシ

所有地ノ總反別	田何町畑何反山林何町云々出品耕作ノ地モ合セ記スヘシ若シ差支アレハ記サハルモヨシ
地位及地價	該町村ノ等級及一反歩ニ付價幾許ナルヤヲ記スヘシ
作り慣レシ種類	何々ノ患ヲ畏レテ好テ何種ヲ作ル云々ヲ記スヘシ
雇農夫ノ數	何人壹人ニ付一作又ハ一月一年金幾圓ヲ給ス一ケ年總計金何圓
農夫勞働力	壯丁ハ一人一日ノ就業幾時間ニシテ凡ソ田畑幾反歩ヲ耨キ返シ又ハ植付草取ヲナスヲ通常一人ノ働キトス云々
維新以來出品耕作ノ爲官金拜借ノ有無	明治何年本田開墾ノ爲メ金何圓拜借皆納又ハ未納○或ハ去ル何年凶作ニ際シ延納願濟來ル何年皆納ノ筈
家族ノ數	何人内男何人内老幼何人内女何人内廢疾何人全ク農事ニ從フ者何人
賣路	何國何港問屋へ賣却又ハ直ニ東京大坂へ輸出或ハ本村ニテ賣却云々
一反歩耕作ノ費用	農夫ノ給 肥料ノ價 種子ノ價 其他一切ノ費用ヲ舉ケ合計金額ヲ示スヘシ

一反歩ノ總價	收穫上一切ノ利益ヲ合計シ其金額ヲ示スヘシ
右二項ノ差額	益金幾許又ハ損金幾許
出品ニ付格別ノ功勞アル者	此ノ項ハ規則第三條ノ意ヲ体シ其出品主ニ非サルモノ、該出品ニ付キタル功勞ヲ記スヘシ
出品主履歷	何藩ノ時農事出精ニ付褒賞ヲ受ク云々履歷ノ大略ヲ記スヘシ
前書申告之件々相違無之候也	
明治年月日	
出品主	
大坂	
共進會事務所御中	
前書之通相違無之段保証仕候也	
何國何郡何町何村何	
誰(印)	

出品目錄			
品名	所産	斤	目
草綿 實綿 初製黑砂糖白下 類 又 甘蔗莖 蔗粟莖 恭菜根	〔何國郡町村字何々〕 〔何〕 〔幾〕 〔幾〕		〔括弧〕内 朱書 〔何〕 〔目〕 〔本〕 〔斤〕
右御定々期日迄無相違出品候也			
明治年月日	何縣何郡區何町村族籍	苗字	名
大坂共進會事務所御中			
前書之通相違無之候也			

何町村戸長 苗 字 名

第千二百十五 明治十三年三月廿四日內務大藏兩省布達

甲第六號

明治十二年甲第十三號布達綿砂糖共進會規則第二條中初製糖之分註ハ削除候條此旨布達候事

第千二百十六 明治十二年十二月廿五日內務大藏兩省布達

甲第十五號

本年(內務大藏)甲第十三號布達綿砂糖共進會々場及該會事務所之儀今般同府下東橫堀博物
場下相定候條此旨布達候事

物價表

第千二百十七 明治八年六月廿八日大藏省達

乙第九十號(貸下ノ部ニ編ス故ニ略ス)

第千二百十八 明治十一年三月二日大藏省達

乙第十二號

府 縣

各月米麥大豆其他ノ物品相場書ノ儀於當省照會ノ筋有之候條當三月分ヨリ以降年々従前ノ
振合ニ取調每翌月十五日限可差出此旨相達候事

但本年一月二月分ハ三月分ト一同可差出事
〔第千二百十九〕 明治十一年八月五日大藏省達

乙第四十一號

府 縣

各月米麥大豆其他物品相場書ノ儀本年七月以降ハ各町村ヨリ差出候相場書本紙ハ差出ニ不
及其應ヘ備置別紙雛形ノ通節略シ三ヶ月分取經メ翌月十五日限り可差立候此旨相達候事

別紙

〔括弧内朱書〕

〔相場立箇所及ヒ品種多數ニテ一紙ニ編製シ難キ分ハ數紙ニ取調一綴ニシテ差出スヘシ〕
明治 何年 自何月 至何月 物價表 何府 縣

同 何村	何國何郡 何町			町村名	月數	上 何 品	中 何 品	下 何 品
	九月	八月	七月					
						〔圖所限其月中ノ平均價 格ヲ掲クヘシ以下同シ〕	〔同上〕	〔同上〕

何國何郡 何村	何國何郡 何町			何國何郡 何村	何國何郡 何町	何國何郡 何村	何國何郡 何町	上 何 品 〔上下コレアル品ハ 此振合ニ認ムヘシ〕	下 何 品
	九月	八月	七月						

〔各品トモ上中下ノ區別ナ
キ分ハ此振合ニ認ムヘシ〕

〔餘ハ此振合ニ倣フヘシ〕

博覽會

〔第一千二百二十〕 明治三年六月十三日布告

英國都府龍動ニ於テ來未年四月頃ヨリ毎年五ヶ月間博覽會有之右ハ各國商人銘々製作物品ノ精巧ヲ示シ誂品等可引受爲ニ有之候ニ付テハ府藩縣商人共親ク誂物等可引受見込モ有之自カヲ以其品物右會場ヘ差出度者ハ別紙規則書熟覽ノ上管轄府藩縣ヨリ來ル七月中外務省ヘ可願出候事(規則書略之)

〔第一千二百二十一〕 明治六年十一月四日布告

第三百六十一號

英國龍動府ニ於テ每歲博覽會ニ付各地方物品差出方手續等博覽會事務局ヨリ指揮ニ及ヒ候條此旨布告候事

但明治七年出品書目ハ別紙ノ通候條差出度望ノ者ハ各地方廳ニ於テ取調本月三十日迄ニ同局ヘ申出物品檢査ヲ可受事

明治七年英國博覽會出品

一「レイヌ」(但シ手製并ニ機械製共)

「金銀モール」婦人ノ領ニ用ル編ミ物ノ類

一陸上建築並ニ家作ノ方法

〔イ〕陸上建築並ニ家作法

〔ロ〕健康ヲ導ク仕掛並ニ製作法

〔ハ〕壁塗リ並ニ漆喰ノ仕事

一革

〔イ〕革並ニ革ノ細工物

〔ロ〕鞍革並ニ「ハルチス」(甲冑或ハ馬具足ノ類)

一諸種ノ人造光輝瓦斯並ニ其製造法

一諸種ノ本綴ノ仕方

以上ニ用ル諸機械並ニ諸元質圖説

〔第一千二百二十二〕 明治十一年一月十五日內務省達

乙第二號

藩 府 縣

明治十年(一月)當省甲第一號布達內國勸業博覽會出品總目錄並會場通行札賣上代價之金額自費出品人エ給與之義ハ左之方法ヲ以施行候條右金額出品人エ可割渡此旨相達候事

出品總目錄並通行札賣上代價自費出品人エ配與方法

第十三類 博覽會

一 出品人申立之原價

一 外箱代并荷造費

一 運賃並物品取次所手数料

右之金額ヲ合算シ之ニ應シテ出品總目錄並會場通行札賣上代價之惣額ヲ割與スヘシ

一 東京府下之出品ハ前條之合算法ヲ用ヒス之ニ代ルニ本人申立之賣價ヲ以テ原價並雜費ヲ

合算シタルモノト見做スヘシ

〔第一千二百二十三〕 明治十一年四月二日內務省布達

甲第九號

明治十年內國勸業博覽會ニ於テ授與ノ賞牌ハ受領人ノ適宜ニ任セ右賞牌ノ寫ヲ製造ノ物品又ハ其外ト包ミ或ハ看板廣告書等ノ類ヘ相付ケ候儀ハ不苦候條此旨爲心得布達候事

〔第一千二百二十四〕 明治十二年四月七日內務大藏兩省布達

甲第六號

第二內國勸業博覽會之儀ハ來ル明治十四年三月一日ヨリ六月三十日マテ東京上野公園內於テ被相開候條此旨布達候事

但諸規則等ハ追テ布達スヘキ事

〔第一千二百二十五〕 明治十二年八月十二日內務大藏兩省布達

甲第十一號

本年內務大藏兩省甲第六號布達第二回內國勸業博覽會諸規則別冊之通相定候條此旨布達候

事

別冊

第二回(明治十四年)內國勸業博覽會規則

第一條 第二回內國勸業博覽會ハ明治十四年三月一日ヨリ六月三十日マテ東京上野公園內

ニ於テ開ク可シ

第二條 會場ハ三月一日ヨリ四月十五日迄ハ午前第九時ニ開キ午後第四時ニ閉チ四月十六

日ヨリ六月三十日迄ハ午前第八時ニ開キ午後第五時ニ閉ヘシ

第三條 動物館ハ五月一日ヨリ同月十五日迄開クヘシ

第四條 內國所産ノ物品ハ天產人工ヲ論セス之ヲ出品スルヲ得ヘシト雖モ明治十年ノ會

ニ陳列セシ物品ヲ其儘再出スルヲ許サス殊ニ人工物ハ明治十一年一月以後ノ製造品ニ限

ルヘシ尤會場ニ於テ腐敗スヘキ食物及ヒ危險汚穢醜體等ノ物品ハ之ヲ出スヲ禁ス

但現出品比較ノ爲メ明治十年已前ノ品ヲ添出スハ妨ナシトス尤其添品ハ賣却スルヲ許

サス

第五條 外國品ハ一切人民ヨリ出品スルヲ許サス尤現出品比較ノ爲メ添出スハ妨ナシト雖

第十三類 博覽會

其外國品ハ賣却スルヲ許サス

第六條 總テ出品セント欲スル者ハ其地方廳へ願出許可ヲ受クヘシ該廳ニ於テハ第四條第

五條ニ照準之ヲ許可シ甲號書式ノ通其出品概目錄ヲ作り明治十三年三月限リ内國勸業博

覽會事務局へ差出スヘシ

第七條 出品陳列方ハ別冊區分目錄ノ分類ニ據リ每類其割與スル場所ニ陳列スヘシ尤場所

ハ事務局ニ於テ概目錄ニ依リ其廣狹ヲ定メ適宜ニ配與スヘシ

但割與シタル場所ト雖モ實際ノ都合ニヨリ増減伸縮スルコトアルヘシ

第八條 機械ノ運轉ヲ示ス爲メニ蒸氣ヲ要スルモノハ事務局ニ於テ其準備ヲ爲ス可キニ付

需用ノ馬力ヲ明治十三年三月限リ其地方廳ヲ經テ該局へ通知ス可シ

第九條 重量ノ物品ニシテ故ラニ基礎ノ結構ヲ要シ又ハ一器ニ付數坪ヲ要スル者ハ其重量

及ヒ要用ノ地坪ヲ第八條ノ期限迄ニ同様通知スヘシ

第十條 物品ヲ製造シテ器具ノ功用ヲ示シ若クハ火氣ヲ要スル出品ハ亦第八條ノ期限迄ニ

同様通知スヘシ

第十一條 出品ハ明治十三年十二月一日ヨリ會場ニ搬入スルヲ許シ十四年二月十日ヲ以テ

限リトス尤動物ハ十四年四月二十五日ヨリ同月二十日迄ニ會場ニ送達セシムヘシ

第十二條 出品ハ明治十三年十二月一日ヨリ陳列ヲ許ス尤十四年二月二十八日ヲ限リ必ス

其陳列ヲ終ルヘシ

第十三條 農産中蔬菜果物等生物ノ出品期限ハ追テ頒布スル規則ニ從フヘシ

第十四條 園藝中盆栽類ノ出品ハ二週間ヲ限リ開場中各種交換シテ陳列スヘシ

第十五條 出品本目錄ハ各類ニ分テ追テ頒布スル用紙ニ記載シテ二通ヲ製シ其地方廳ニ差

出スヘシ該廳ニ於テハ之ヲ取纏メ明治十三年十月限リ事務局へ差出スヘシ尤出品番號ハ

各出品人一類毎ニ一號ヨリ始ムヘシ

第十六條 出品ノ總目錄ハ事務局ニ於テ和英兩文ヲ以テ之ヲ印刷發賣スヘシ

第十七條 明治十年ノ出品解説ト異ナルモノ及ヒ始メテ本會ニ出品スルモノハ其解説ヲ差

出スヘシ尤書式ハ都テ同年ノ式ニ倣フヘシ其地方廳ニテハ之レヲ取纏メ十四年二月二十

八日限リ事務局ニ出スヘシ

但産額代價ハ明治十年ヨリ十三年迄年々ノ高或ハ十三年一ケ年ノ總計高ヲ掲グヘシ

第十八條 出品ニハ每品必ス品名工名産地及ヒ出品主ノ住所姓名ヲ記シタル和英對譯ノ小

札ヲ附クヘシ尤札紙ハ豫メ出品主ニ頒與スヘキニ付和文ハ各自ニテ記載シ英文ハ事務局

ニテ記入スヘシ

第十九條 列品中現品ノミニテ其性質功用等ヲ知ル能ハサル者ハ其説明書ヲ添フヘシ且礦物藥品等ニテ分析ヲ經タルモノハ其分析表ヲ附スヘシ

第二十條 列品中賣品ハ成ルヘク其賣價ヲ記載スルヲ要ス尤不賣品ハ事務局ヨリ頒與スル不賣ノ小札ヲ附クヘシ

第二十一條 従前内外博覽會又ハ他ノ事由ニテ褒賞ヲ得タル品ニハ必ス其褒詞ノ寫或ハ賞牌ノ模造ヲ附スヘシ

第二十二條 列品ハ閉會マテ出場ヲ許サス因テ賣買約定ヲ爲ス者ニハ證書ヲ渡シ置キ閉會ノ後ニ至リ其現品ヲ交付スヘシ尤出品主ハ事務局ヨリ頒與スル賣約濟ノ小札ヲ其品ニ附置ク可シ

但色澤形狀ヲ損スヘキモノハ審査濟願ニ因リ出場ヲ許ス可シ

第二十三條 列品中酒類煙草調藥等販賣方成規アル物品ハ其出品人兼テ該營業免許ノモノナレハ別段請賣鑑札申請ニ及ハス場中ニ於テ之ヲ約賣スルヲ得ヘシ尤煙草ハ賣渡ノ節成規ノ印紙ヲ貼用スヘシ

但未タ該營業免許ヲ受ケサル者モ出版スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ販賣セント欲セハ總テ其成規ニ從ヒ免許ヲ受クヘシ

第二十四條 機械館所用ノ外各館内ハ火氣ヲ禁ス

第二十五條 陳列ノ物品ハ事務局ニ於テ相當ノ保護ヲナスト雖モ萬一盜難火災風震等ニ罹リ其他避クヘカラサル事故ニテ破損スルモハ該局其實ニ任セサルモノトス

第二十六條 出品ノ運送陳列飾箱飾布等及ヒ出品主又ハ代理人往返滞在等ノ諸費ハ一切自辨タルヘシ

但有合ノ飾箱ハ事務局ヨリ貸與スヘシ

第二十七條 出品ハ閉會後三十日限り場外ヘ搬出スヘシ

第二十八條 總テ出品管理人ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ陳列ノ物品ニ觸ルハコヲ許サス

第二十九條 事務局ノ允可ナケレハ場中ヲ寫真スルヲ許サス又出品管理人ノ承諾ヲ經スシテ列品ヲ摸寫スルヲ許サス

第三十條 觀客ノ場中ニ入ル者ハ必ス縦覽札ヲ携フヘシ尤一名一枚ニ限ルモノトス

但滿五歳以下ノ小兒ハ縦覽札ヲ要セス

第三十一條 縦覽札ヲ分チテ四種トス

一特別縦覽札

一日曜日縦覽札 紅色

一平日縦覽札 青色

一土曜日縦覽札 白色

代價拾五錢

代價七錢

代價三錢

第三十二條 特別縦覽札ハ一枚ヲ以テ終始會場ニ出入スルヲ得ルト雖モ他人ニ貸與スルヲ許サス但入ル毎ニ必ス之ヲ門番ニ示スヘシ其他ノ縦覽札ハ入場ノ節門番ニ渡スヘキモノ

トス

第三十三條 縦覧札賣捌所ハ便宜ノ地ニ於テ敷ケ所取設クヘシ

第三十四條 縦覧札ヲ携フル者ト雖モ狂疾或ハ酩酊者ト見認ルトキハ入場ヲ許サス或ハ會場ヨリ立去ラシムルコアルヘシ

第三十五條 出品主又ハ代理人ニハ每人門鑑札一枚ヲ下附スヘシ且ツ手傳傭夫等入場ノ節ハ其都度申出ニヨリ其時限リ門鑑ヲ渡スヘシ

但他人ヘ貸與スルヲ許サス

第三十六條 出品中優等ノモノヘハ審査官ノ薦告ニ依リ褒賞ヲ與フヘシ

第三十七條 出品ノ審査ハ明治十四年三月十五日ヨリ始メ五月五日ニ終リ六月一日ヲ以テ褒賞授與ノ式ヲ行フヘシ

第三十八條 出品主ハ別紙乙號書式ニ準シ審査ヲ要スヘキ目的ヲ記載シ明治十四年二月二十八日迄ニ事務局ニ出スヘシ

第三十九條 東京府區内ノ者ヲ除キ望ニ因リテハ賣物店ノ建設ヲ許可スヘシ

〔甲號〕

〔括弧内朱書〕

第二回(明治十四年)内國勸業博覽會出品概目録

〔用紙十三行官用野紙〕

第何區第何類 〔每類別紙ニ記載スヘシ〕

何 府 縣

何品類	何種	何程
〔例〕 礦石類	何種	但一塊何寸 ヨリ何寸迄
皿類	何枚	但徑何尺ヨ リ何寸迄
花瓶	何對	〔長大ノ物品ナレハ上式ニ倣フヘシ〕
内何對	高サ何尺 同何尺ヨリ何尺迄	
何織物	何反	但幅何尺 ヨリ何尺
諸表額面等	何個	但幅何程 長何程
何機械	何個	但容積 何程
米穀粉油等瓶詰物	何個	但何斤 入
生絲類	何把	但絲目何程 ヨリ何程迄
盆裁類	何個	但容積 何程
此他右ニ準スヘシ		

第二回 明治十四年 内國勸業博覽會 諸期限表

開會 同十四年三月一日ヨリ 六月三十日迄 出品主着京十四年一月十五日限

第十三類 博覽會

動物館	十四年五月一日ヨリ 同月十五日迄	動物ノ送達	十四年四月廿五日ヨリ 同月三十日迄
蔬菜果物	期限ハ追テ違スヘシ	出品ノ陳列	十三年十二月一日ヨリ 十四年二月廿八日迄
盆裁類	毎二週間各種交換	出品解説同	二月廿八日限
每日開場	三月一日ヨリ四月十五日迄 午前九時ヨリ午後四時迄 四月十六日ヨリ六月三十日迄 午前八時ヨリ午後五時迄	審査請求目錄同	二月廿八日限
出品概目録	十三年三月限	出品ノ審査	十四年三月十五日ヨリ 同五月五日迄
蒸氣馬力ノ通知同	三月限	褒賞授與	十四年六月一日
重大出品ノ通知同	三月限	色澤形状ヲ報スヘキ出品	審査濟出場
器具ノ運用及ヒ火氣出品ノ通知同	三月限	物品ノ搬出閉會後	三十日限
出品本目錄	十三年十月限	賣物店	十四年三月一日ヨリ 同七月十五日迄
賣店願同	十月限	同店取排閉店後	三十日限
出品ノ搬入	十三年十二月一日ヨリ 十四年二月十日迄		

第二回(明治十四年)内國勸業博覽會地方官心得

第一條 去ル明治十年ノ博覽會ハ本邦創始ノ際ナルヲ以テ各地方物産ノ多寡品類ノ優劣ヲ比較識別スルヲ目途トナセシ故ニ其陳列法モ管轄ニ依リ之ヲ區分セシト雖モ今般第二回ノ博覽會ニ於テハ更ニ其方法ヲ改メ各品ノ種類ニ因リ之ヲ分チテ一區ニ陳列シ觀者ヲシテ一目ノ下ニ精粗巧拙ヲ比較セシメ且出品者各自ノ競争ヲ促スヘキ旨趣ナルニヨリ凡該會ニ關スル者ハ宜シク其意ヲ得テ各種物品ノ區分混淆セサル様整理アラソフヲ要ス

第二條 本會ハ出品製造ノ爲メ資本金ヲ貸與セス又縦覽札代及ヒ出品目錄等ノ賣却代ヲ出品人ニ配與セス

第三條 一社若クハ一人ノ出品ニテ其形質製方トモ同一ノ物品ハ陳列ノ觀ヲ損セサルニ止リ務メテ冗過ナカラシムヘシ

第四條 一村若クハ一地方ノ所産ニテ同種ノ物品ハ其村地ノ名ヲ以テ出品セシムルモ妨ナシ

第五條 創製及ヒ發見ノ物品又ハ性質不分明ノ礫石類等ハ勉メテ出品セシムヘシ

第六條 需用ノ見込アリテ其製法工夫等未タ完全ナラサル物ハ成ルヘク試製出品セシムヘシ

第七條 此會ニ於テ一時ノ利益ヲ得ンコトヲ謀リ平常取扱ハサル品ヲ殊更ニ仕入レ出品賣却スル等ノ心得違無之様篤ト示諭スヘシ

第八條 地方廳ニテ出品スルハ鐵物木石等ノ見本并ニ開墾防建築造船等ノ工事ニ係ルモノハ其主務ノ省局ニ照會シ該省局ニテ出品スレハ地方廳ノ出品ヲ要セス

第九條 出品目録及ヒ解説等ヲ其地方廳ニ於テ整理スルトキハ物品ノ名稱方言其他製造用法等事實ヲ明瞭ナラシムル様注意シテ校正ヲ加フヘシ

第十條 出品者及ヒ製造人ヘハ成ル可キ丈本人ノ出京ヲ勸メ各地ノ出品ヲ實際比較シ本會ノ主旨ニ適セシムルヲ要ス

第十一條 物品輸送ノ節列品賣品ノ區別ヲ明カニシ混雜セサル様注意シテ荷造ヲナサシメ殊ニ出品外箱區類分ケノ符號ヲ差違ナキ様必ス記載セシムヘシ

第十二條 賣店建築ハ數人合併スルモ妨ナシ尤モ合併ハ管轄ノ異同ヲ問ハサルモノトス
第二回(明治十四年)内國勸業博覽會出品者心得

第一條 去る明治十年の内國勸業博覽會は各府縣を以て區別したれども來る十四年は惣て物品の種類を以て區別したとへは陶器は陶器の部漆器は漆器の部と定め各地の陶器漆器は各其部ニ陳列せしむるを以て各品の優劣は一目にて分かり隨ひて評判の可否も著しく自己の榮辱業体の盛衰にも關係することあれば精々其主旨を辨へ務めて無用の雜品を省き専ら實益を著目し一層の進歩を顯はす様心掛くべし

第二條 出品の陳列方は府縣分と違ひ場所の區別多き故出品種類の分ち方一たび違ふとき

は陳列の際に臨み錯亂して引分け難く許多の不都合あるべし依りてはよく心を留めて區分目録の種類分に照り合せ間違へざる様出品目録を作るべし將陳列に取り掛りても位置の取り方飾附等隨ひて隙取るべければ其積りにて早くより取掛らざれば必ず意外に遅延する事あるべし故に精々手練して積送り且つ本人又は代理人等は十四年一月十五日迄に着京し期限迄(十四年二月二十八日)には必ず陳列を終るべし

第三條 出品解説は成る丈精細に書き取るべく尤も十年の解説と相違なければ差出すに及ばざれども其以來格別の増減盛衰等ある者は其事項を書き出すべし否れば審査上にも差支へし殊に機械其外新に工夫したる者等にて親く其運轉効用を示さず其物品のみを陳列する類は説明書なければ觀客も其効用を知る由なく折角の丹精も其詮あかるべし故に成る丈説明書を添ふべし

第四條 凡て出品人製作者等は親く會場に来りて自他の物品を見較べざれば彼我の優劣を知る能はず又商業を弘むる便りともならず詰り博覽會へ出たる功能なきに至るべし故に勉めても會場を來り觀る様にいたし尤も隔遠の地にて容易に出府し難き向等は責めては其同業中申合せ一人たりとも來觀すれば必ず實益多かるべし

第五條 審査官は惣て場中の出品を通覽し其精粗優劣を吟味して優等の物を見定むる者とすされど出品主は各自其夫々の得意ありて其廉めて審査を受けんと思ふ所あるべし

ゝるときは審査官にて其物品を見たるのみかては或は其目的の在る所を知るに及ぶるの憾なしとせず依りて各自其審査を請へんと思ふ目的を審査請求目録に記載して差出すべしとすれば審査官ハ殊お其廉お注意して審査をなすべし

第六條 各出品人より差出たる出品目録ハ事務局お於て取纏め總目録となし開會前に印刷するを以て差出方遅延すれハ右印刷に相漏れ出品の効おかるべし殊お一たひ目録を出したる後變換等ありてハ審査にも漏れ最不都合多かるべし且つ出品に附する小札の品名も注意して目録と相違せざる様いたすべし

第七條 出品の荷造ハ區類を分ちて各別々おあし其類お應えたる左の符號を朱めて外箱に記すべし萬一都合ありて二類以上を同箱お詰合せるときハ其内重かる類の符號を附くべし若し此符號を誤るときハ他の區類と混合し陳列の際大なる困難を生すべしなり故もよく注意すべし

第二回(明治十四年)内國勸業博覽會賣店規則

本會に遠隔の地より出品せし物品販賣の便を計り賣店の規則を設くる左の如し

第一條 會場外に於て賣店建築の地區を設け無税にて貸し與ふべし

第二條 賣店ハ事務局の指圖を受け見苦まからざる様建築すべし

第三條 建築其他賣店に係る一切の費用ハ自費たるべし

第四條 賣品ハ必ず出品と同一の物に限るべし

第五條 賣店を取建んと思ふ者ハ所用の地坪家作等を取調へ繪圖を添へて明治十二年十月限り其地方廳を経て事務局へ願出べし

第六條 賣品中酒類煙草調藥等販賣方成規ある物品は總て其成規に隨ふべし但其店主兼て該營業免許の者なれば別段受賣鑑札申請に及ばずと雖ども何營業免許人何某と記載せる木製の看板を見易き場所に必ず掲示すべし

第七條 一周間毎に賣上げ金高を事務局に届出べし

第八條 賣店は本會開場當日ヨリ閉場後十五日迄開店を許す但閉店の後三十日限り取拂ふべし

第千二百二十六 明治十二年十月八日内務大藏兩省廻達

本年内務大藏兩省甲第十一號布達第二回内國勸業博覽會諸規則ノ内區分目録並ニ區類符號刷成ニ付別冊及送達候也

別冊

第二回(明治十四年)内國勸業博覽會區分目録

第一區 礦業及ヒ冶金術

此區ハ都テ礦業冶金術ノ方法及ヒ其產物ノ性質ヲ示スヲ主トスルモノニシテ製造上

ノ工技ヲ示スモノニアラス故ニ此目的ヲ以テ第二區トノ區別ヲナスヘシ

○第一類 礦石礦物、建築石材、等(但肥料ヲ主トシテ出品スル礦物ハ第五區)

其一 礦石礦物類○金屬、非金屬、又金石學ノ規則ニ準シタル諸礦石ノ類集、寶石類等

其二 燃質礦物○石炭、無煙石炭、硫黃、地瀝青、石腦油、地蠟、并ニ骸炭、精製石腦油、等

其三 建築石材、大理石板石、其他彫刻ノ石材等(但生石及ヒ磨キタル諸品)

其四 石版石、砥石、硯材、其他研磨ノ砂石類(但硯ハ第二區九類)

其五 石膏、石灰、各種ノ漆灰、人造石及ヒ其製品、諸種ノ壁土、其塗見本、等

其六 陶磁玻璃、煉化石、瓦類ノ材料、及ヒ耐熱ノ石材、等

其七 礦泉、鹽泉、等

○第二類 冶金術上ノ製物

其一 製煉ノ金銀○錠子、葉片、線箔、泥、等

其二 製煉ノ銅○錠子、葉片、線及ヒ銅箔、泥、鐵渣、等

其三 金、銀、銅、鐵ヲ除キ製煉ノ諸金屬○鉛、錫、亞鉛、安質、母尼ニッケル等ノ諸種

其四 合セ金類○真鍮、福銅、烏銅、臘銀、白銅、白蠟、等ノ諸種

○第三類 鑛山ノ土工、鑛形、地圖

其一 地上地下ノ工業○坑口、坑道、水道、裝機、礦質、礦脈、ノ驗測、掘採、運搬、放水、通氣、若

クハ照明、爆開、淘汰、等ノ諸方法、及ヒ其裝置、圖式、器具、等(但機械ハ第四區一類)

其二 鑛山及ヒ鑛脈ノ摸形、地圖、統計表、等

第二區 製造品

此區ハ都テ製造品ニ就キ製作ノ巧及ヒ應用ノ便ヲ示スモノトス

○第一類 化學製品及ヒ調劑品

其一 化學上ノ製品○硫酸、硝酸、鹽酸、亞爾加里、剝篤亞斯、曹達、安母尼亞、及ヒ其他ノ炭酸鹽類、各種ノ製鹽、等

其二 化學上ノ藥品及ヒ調劑ノ藥劑

其三 脂油、瓦斯ノ類○各種ノ食油、燈油、機油、獸脂、魚油、等石鹼、蠟燭、燐枝、附木、各種ノ

瓦斯、及ヒ其用法

其四 各種ノ顏料及ヒ染料○墨、朱、胡粉、綠、靛、藍、臘、脂、ペンキ、製漆、印肉、靴墨、等(但染

草類ハ第五區六類)

其五 薰物及ヒ雕料○炷香、香袋、香水、髮膏、香油、紅、白粉、漂白粉、齒磨、等

其六 烽火、烟花製造ノ方法

○第二類 燒窯製品(但美術ヲ示スモノハ第二區)

其一 家具用ノ陶磁器○飲食器、香爐、花瓶、植木鉢、甕、甕、等

- 其二 建築用ノ陶磁器、○煉化石、各種ノ瓦、及ヒ釘隠、引手、等
- 第三類 玻璃器(但前同斷)
- 其一 鏡材、及ヒ粧飾用ノ玻璃
- 其二 各種ノ玻璃器
- 第四類 七寶器(但前同斷)
- 其一 銅器七寶、及ヒ珽瑯器
- 其二 陶磁器七寶
- 第五類 金屬製器(但前同斷)
- 其一 金銀ノ製器
- 其二 銅、錫、鉛、烏銅、麻銀、白銅、真鍮、等ノ器、及ヒ電鍍器、并ニ電氣模造
- 其三 鐵、銑、鐵葉ノ製器
- 第六類 漆器(但前同斷)
- 其一 建築及ヒ家具用ノ漆器
- 其二 雜用粗製ノ漆器
- 第七類 木製及ヒ其他ノ器具
- 其一 指物、挽物、寄木細工、○棚、篋、筒、衣櫃、火鉢、煙草盆、椅子、食卓、書案、書筒、文庫、寢臺、粧

- 臺等(但漆塗ヲ主トスルモノハ都テ前類ニ入ル)
- 其二 各種ノ燈燭、瓦斯燈、及ヒ行燈、提燈、燭臺、手燭、等
- 其三 庖厨諸具、○石爐、塗籠、桶、樽、笊、杓子、飯櫃、入、束子、等其他ノ用品(但銅鐵具ハ第八類)
- 其四 浴室、廁ノ裝置、及ヒ洗濯ノ器具、○盥水風呂、便器、等
- 其五 家室雜作品、○天井、窓框、格子、額縁、戸、障子、襖、箔、簾、屏風、衝立、欄干、階子、梯子、等
- 其六 諸禮式ノ器具、祭具、葬具、等
- 第八類 百工用具、及ヒ利器、諸金物
- 其一 諸匠工ノ用具、○風箱、槌、鐵槌、釘拔、坊鑊、磨革、磨研紙、等
- 其二 各種ノ利器、匙箸類、○鋸、鑿、小刀、剪刀、剃刀、針、紡錘、及ヒ肉叉、食匙、箸、庖丁、等
- 其三 造家用其他ノ金物、○釘、鋸、螺旋、鉸、錠、鍵、蝶鈕、鐵管、金網、楷欄、門柵、及ヒ船艦、車馬ノ鐵具、等
- 其四 日用ノ雜品、○鐵瓶、鍋、釜、銅壺、湯桶、金盞、篩、千能、熨斗、等
- 第九類 動植礦物ノ雜工品
- 其一 竹、麥稈、藤、藤、羊齒、等ノ細工品
- 其二 草細工品、及ヒ染革、等

- 其三 石漆灰ノ細工品、○文鏡、風鏡、硯石、鏡細工、等
- 其四 骨、角、甲、牙、介殼等ノ細工品、
- 其五 刷毛、塵拂、帚、羽帚、網索等
- 其六 書畫用ノ筆、刷子、鉛筆、石筆、鐵筆、等
- 第七 假漆、ペンキ、洋漆、油塗等ノ諸品、及ヒ護謨ノ細工品、
- 第十類 糸及ヒ織物、(但總糸、生糸ヲ除ク)
- 其一 礦物質ノ織物、○金屬線ノ織物、石織糸、硝子糸、及ヒ其織物、
- 其二 藤、蒲、棕毛等ノ織物、○疊表、疊床、花蓆、靴拭、及ヒ諸種ノ敷物、
- 其三 木綿縫糸、染糸等
- 其四 各種ノ綿布、
- 其五 麻糸、及ヒ麻布類、○各種ノ麻糸、麻布、及ヒ紙布、芭蕉布、葛布、樹皮ノ織物、等
- 其六 毛糸、及ヒ毛織物、○フラネル類、フランクット、諸獸毛ノ織物、等
- 其七 絹縫糸、染糸、琴糸等
- 其八 各種ノ絹布、
- 其九 帶地、襟地、手巾、肩巾地、レース、編織物、等
- 其十 金銀糸、組紐、平打紐、兵家用及ヒ各種ノ服飾品、

- 其十一 麻、木綿、毛、絹等ノ窓掛、桌被、敷物、旗幕、暖簾地、等
- 其十二 染形、染色ノ見本、及ヒ其用具、
- 第十一類 衣服及ヒ裝飾
- 其一 祭服、軍服、禮服、常用服、法衣、肌衣、腹掛、股引、夜具、褥、枕、蚊帳、雨衣、等
- 其二 帽、頭巾、傘、日傘、杖、手袋、足袋、靴、下駄、等
- 其三 寶石ノ裝飾品、真珠花輪、笄簪、髮飾、假髮、鬘、頸飾、卸鈕、耳飾、指環、腕環、飾針、扇、圓扇、煙具、名札、入巾着、墜子、懷中物、其他ノ攜帶品、及ヒ各種ノ懷中印材、
- 其四 各種ノ刺繡品、
- 其五 粧奩ノ用具、○銅鏡、眉刷、楊枝、櫛、道具、等
- 其六 遊戲ノ諸具、○撞球、楊弓、蹴鞠、碁、將棋、雙六、雜戯、小兒玩弄物、等
- 其七 錦繪、草雙紙、及ヒ妙技ヲ主トセサル書畫、砂畫、等
- 第十二類 紙、白冊
- 其一 寫字、寫圖、印書、票券、鈔包等、各用ノ紙類、
- 其二 金銀紙、色紙、短冊、詩箋、名刺、戲牌、製本表紙、襖紙、壁紙、摺草紙、油紙、漉紙、寒天紙、并ニ圖寫用布、書絹、等
- 其三 白冊、帳簿、書帙、狀袋、張貫地、水引、元結、等

○第十三類 馬車、荷車、及其屬品（但氣車、農車、ハ第四區及ヒ第五區）

其一 各種ノ乘車、○常用旅行、郵便、乘合等ノ馬車、自轉車、小兒車、人力車、雪車、並ニ轎輿等

其二 各種ノ荷車、

其三 馬車及ヒ乘馬、駄馬ノ用具、○鞭、鞍、鐙、蹄鐵等

○第十四類 教育及ヒ學術ノ器具、

其一 學校及ヒ童子園ノ使用物、及ヒ器具、体操ノ諸具

其二 學校生徒ノ書畫、作文、及ヒ裁縫其他ノ製作品、

其三 書籍、新聞紙、雜誌、教育用ノ圖書、及ヒ習書ノ手本等

其四 地理學ノ器具、裝置、及ヒ圖、雛形、并ニ諸產物ヲ表示スル地圖

其五 動植物學、地質學上ノ諸品、及ヒ圖、雛形、

其六 理化學、天文學、數學、航海術、測量術ノ器具、裝置等

其七 各用ノ尺、度量衡類

其八 各種ノ時辰器類、水漏沙時計、驗晷表等

其九 光線學ノ器具、裝置、及ヒ各種ノ眼鏡類、各種ノ寫真、寫真石板、熱學ノ裝置、

其十 電氣及ヒ電信ノ器具、裝置、

其十一 音樂ノ器具、及ヒ樂器

○第十五類 醫術ノ用器

其一 製藥術ノ器具、及ヒ裝置

其二 內科用ノ器具、

其三 外科用、接骨術、眼科、齒科、及產科ノ器具

其四 義齒、義脚等

其五 病者、傷者、保護ノ器具、解剖ノ圖、及ヒ雛形、統計表等

○第十六類 陸海ノ軍器

其一 軍用銃砲類、及ヒ銃丸（但火藥ヲ除ク）

其二 軍艦、輪重車、及ヒ其屬品、並ニ海陸實測圖等

其三 陸海軍ノ土木、及ヒ圖、雛形、

其四 刀、劍、槍

其五 槍劍演習ノ器具、狩獵ノ火器、室內銃弓矢等

○第十七類 土木建築（但礦業、農業ノ土木ハ除ク）

其一 道路、港口、隄防、橋梁、水道、造船塲等ノ圖、及ヒ雛形、

其二 建築ノ圖案、及ヒ雛形、

其三 鐵道電信ノ建築裝置及ヒ圖、雛形、

○第十八類 諸產業ノ體裁、

其一 諸會社、諸組合ノ規則、其他營業上ニ關スル慣習方法、

其二 諸營業上ニ關スル各種ノ統計表、

第三區 美術

此區ハ彫刻書畫ノ妙技ヲ主トシテ示スモノトス

○第一類 彫鏤

其一 金土、木石、陶磁ノ彫像及ヒ鑄像、并ニ石膏模型、

其二 金屬、木石、牙甲、ノ彫鏤物及ヒ雜俎、并ニ刻碑、

其三 貨幣、賞牌、印刻、

○第二類 刊刻

其一 木版、並ニ其書畫、

其二 石版、銅版、鉛版、等並ニ其書畫、

○第三類 書畫

其一 各種ノ書畫

其二 油畫

其三 織出、繡出、染出ノ書畫、

其四 蒔繪、漆畫、燒繪等

其五 陶磁、玻璃、及ヒ七寶器ノ畫、

○第四類 百工ノ圖案

其一 工藝上製品ノ圖案、並ニ雛形、

其二 建築上裝飾ノ圖案、並ニ雛形、

第四區 機械

此區ハ都テ機械ノ功用ヲ示スヲ主トスルモノトス

○第一類 鑛業、冶金、化學製品ノ機械、

○第二類 金、木、玉、石、工作ノ機械、

○第三類 紡織、裁縫、洗滌等ノ機械、

○第四類 製紙、製革、及ヒ製靴ノ機械、

○第五類 印刷、製本ノ機械、及ヒ活字、

○第六類 瀛力、水力、風力、等ノ發動機械、

○第七類 提水、救火、等ノ機械、

○第八類 播種、收穫、酒、油、茶、糖、烟草等製造ノ機械、

○第九類 製鹽伐氷ノ機械

○第十類 滾球滾車諸船舶及ヒ運搬、溜泳ノ裝置(但軍艦農船漁船ヲ除ク)
第五區

此區ハ農業及ヒ樹林ノ產物ニ就キ其性質所用等ヲ示スヲ主トスルモノトス故ニ此目的ヲ以テ第二區ト區別ヲナスヘシ

○第一類 農圃ノ產物

其一 穀菽類

其二 蔬菜、鹹果、香辛類、及ヒ菌、藻等

其三 煙草、及ヒ其製品

其四 牧草類、及ヒ鳥獸飼養品

其五 藥材類

其六 榨油料、○胡麻、油菜、蓖麻子、落花生等

其七 諸種子類

其八 諸穀菜ノ寫生、及ヒ模造等

○第二類 果園ノ產物

其一 從來栽植セシ果物、○梅、杏、桃、李、梨、林檎、葡萄、石榴、柑、橘、栗、胡桃、銀杏等

其二 近年傳播セシ果物、○苹果、櫻桃、檸檬、扁桃、莓、スグリ、フサスクリ等

其三 果實ノ寫生、及ヒ模造等

○第三類 陸地ノ動物

其一 家畜、○牛、馬、羊、山羊、豕、犬、猫、兔等

其二 家禽、○雞、鶩、鴨、鵝等

其三 蜜蜂、蠶種、蠶、天蠶、樟虫、其他有用ノ諸虫類

其四 農業上有益有害ノ動物類

其五 動物ヲ驅除捕獲スル具、○罟、弓、鳥罟、案山子、鳴子、及ヒ驅蟲藥等(但獵銃ハ第二區十六類)

其六 家畜、家禽、蟲類、等ノ寫生、及ヒ模造

○第四類 水中ノ動物

其一 魚類、爬蟲類、蟹蝦類、介類、及ヒ其他ノ柔軟動物等

其二 養成ノ魚介類、○鮭、鱒、鯉、金魚、牡蠣等

其三 漁船ノ雛形網類、魚籠、筥、釣竿、鉤、銚、其他ノ漁具

其四 魚介等ノ寫生、及ヒ模造

○第五類 貯藏ノ食品

- 其一 各種製造ノ肉類、介類、卵、及ヒ鱈節、鰻、海參、乾魚、魚醬、魚醃、等
 - 其二 乳油、乳餅、粉乳、等
 - 其三 各種貯藏ノ穀、菜、果、實、菌、藻、類
 - 其四 搗研ノ穀類、粉、澱粉、冰餅、索麵、湯波、等
 - 其五 茶、咖啡、等宿根、葎草、及ヒ諸香料
 - 其六 清酒、酒精、濁酒、諸種ノ名酒、味淋、葡萄酒、麥酒、酢、醬油、味噌、麴、等
 - 其七 砂糖、糖蜜、飴、及ヒ蜂蜜
 - 其八 菓子、砂糖漬、乾蒸餅、等
- 第六類 食用外ノ動植物
- 其一 羽毛、皮、革、骨、牙、角、甲、珊瑚、真珠、鯨鬚、鯨皮、鯨膠、海綿、等
 - 其二 動物產ノ藥物○麝香、龍涎香、甲香、等
 - 其三 植物產ノ染色、及ヒ皮革用ノ材料
 - 其四 樹脂、樹膠、柿澁、烏納、樹實、漆實、等
 - 其五 木賊、棕葉、瓢箪、麻莖、黃麻莖、燈心、等
 - 其六 諸物料○海蘿、鹿角菜、黃蜀葵、ノリ、ノ木、等
- 第七類 動植物ノ纖維料

- 其一 諸種ノ繭、及ヒ真綿、生糸、天蠶絲、等
 - 其二 羊毛、山羊毛、馬尾、馬鬃、兔毛、織毛、等
 - 其三 草綿、實綿、綿綿、總糸、其他ノ綿絮、類
 - 其四 麻苧類、苧、蕉、葛、藤、其他ノ纖維料、並ニ其總糸
 - 其五 楮、結香、雁皮、其他製紙ノ材料
 - 其六 線、繩、絞綯、蘭、管、鹹、簞、等、及ヒ諸切料
- 第八類 農業ノ用具（但機械ハ第四區八類）
- 其一 耕作具、○鋤、鍬、犁、耙、等
 - 其二 收穫具、○鎌、刈、鎌、連、耨、耨、鍬、車、等
 - 其三 農產製造器具、○絲、綿、紙、草、酒、油、茶、糖、煙草、等ノ製造具、及ヒ磨、臼、等
 - 其四 農業用ノ雜品、○錢、笠、田、舟、負、木、繩、蓆、叭、苞、等
- 第九類 農業上ノ方案、及ヒ農家ノ建築
- 其一 田圃、果園、牧場ノ方案、放水、澆水、等ノ裝置、及ヒ圖、雛形、
 - 其二 養魚ノ方案、魚、鱸、孳、生ノ裝置、及ヒ動物、驅除、捕獲ノ方案、
 - 其三 農家、及ヒ養蠶、養蜂、飼畜、孵卵、場、等ノ方案、圖、雛形、並ニ其裝置、
 - 其四 農業上ノ地圖、統計表

○第十類 肥料

其一 礦物性ノ肥料

其二 動物性ノ肥料、及ヒ乾糞、鳥糞、等

其三 植物性ノ肥料

○第十一類 樹林ノ產物

其一 各種ノ木材、及ヒ角材、板材、剝板、桤板、附木材、等

其二 各種ノ樹皮、○檜皮、杉皮、樺皮、壽光皮、厚浮皮、等

其三 竹類、○苦竹、淡竹、櫻櫚、蘆、等

其四 薪、炭、灰、火炬、等

其五 樹木ノ種子、苗木、及ヒ腊葉、等

其六 樹林ノ栽培、及ヒ伐採等ノ用具

其七 樹林ノ方案、及ヒ圖、雛形、統計表、等

第六區 園藝

此區ハ都テ園藝上ニ就キ栽培ノ草木、及ヒ其裝置等ヲ示スヲ主トスル者トス

○第一類 草木花卉、及ヒ培養法、庭園ノ裝置

其一 園庭ノ諸草木、及ヒ盆栽、

其二 園庭、及ヒ花壇ノ配置、

其三 園庭ノ裝飾、○燈籠、小亭、藤橋、噴水器、椅榻、等、及ヒ其圖、雛形

其四 園庭、假山、盆池、盆山等ニ用ル木石類

其五 園丁ノ器具、○花鋏、如雨露、庭鋤、等

其六 園丁ノ方案、培養ノ方法、燈室、苗床、仕立鉢、等

出品外箱區類分ノ符號

第一區 鑛業冶金術

○第一類 鑛石鑛物

○第三類 鑛山ノ土工

第二區 製造品

○第一類 化學製品

○第三類 玻璃器

○第五類 金屬製器

○第七類 木具

○第九類 動植物ノ雜品

○第十一類 衣服、及ヒ裝飾

(平假名ハ朱書)

○第二類 冶金術ノ製物

○第二類 燒窯製品

○第四類 七寶器

○第六類 漆器

○第八類 百工用具

○第十類 糸、及ヒ織物

○第十二類 紙、白冊

か第十三類 馬車、荷車	よ第十四類 教育學術ノ器具
九第十五類 醫術上ノ用器	れ第十六類 陸海軍器
ろ第十七類 土木建築	つ第十八類 諸産業ノ體裁
第三區 美術	な第二類 刊刻
ね第一類 彫鏤	む第四類 百工ノ圖案
ら第三類 書畫	
第四區 機械	
う第一類 鑛業冶金ノ機械	う第二類 金木等工作ノ機械
う第三類 紡織裁縫等ノ機械	う第四類 製紙製革ノ機械
う第五類 印刷製本機械	う第六類 瀉力水力等ノ機械
う第七類 提水救火ノ機械	う第八類 播種收穫等ノ機械
う第九類 製鹽伐氷ノ機械	う第十類 瀉車船舶等ノ裝置
第五區 農業	
お第一類 農圃ノ產物	の第二類 果園ノ產物
九第三類 陸地ノ動物	く第四類 水中ノ動物
や第五類 貯藏ノ食品	ま第六類 食用外ノ動物產物

け第七類 動植ノ織繅料	ふ第八類 農業ノ用具
こ第九類 農業上ノ方案建築	の第十類 肥料
て第十一類 樹林ノ產物	
第六區 園藝	
お第一類 草木花卉及ヒ培養法庭園ノ裝置	
〔第一千二百二十七〕 明治十三年三月二十六日內務大藏兩省布達	
甲第七號	
第二回內國勸業博覽會規則中第十三條蔬菜果物等生物ノ出品期限ハ五月一日ヨリ同月二十日迄日數二十日間ト相定候條此旨布達候事	
〔第一千二百二十八〕 明治十三年五月十二日內國勸業博覽會事務局達	
乙第壹號	府 縣
第二回(明治十四年)內國勸業博覽會事務ニ關スル伺届等以來拙者宛直ニ內國勸業博覽會事務局へ可差出此旨相達候事	
〔第一千二百二十九〕 明治十三年五月十四日內國勸業博覽會事務局布達	
甲第壹號	
第二回內國勸業博覽會規則第三十八條乙號書式別紙之通相定候條此旨布達候事	

別紙

〔乙號〕

〔審査請求目錄書式〕

料紙美濃紙

〔括弧〕内朱書

審査請求目錄

〔審査請求目錄ハ類中一二三ノ小區別毎ニ別紙ニ認メ正副二通ヲ差出スヘシ〕

第何類ノ何區	出品人何	〔府縣〕下何國何郡何町
何番	何ノ誰印	
〔出品目錄ノ番號ヲ記ス〕	〔品名〕	賣價何圓何錢
〔審査ヲ乞フ目的ヲ記ス譬ハ織物ナレハ織方カ地合カ編柄或ハ摸線カ或ハ他ノ品ト比較シテ其價ノ廉ナルカノ類又陶磁器ナレハ地質カ形狀カ書或ハ摸線カノ類其他ノ物品モ右ニ準シテ各其主トスル所ヲ記スヘシ又其主トスル所ニ廉或ハ三四廉アルモ悉皆之ヲ記入シテ妨ナシ〕	〔品名〕	賣價何圓何錢
〔同前〕	〔同前〕	〔同前〕

〔第一千二百三十〕

明治十三年六月七日内國勸業博覽會事務局達

乙第二號

府

縣

第一條 第二回内國勸業博覽會會場建物及出品陳列位置別紙圖面之通豫定セリ但其建物坪數左ノ如シ

第一區 礦業及ヒ冶金術 併セテ一館トス

第二區 製造品

第三區 美術 分類ノ位置未定

第四區 機械 分類ノ位置未定

第五區 農業

此陳列場建物總坪數八百坪

此陳列場建物總坪數千二百九十三坪

此陳列場建物總坪數千四百四十三坪

第十三類 博覽會

第一千二百三十一 明治十三年九月十一日內國勸業博覽會事務局布達

甲第二號

(明治十四年)內國勸業博覽會出品中教育方法ニ係ル分類ハ相除キ有之候處詮議ノ次第有之
第二區中更ニ第十九類ヲ增加シ職業學校教授順序ヲ示スヘキ一類ヲ差加ヘ候條此旨布達候
事

但二區第十四類其他ニ教育及ヒ學術ノ器具等出陳スヘキ分類有之候得共右ハ全ク其器具
製造ノ技量ヲ示スモノニシテ增加十九類ノ出品トハ其性質相異ナルモノニ付其意旨了解
シ出品可致事

第二回(明治十四年)內國勸業博覽會區分目錄追加

第二區

○第十九類 職業學校ノ方法ヲ示ス爲メ教授順序ヲ追テ其裝置ヲナスモノトシ平常教授
ノ諸器械(或ハ雛形繪圖)及該校建築圖等仍テ内地ニ製シ得サル器具ハ海外
品ヲ取交ニルモ妨ケナシ

其一 礦業學校教則及ヒ裝置

其二 工業學校教則及ヒ裝置

其三 農業學校教則及ヒ裝置

第十三類 博覽會

千九十三

其四 商業學校教則及ヒ裝置

第一千二百三十二 明治十二年九月二十二日達

第三十五號

官省院使府縣

來ル明治十四年第二回内國勸業博覽會開設ニ付各廳ニ於テ勸業上切要ノ物品書類等該會事務局ヘ照會ノ上出品可致尤右ニ属スル費用ハ各廳經費ヨリ支出候儀ト可心得此旨相達候事
但内務大藏兩省甲第十一號布達ノ諸規則ニ照準可致事

第一千二百三十三

明治十三年十二月廿八日内國勸業博覽會事務局布達

甲第三號

第二回内國勸業博覽會規則第十四條及第三十六條ヘ左ノ通但書追加候條此旨布達候事

第十四條 但本條出品ノ審査ヲ請ハントスルモノハ明治十四年五月五日迄ニ出品陳列スヘシ

第三十六條 但諸書籍及ヒ新聞紙雜誌等都テ論說紀事若クハ文章ヲ主トスルモノ并ニ諸賣

藥類ハ審査ヲ加ヘス

第一千二百三十四

明治十三年十二月廿一日内國勸業博覽會事務局達

乙第四號

府 縣

第二回内國勸業博覽會審査條例別紙之通相定候條此旨相達候事

別紙

審査條例

第一條 審査官ハ各分掌スル所ニ從ヒ列品ヲ點查シテ其優劣ヲ判テ褒賞ヲ擬按シ所屬部長ヲ經テ之ヲ總長ニ稟告スヘシ總長各部長及ヒ第五條ノ特撰報告員并ニ事務官長ヲ會シテ討議シ之ヲ裁定シテ總裁ニ申告スヘシ

第二條 審査官ノ分掌ハ總長各部長ト協議シ出品ノ區分ニ從ヒ之ヲ各部類ニ配賦スヘシ

第三條 審査官ノ擬按ハ多數ニ由テ之ヲ決ス可シ可相半スルキハ決ヲ部長ニ取ル若シ第一條ノ會議ニ於テ審査官ノ擬按ヲ認可スヘカラスト定斷スルキハ總長之ヲ却下シテ再議セシメ再議仍ホ認可スヘカラサレハ之ヲ廢棄シテ親ヲ判決スヘシ

第四條 審査官ハ少クモ三名以上(部長ヲ除ク)ニアラサレハ擬按ヲ決シ及ヒ之ヲ稟申スルヲ得ス

第五條 總長ノ意見ニ由リ審査官中ヨリ報告員ヲ特撰シテ報告書ヲ作ラシムヘシ

第六條 審査官ハ自ら擔任管理シテ出陳スル所ノ物品ヲ審査シ及ヒ之ニ發言スルヲ得ス

第七條 審査官ハ其所要ノ調査ヲナスカ爲メ同類ノ審査官過半同意スルニ於テハ他類ノ審査官ヲ假用シ又ハ品評人ヲ採用スルヲ得ヘシ

第八條 前條他類ノ審査官又ハ品評人ヲ要スルキハ檢査官之ヲ部長ニ申請シ部長ヨリ總長

ニ察識シテ之ヲ命スヘシ但品評人ハ褒賞ヲ擬按スルノ權ナシ

第九條 比較ノ爲メ出陳セル明治十年以前ノ製品及ヒ外國ノ製品ハ審査ヲ加ヘス

第十條 褒賞ハ總長ノ申告ニ由リテ總裁之ヲ授與スヘシ

第十一條 褒賞ハ比較對照シテ其優逸ナルモノニ附與スルモノトス其種類次ノ如シ

第一 名譽賞牌 (金造)

全國ニ冠絶シ名譽ヲ海外ニ輝カスニ足ルヘキモノニ與フ

第二 進歩賞牌 (銅造)

維新以來殊ニ明治十年内國勸業博覽會以後ノ發明改良等ニ因リテ著シク進歩ヲ徵スルモノニ與フ

第三 妙技賞牌 (銅造)

美術品ノ特ニ精巧ナルモノニ與フ

第四 有功賞牌 (銅造)

物産ヲ増殖シ販路ヲ弘メ沽價ヲ低クシ或ハ便益ノ機械器具ヲ適用シ其他模造移植等ニ因テ功勞アルモノ若クハ從來ノ方法ニ由テ製出スルモノ他ノ出品ニ比シテ特ニ優等ナルモノ及ヒ製品ノ雅致アリテ他ノ意匠ヲ資クルニ足ルモノニ與フ

第五 協贊賞牌 (銅造)

物品ノ采集考案ノ指示其他出品製造ノ事ニ與リ協助ノ功アルモノニ與フ

第六 褒狀

前記ノ賞牌ニ亞キ優異ナルモノニ與フ

以上ノ褒賞ニハ審査官ノ記述セル薦告文ヲ附シ其褒賞スヘキ事由ヲ明示スヘシ但褒賞ヲ授與シタル後其受領者ヨリ物品ノ再查ヲ請ヒ若クハ薦告ノ文意ヲ更改セシヨリ望ムモ之ヲ許サス

第十二條 褒賞ハ一個ノ物品ニ就キ數個ノ褒賞ヲ併セ與フルコトナシ其出品人製造人ト相異リ若クハ協贊人アルモノハ或ハ其一人ニ授與シ或ハ各自ニ授與スルコトアルヘシ

第十三條 省使府縣其他諸官署ノ出品ニ係ルモノハ其官署ヨリ審査ヲ請求スルニアラサレハ審査ヲ加ヘス

第一千二百二十五 明治十二年一月十七日布告

第二號

本年八月中英國屬地豪斯太刺里ニウ、ソース、ウエールス洲シドニ一府ニ於テ萬國博覽會開設ニ付御國人民望ノ者ハ出品差許候條内務省ヘ可申出此旨布告候事

但該會規則書ノ儀ハ追テ同省ヨリ頒布ニ可及事

第一千二百三十六 明治十二年二月廿一日内務省布達

甲第二號

豪州シドニー府博覽會規則摘要及出品者心得別紙之通ニ候條此旨布達候事
但別紙之外本會規則詳細之儀ハ出品人直ニ當省博覽會掛ヘ出頭閱覽可致事

別紙

豪州シドニー府萬國博覽會規則摘要

第一條 シドニー府ノ萬國博覽會ハ同府農業會社ノ管理ヲ以テ開設スルモノトス

第二條 博覽會ハ「シドニー府」プリンス、アルフレット、公園ニ於テ建築セシ家屋ニテ開場ス

第三條 本會出品ニテ同府博覽掛書記官ニ宛輸送セル諸物品ハ全ク輸入税ヲ免ス

第四條 農業ノ部ニハ賞金及ヒ印刷セル襖狀ヲ授與シ農業外ノ部ニハ銀及ヒ銅製ノ賞牌並ニ勸賞證書ヲ授與ス

第五條 出品ハ都テ賣買ヲ許可ス然レモ閉場後ニアラサレハ之ヲ搬移スルヲ禁ス

第六條 本會ノ區分ハ左ノ如シ

第一部 農業ノ部

第一區 馬

第二區 家畜

第三區 羊

第四區 豚

第五區 家禽

第六區 犬

第七區 羊毛

第八區 葡萄酒

第九區 砂糖

第十區 農業產物 穀物、植物根、製乳、植物油等

第十一區 園藝產物 植物、果實、花卉、野菜

第十二區 肥料

第十三區 農業器具及機械

第十四區 生絲、纖維物及烟草

第二部 農業外ノ部

第一區 美術 圖畫、彫刻、寫真

第二區 技藝器具及用法 紙、墨、印刷、樂器、外科器具、測量器等

第三區 家具其他雜品 家具、玻璃、陶磁器、利器、裝飾器、玩具等

第四區 衣服地織物及服飾 衣服、刺繡、靴類

第五區 礦業產物及山林產物 礦物、化學製、品、脂蠟、木材、藥品、皮革等

第六區 一般工業ノ器械裝置及其順序 金、木、葦、石製造品ノ精、工ナルモノヲ賞スル、爲メニス

第七區 生熟各種保漬食物

第八區 工匠褒賞 工ナルモノヲ賞スル、爲メニス

第九區 學校褒賞 諸生徒ノ製品、博物學、物品類聚等

第七條 該會ハ本年即一千八百七十九年八月一日ヲ以テ開場スヘシ

第八條 凡ソ諸規則中何條ニテモ出品主若シ故意ヲ以テ違犯シ行政議官其違犯ヲ確認スルトキハ其出品主該會ニ出品スルヲ得ス

第九條 開場中若クハ閉場後未出品ヲ搬出セサル際之ヲ約賣シ又ハ糶賣スレハ博覽會資本金トシテ賣價百分一ノ手数料ヲ全一ヶ月内ニ會社ニ納ムヘシ
出品者心得

本年八月中英國屬地豪洲「ニツ、ソー、スウエルズ」洲「シドニー」府ニ於テ萬國博覽會開興ニ付人民望ノ者へ出品差許サレ候旨今般第二號ヲ以テ布告相成候處豪洲ノ地ハ人民中猶其景況ヲ知ラサル者モ可有之抑該洲ハ開國以來日猶淺シト雖モ其土地豐饒ニシテ頗ル物産ニ富ミ人民方ニ競フテ開化ニ趨クノ風アリ而シテ「シドニー」府ハ「メルホルン」府ニ亞キ繁盛ノ都會ニシテ航路ノ「メルホルン」ヨリ近キ「ニ」日程實ニ我邦ト海ヲ隔テ相隣リ其距離歐洲ノ半ニ過キス故ニ即今我物産販賣ノ路ヲ開クニ於テ最適應ノ地ニシテ將來貿易ノ盛大ヲ期スヘシ但彼地現今ノ狀況タル專ラ殖産ヲ勉ムルニアルヲ以テ我邦ノ出品者モ亦日用常需廉價ナル普通ノ物品ヲ目的トシ務メテ後來ノ輸出ヲ圖ルヘキ「肝要ナリ然レモ美術ノ物品ニシテ名譽ヲ取ルヘキモノハ（蒔繪裝飾陶磁器及ヒ彫刻器等）別ニ相當ノ精功品ヲ相撰ミ出品スルモ素ヨリ妨ケナカルヘシ就テハ出品願出其他ノ手續ハ都テ左ノ箇條ノ通心得ヘシ

一 出品望ノ者ハ出品目錄ヲ作り來ルル四月十五日限其地方廳ノ添書ヲ以テ當省へ申出ヘシ

一 出品人或ハ代人ノ渡航セント欲スルモノハ前條同様四月十五日限當省へ申立ヘシ當省於テハ其人員ニ應シテ之ヲ許否スヘシ

但本人又ハ代人共航渡セサルモノハ他ノ出品人へ委託スル旨ヲ同日届出ヘシ

一 出品人或ハ代人ノ渡航往返旅費ハ官ヨリ給與スヘシ

一 出品人代人共御國內往返旅費東京滞在入費並ニ彼地滞在中宿料食料諸雜費都テ自費タルベシ

一 列品飾箱飾蓋敷布並ニ列品ニ付工匠人足履賃等ハ都テ自費タルヘシ

一 御國輸出税及ヒ持歸リ品ノ輸入税トモ一切免除タルヘシ

一 天産人造物ニ限ラス其品ノ著説ヲ附スヘシ其例

一 天産物見出し人名年曆產地一年ノ産額及物質用法等

一 人造物漸古發明人名年曆（産製）地一年ノ製額物質製法用法沿革元價賣價外國輸出高等

一 出品目錄ハ第一書式ニ照準シ規則書ノ總區類ヲ通シテ順次ニ物品ノ番號ヲ附シ正副二通ヲ製シ差出スヘシ

但物品ニハ目錄ニ照シ必ス其番號ヲ付スベシ

一 入記目錄ハ第二書式ニ準シ調製一通ハ其箱ニ入レ外ニ二通ハ箱詰終リ次第速ニ當省博覽

費額ノ都合ニヨリ適宜之ヲ減省スヘシ

第千二百二十八 明治十二年六月六日布告

第二十號

來明治十二年十月中英國屬地豪洲ウイクトリヤ國メルホルン府ニ於テ萬國博覽會開設ニ付御國人民望ノ者ハ出品差許候條內務大藏兩省ヘ可申出此旨布告候事

但本會規則書ノ儀ハ追テ同省ヨリ頒布ニ可及事

第千二百二十九 明治十二年十二月廿二日內務大藏兩省布達

甲第十四號

豪洲メルホルン府博覽會出品規則別紙之通ニ候條此旨布達候事

別紙

豪洲メルホルン博覽會出品規則

本年第貳拾號布告ヲ以テ豪洲メルホルン府萬國博覽會ヘ出品差許サレ候處右出品ノ手續等ハ都テ左ノ箇條ノ通心得ヘシ

第一條 メルホルン府ノ景況ハ「シドニー」府ト大抵相同キニツキ都テ「シドニー」府博覽會同様ノ目的ヲ以テ出品スヘシ

第二條 出品望ノ者ハ出品目錄ヲ作り其地方廳ノ添書ヲ以テ明治十二年四月二十日限(內務大藏)省博覽會掛ニ申出ヘシ

第三條 出品人或ハ代人ノ渡航ヲ望ム者ハ前條ノ期限ニ同掛ヘ申立ヘシ同省於テハ其人員ヲ定メテ往返ノ渡航費ヲ給與スヘシ此人員外ハ都テ自費渡航ト心得ヘシ

但本人又ハ代人トモ渡航セサルモノハ必ス他ノ渡航出品人ニ委託シ本文ノ期限ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條 出品人代人トモ御國內往返旅費滞在費並ニ彼地滞在中ノ諸費ハ一切自辦タルヘシ

第五條 出品ノ運送貨藏敷及ヒ彼地諸稅等ハ都テ自辦タルヘシト雖モ出品賣殘リノ分持歸ノ運賃ハ官ヨリ給與スヘシ

第六條 列品普通ノ飾箱敷布等ハ官ニテ相備ヘ且ツ飾附ノ人足賃及ヒ場内ノ掃除トモ都テ官費タルヘシ尤特別ノ飾箱飾附等ヲ要スルハ自費タルヘシ

第七條 御國輸出稅及ヒ特種リ品ノ輸入稅トモ一切免除タルヘシ

第八條 天產人造物ニ限ラス其ノ品ノ著說ヲ附スヘシ其例

一天產物發見人名年曆產地一年ノ產額及ヒ物賃用法等

一人造物新古發明人名年曆(產製)地一年ノ製額物質製法用法沿革原價賣價外國輸出高等

シ必ス其番號ヲ附スヘシ

第十條 出品目錄入記目錄トモ各二通ヲ博覽會掛ニ差出スヘシ

但出品目錄ノ用紙ハ官ヨリ下附スヘキニ付地方廳ニ於テ豫メ其需要ノ數ヲ計リ來十二年二月限同掛ニ照會スヘシ

第十一條 該會規則ノ摘要ハ左ノ如シ

第一 メルホルン府萬國博覽會ハ一千八百八十年(明治十二年)十月一日ヲ以テ開場シ一千八百八十一年(明治十四年)三月三十一日ヲ以テ閉場スヘシ

第二 博覽會々館ハ「メルホルン」府「カルトン」園中ニ於テ建築スヘシ

第三 出品物ハ無稅タルヘシ列品ハ特別ノ事故アラサレハ閉場マテ搬出ヲ許サス

第四 物品ヲ館内ニ搬入スルハ一千八百八十年六月一日ヨリ始メ同年八月三十一日ヲ過クレハ之ヲ許サス

第五 非賣品ハ其由ヲ標記スヘシ審査官ハ之ヲ檢査セサルモノトス

第六 諸危害或ハ國法ニ觸ル、モノハ出品ヲ許サス

第七 褒賞ハ金銀及ヒ銅ノ賞牌ヲ以テシ之ニ褒賞証狀ト審査官特殊ノ説明書ヲ添フヘシ

第八 列品ノ區分ハ左ノ如シ

第一大區

美術製品

第一小區 油繪

第二小區 各種ノ畫

第三小區 彫鏤

第四小區 建築圖案

第五小區 彫刻及石版

教育心藝

第六小區 兒童ノ教育

第七小區 中等教育及用具

第八小區 高等教育及用具

第九小區 印刷書冊

第十小區 文房具製本

第十一小區 繪圖及製作雛形

第十二小區 寫真

第十三小區 音樂器具

第十四小區 醫術器具

第十五小區 數學及理學器具

第十六小區 地理天文ノ裝置

第三大區

室內什具

第十七小區 廉價ノ家具檯、椅、桌、燈、鏡、等

第十八小區 室內裝飾器具、椅子、窓框等

第十九小區 玻璃器

第二十小區 陶器類

第二十一小區 敷氈及織物ノ家具

第二十二小區 紙製品

第二十三小區 利器

第二十四小區 鍛製品、銀器

第二十五小區 鑄製品

第二十六小區 時計類

第十三類 博覽會

第二十七小區 燈燭照明ノ裝置 第二十八小區 蕪物類香水香油等
第二十九小區 軍工及漆器牙甲竹麥稗細工等

第四大區

織物服飾

第三十小區 木綿絲及織物 第三十一小區 亞麻々等ノ絲及織物
第三十二小區 線絲及編物 第三十三小區 毛絲及織物
第三十四小區 絹絲及織物 第三十五小區 肩巾
第三十六小區 レース、綉刺繡 第三十七小區 莫大小製品扇傘杖等
第三十八小區 男女ノ衣服靴類 第三十九小區 貴金寶玉細工品
第四十小區 武器獵火器 第四十一小區 旅裝及軍營裝置
第四十二小區 玩弄品

第五大區

未製品及製造品

第四十三小區 樹林產物 第四十四小區 漁獵產物及器具
第四十五小區 材料ノ農產物 第四十六小區 化學製品
第四十七小區 漂白染印ノ法式 第四十八小區 皮革
第四十九小區 耕作開城樹林 裁縫ノ裝置
第五十小區 農產製造ノ裝置

第六大區

機械裝置

第五十一小區 化學製糖業皮工ノ 第五十二小區 諸般ノ機械及裝置
第五十三小區 器械製造ノ諸具 第五十四小區 紡絲及綉索ノ裝置
第五十五小區 機械ノ裝置 第五十六小區 裁縫製靴ノ裝置
第五十七小區 家具製作ノ裝置 第五十八小區 製紙印花ノ裝置
第五十九小區 各種製品ノ器械 第六十小區 馬車及車輪
第六十一小區 馬具類 第六十二小區 瀛車ノ裝置
第六十三小區 電信ノ裝置 第六十四小區 土木建築ノ裝置
第六十五小區 航海及生命救助ノ裝置 第六十六小區 軍用裝置

第七大區

食養產物

第六十七小區 穀物及粉製食物 第六十八小區 麵包類
第六十九小區 脂油牛乳ノ產物 第七十小區 肉類及魚類
第七十一小區 植物及果類 第七十二小區 香料砂糖茶咖啡等
第七十三小區 釀造飲料

第八大區

農業

第四十四小區 農家及農產製場ノ雛形

第九大區

園藝

第七十五小區 燧室及園藝器具

第七十六小區 花卉及粧飾草木

第七十七小區 植物

第七十八小區 果實及果樹

第七十九小區 種子及苗木

第八十小區 燧室ノ草木

第十六區

鑛業機械及產物

第八十一小區 鑛業冶金ノ器具

第八十二小區 鑛業及冶金術

〔第一千二百四十一〕

明治十三年二月十二日內務大藏兩省布達

甲第二號

昨明治十二年十二月二十二日甲第十四號布達臺灣メルホルン府博覽會出品規則第二條第三條左之通改正候條此旨更ニ布達候事

第二條 出品望ノ者ハ出品概目錄ヲ作り其地方廳ノ添書ヲ以テ本年三月十五日限り(內務

大藏)省博覽會掛ニ申出事務官ノ許可ヲ受ク可シ但許可ヲ受ケタルモノハ更ニ本目錄ヲ作り五月十五日限り同掛ヘ差出スヘシ

第三條 (前條ノ期限)ヲ(本年五月十五日迄)ト改ム

〔第一千二百四十一〕

明治十三年三月十二日內務大藏兩省布達

甲第四號

明治十二年十二月二十二日甲第十四號布達臺灣メルホルン府博覽會出品規則第五條左之通

改正候條此旨布達候事

第五條 出品持渡リ片道運賃ハ官ヨリ給與スヘシ尤賣殘リ品持歸運賃藏取料及ヒ彼地諸稅等ハ自費タルヘシ

〔第一千二百四十二〕

明治十三年一月廿六日內務省布達

甲第一號

博物館列品觸手縱覽望ノ者ハ內國人民ニ限り開館式日ノ外特別縱覽差許候條此旨布達候事但縱覽順序ハ博物館ニ於テ相定ムル條款ニ據ルヘシ

〔第一千二百四十三〕

明治十二年七月廿日內國勸業博覽會事務局達

乙第三號

府 縣

本局ノ儀來ル八月一日ヨリ東京上野公園内ヘ移轉候條此旨相達候事

正誤

四百五十九丁一行	四百三十四丁一行	四百三十一丁四行	四百二十九丁九行	四百二十五丁	四百二十一丁十行	四百二十丁三行	四百五丁十一行	四百二十二行	三百八十四丁五行	三百七十二丁八行	百三十二丁九行	百十七丁十行	五十七丁表中	四十一丁十一行	三十丁八行	六丁十五行	三丁十六行
書而ハ書面	回後ハ回シ	致リハ致シ	百八ハ百	第六圖ノ中出張ノ下所ヲ脱ス	セルノ下トヲ脱ス	取講ハ講取	同帳ハ同様	費ハ算	避ハ臨	額外常ノ下費ヲ脱ス	税ハ程	迫テハ追テ	官長ハ長官	スモルハスルモ	フエニルノ下ヲ脱ス	虎列ノ下勅ハ刺	速ノ下ヲハ衍

四百六十五丁十一行 候ノ下事ヲ脱ス
 四百六十七丁十行 延ノ下シハキ
 四百七十五丁八行 割註經費金ノ中一ハ經費外
 五百四十九丁十六行 違ノ下候ヲ脱ス
 七百十四丁 金何程ノ下藩何藩ハ舊何藩
 七百三十七丁二行 過ヲハ過テ
 同 丁八行 證書ヲハ證書ヲ
 七百九十六丁四行 熊合ハ熊谷
 八百六丁四行 貳拾ハ貳拾
 八百二十二丁五行 割註明ノ下治ヲ脱ス
 八百二十六丁一行 國力ノ下ヲ脱ス
 九百四十七丁四行 スルトハスルノ
 九百七十七丁二行 區ノ下々ヲ脱ス
 千十二丁八行 條六條ハ第六條
 千三十八丁十六行 十五ノ下日ヲ脱ス

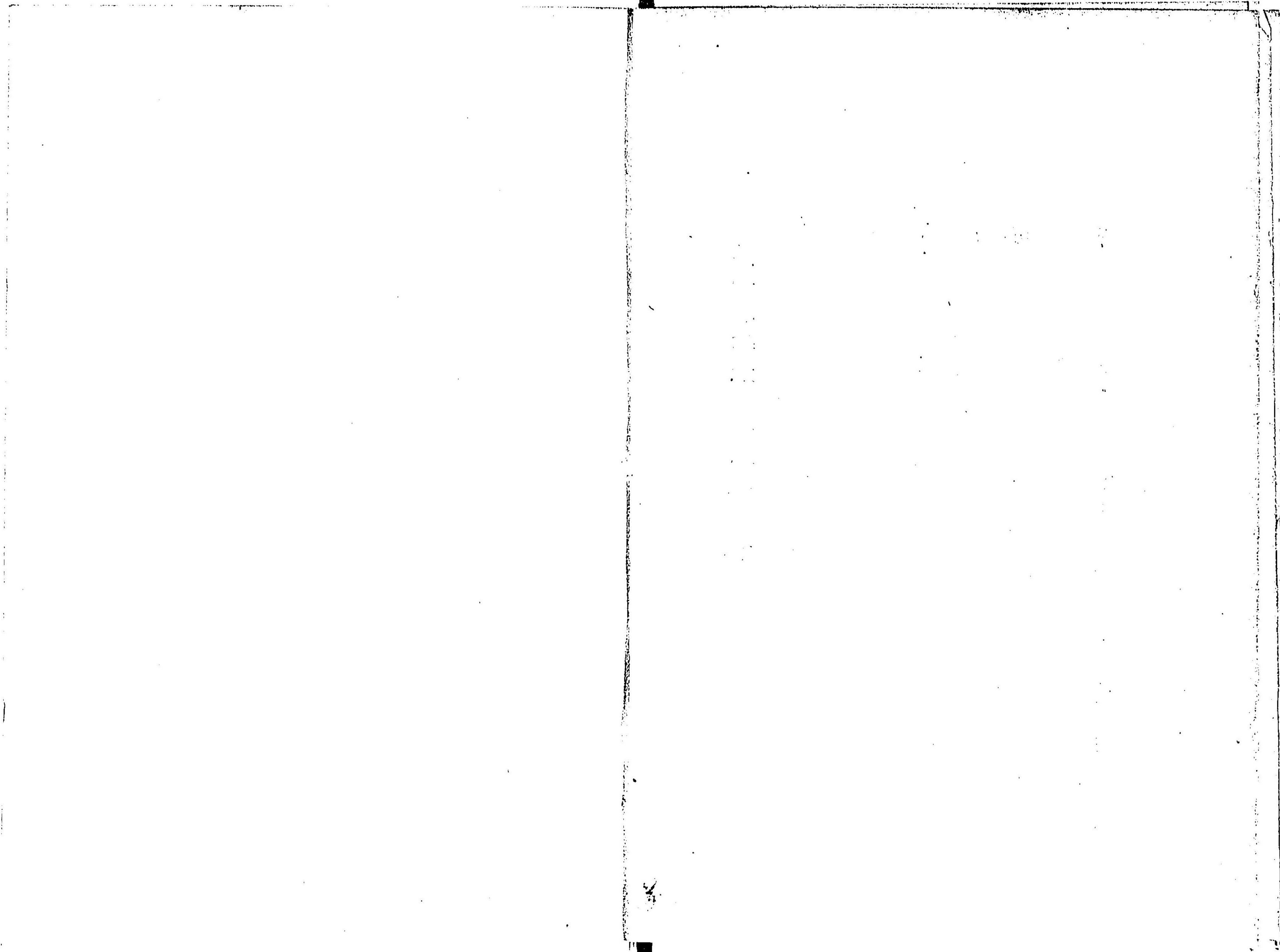
明治十七年二月二十三日出版御届

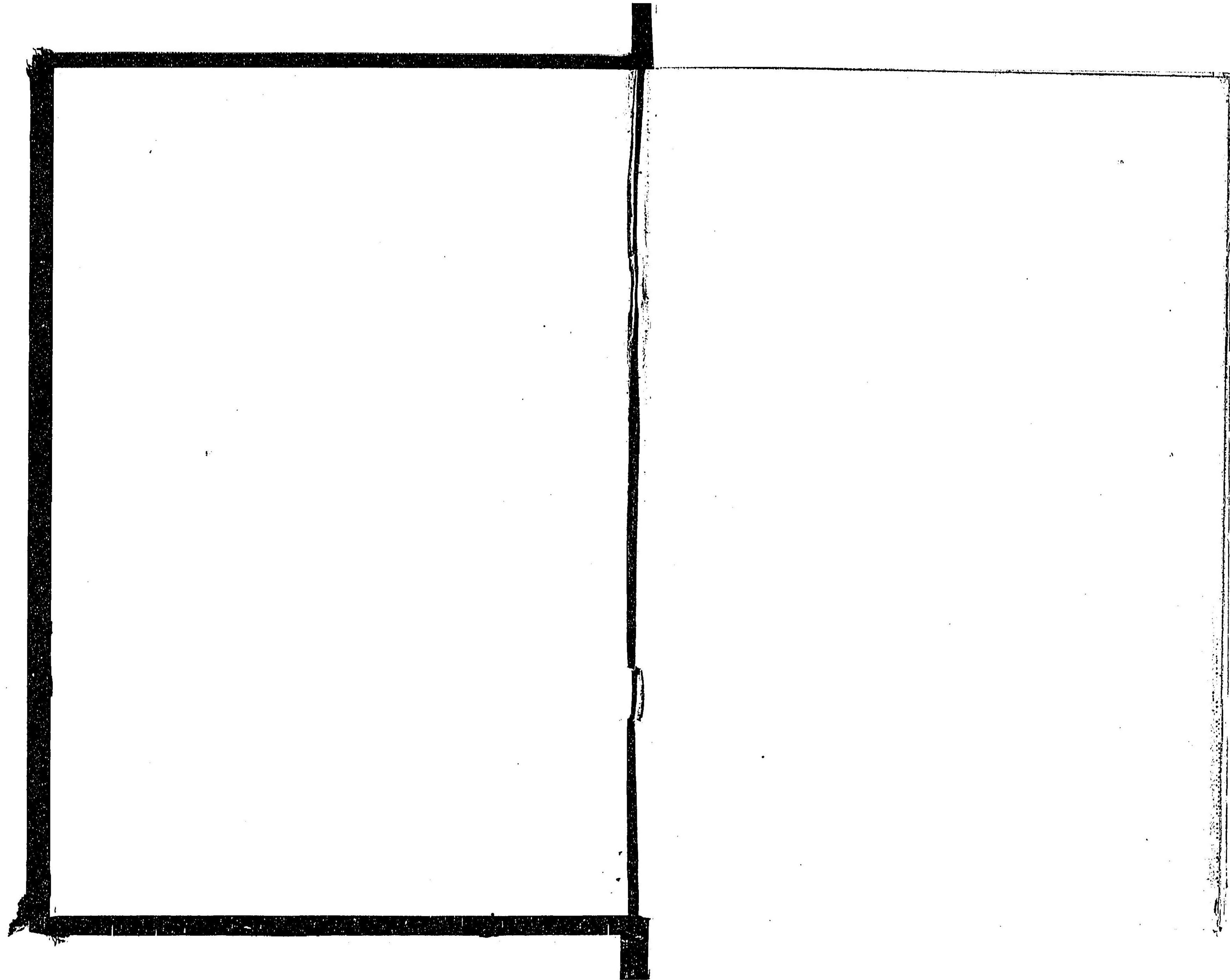
編纂并出版人

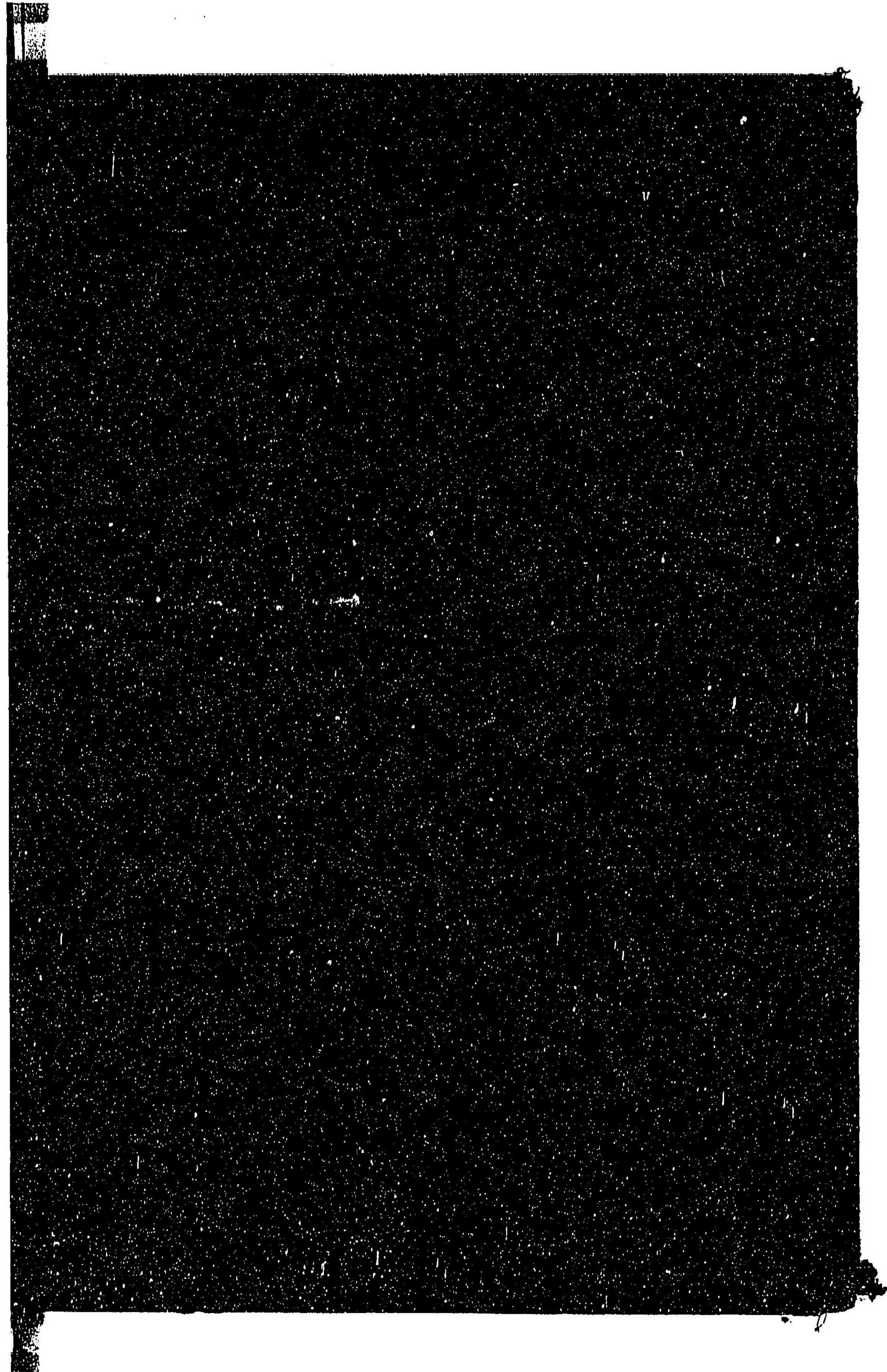
兵庫縣士族 長尾景彌

府下芝區愛宕下町 三丁目壹番地寄留

賣	東京銀坐四丁目	博聞本社
	大坂心齋橋通南	全分社
	久寶寺町四丁目	全分社
弘	千葉縣下千葉	全分社
	埼玉縣下浦和	全分社
所	神戸榮町四丁目	長尾商店

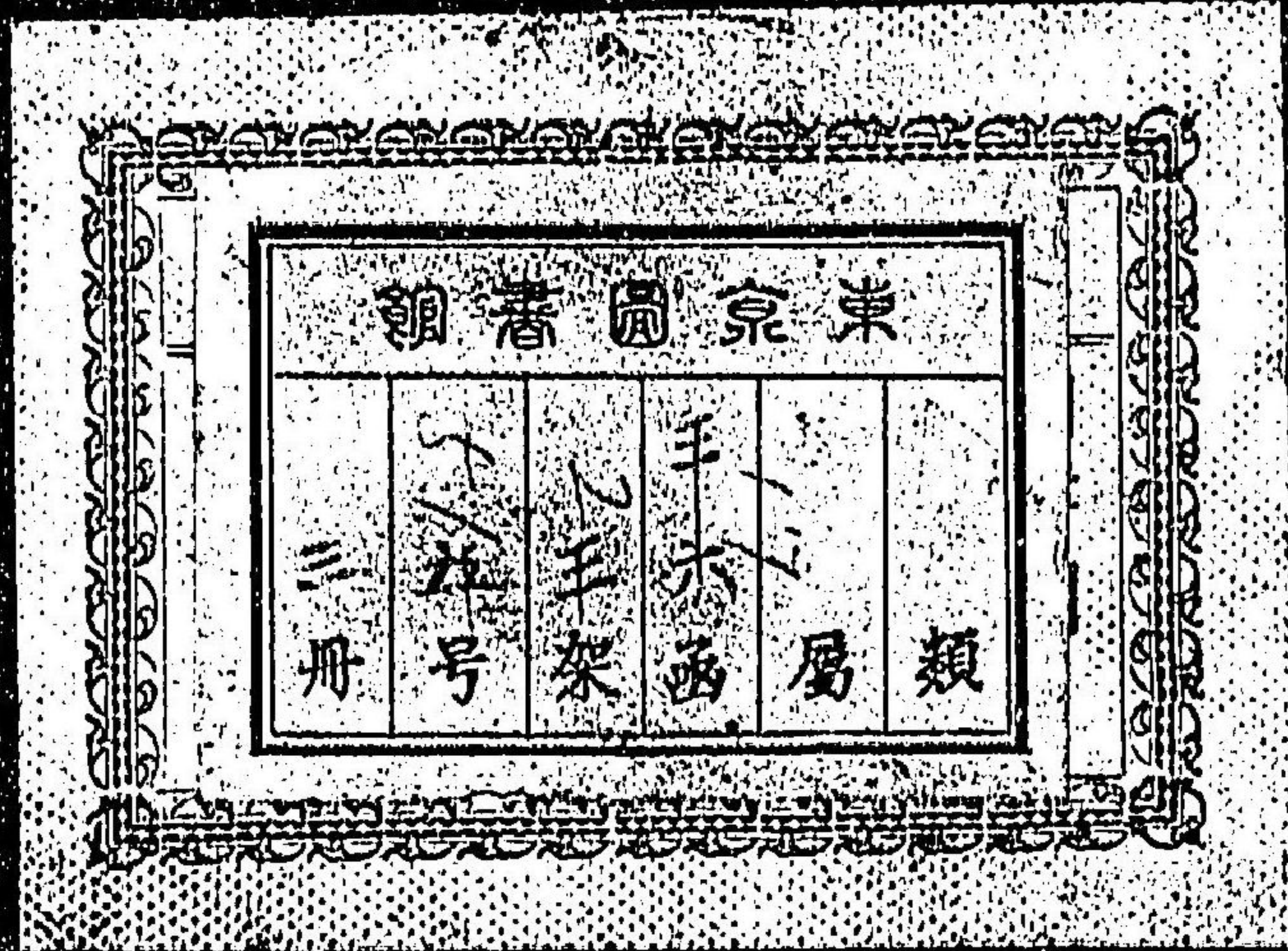






14.7

19



禁電子式複写

